

高鍋町男女共同参画プラン策定のための町民意識調査
アンケート結果報告書

平成27年9月
高鍋町

目次

はじめに.....	1
第1章 一般アンケート調査結果.....	2
○回答者の属性.....	2
1. 結婚や家庭生活について.....	4
2. 就業について.....	20
3. 地域・社会活動について.....	36
4. 男女平等意識について.....	47
5. DV(ドメスティックバイオレンス)防止について.....	52
第2章 小中学生アンケート調査結果.....	60

はじめに

1. 調査の目的

平成23年度に策定した「高鍋町男女共同参画プラン【改訂版】」が目標年度を迎えたことから、新しいプランの策定に向けての基礎資料とするため、町民意識調査を実施した。

2. 調査の方法

(1) 調査対象

一般アンケート

高鍋町内在住の20歳以上の男女2,000人を無作為に抽出。

小中学生アンケート

高鍋東小学校、高鍋西小学校、高鍋東中学校、高鍋西中学校:357通

(2) 調査期間

平成27年6月22日～平成27年7月10日

(3) 調査方法

一般アンケート

郵送で調査票を配布、記入後返送

小中学生アンケート

学校で配布し、記入後回収

3. 回答数

一般アンケート

776通(配布2,000通):回収率38.8%

小中学生アンケート

357通:回収率100%

・一般アンケート回答者の内訳

(単位:人)

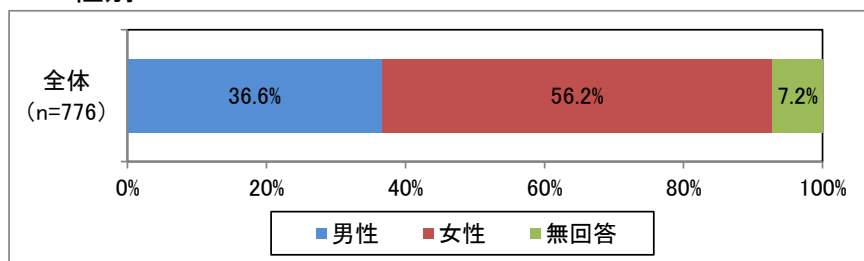
	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無回答	合計
男性	21	40	23	49	83	67	1	284
女性	37	55	53	69	132	88	2	436
無回答	0	1	4	2	19	23	7	56
男女合計	58	96	80	120	234	178	10	776

第1章 一般アンケート調査結果

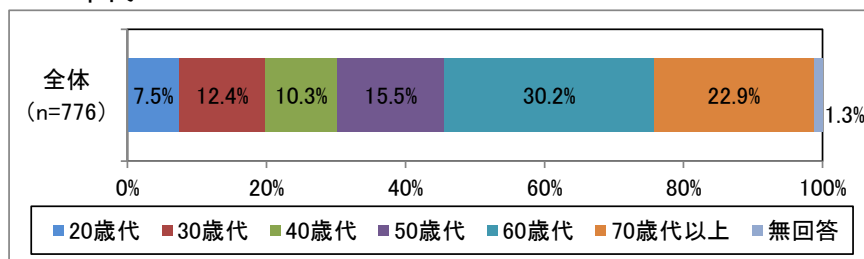
○回答者の属性

- ・回答者のうち、女性は56.2%、男性は36.6%となっている。
- ・年代別では「60歳代」(30.2%)の割合が最も高く、次いで「70歳以上」(22.9%)となっている。
- ・職業は、「無職」(24.5%)、「会社員・団体職員」(21.5%)の割合が高くなっている。
- ・住まいは「6地区」の割合(22.3%)が高くなっている。

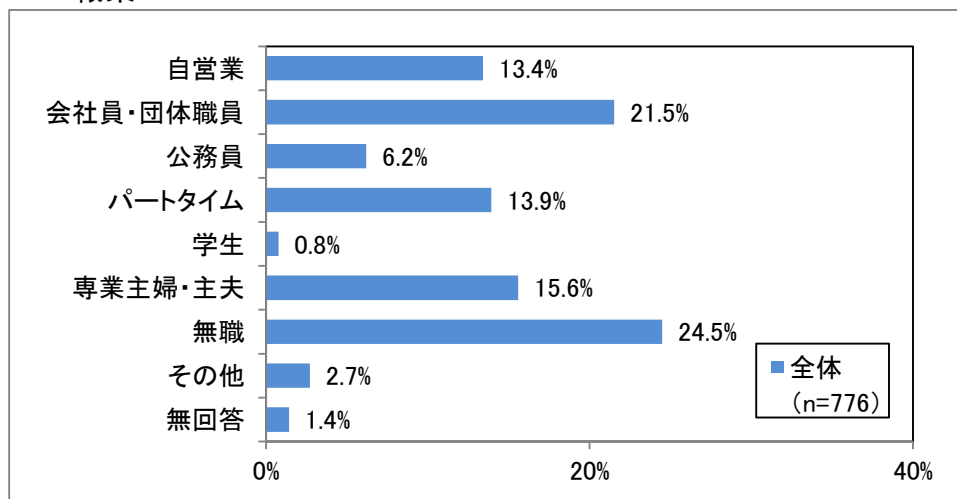
1. 性別



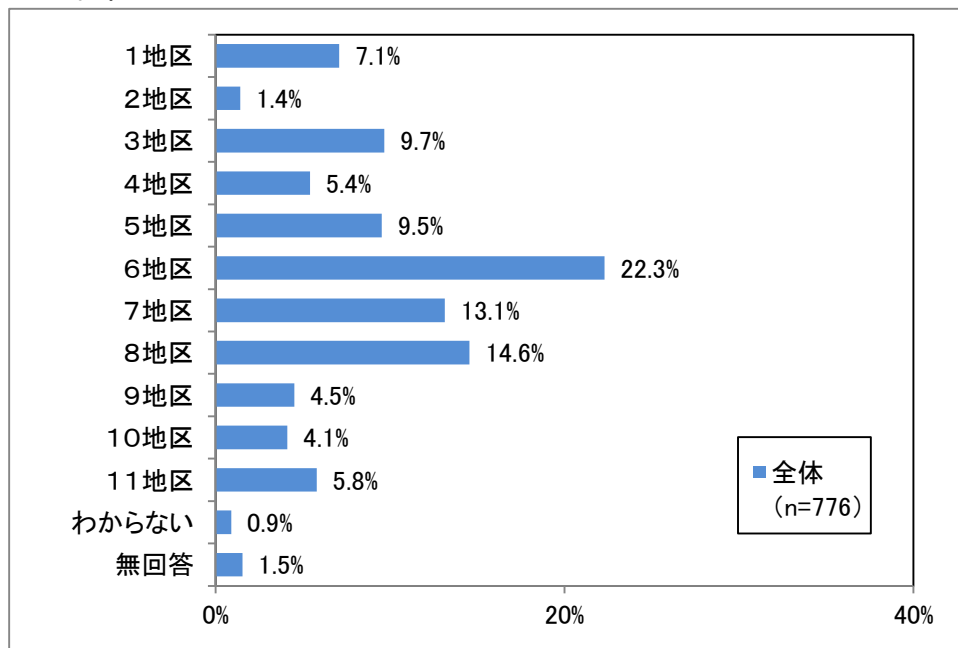
2. 年代



3. 職業



4. お住まいの地区

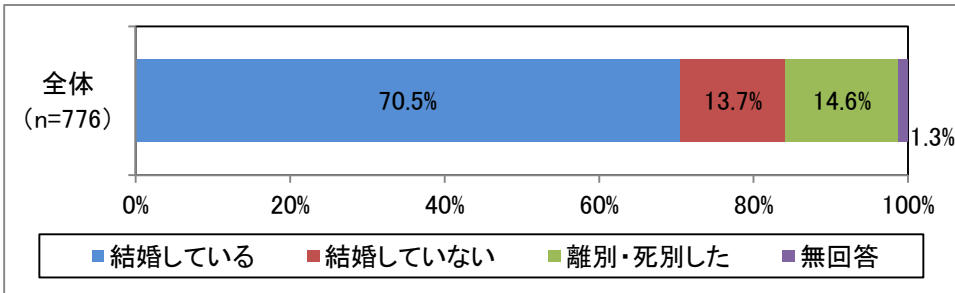


1. 結婚や家庭生活について

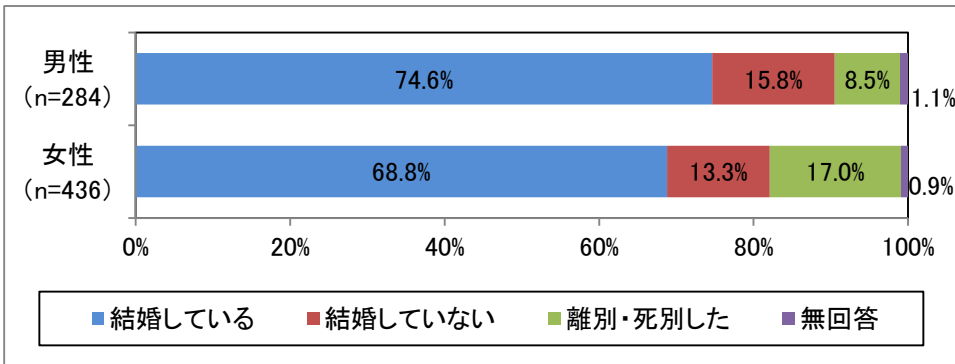
問1. あなたは結婚されていますか？

- ・「結婚している人」は7割となっている。
- ・男女別でみると、「結婚している人」の割合は男性で74.6%、女性で68.8%となっている。

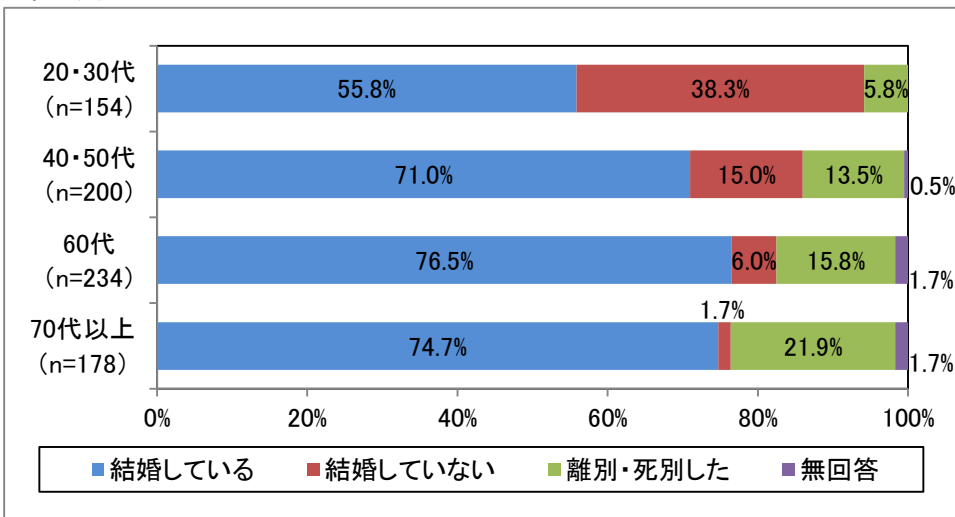
・全体



・男女別



・年代別

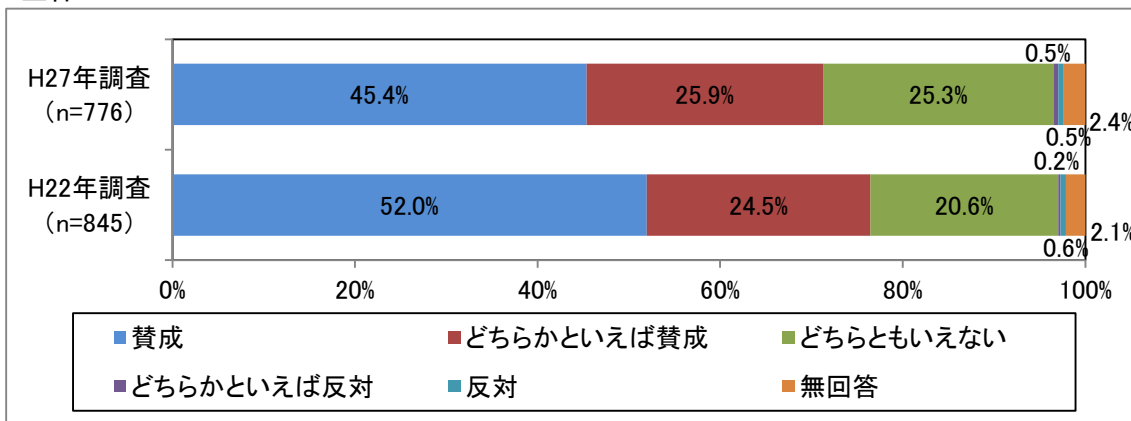


問2. 結婚に対する考え方A・Bについて、あなたの考え方に近いものを選んでください。

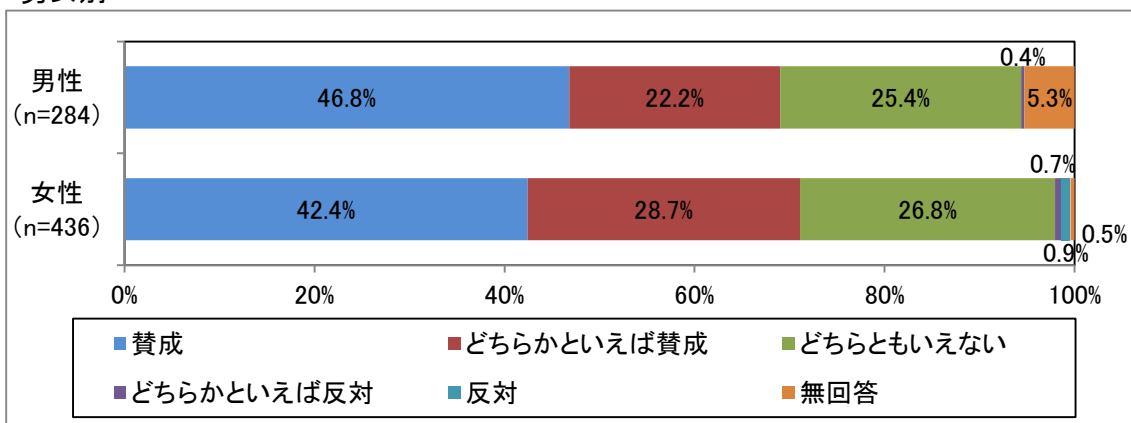
A. 女性は結婚して子どもを持ったほうが良い

- ・「賛成」「どちらかといえば賛成」の割合は71.3%で前回(76.5%)とほぼ同じとなっている。男女別でも同じ傾向を示している。
- ・年代別では、年代が高くなるにつれて「賛成」の割合が高くなっている。

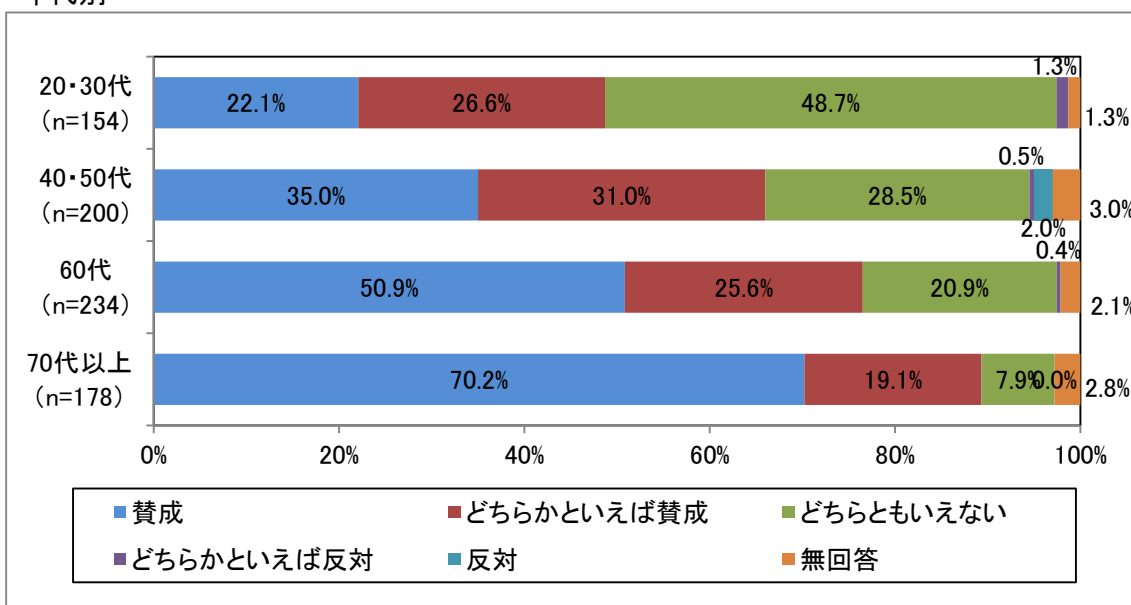
・全体



・男女別



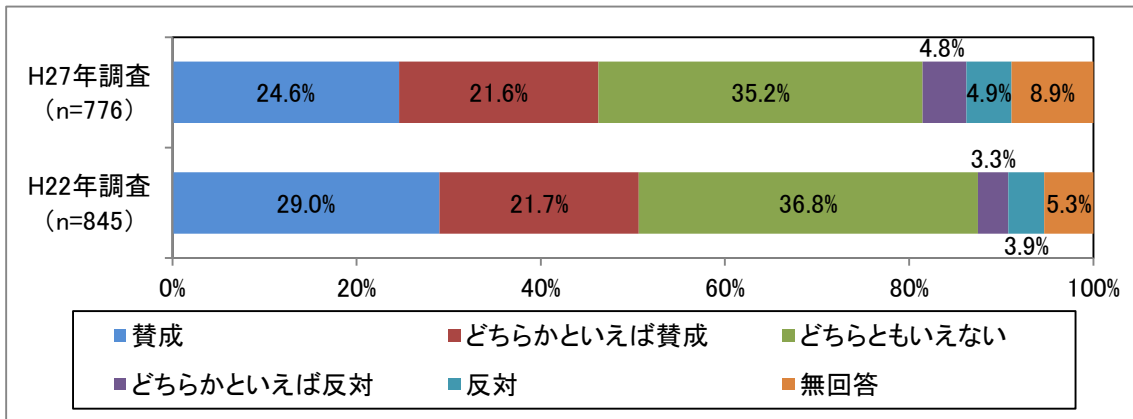
・年代別



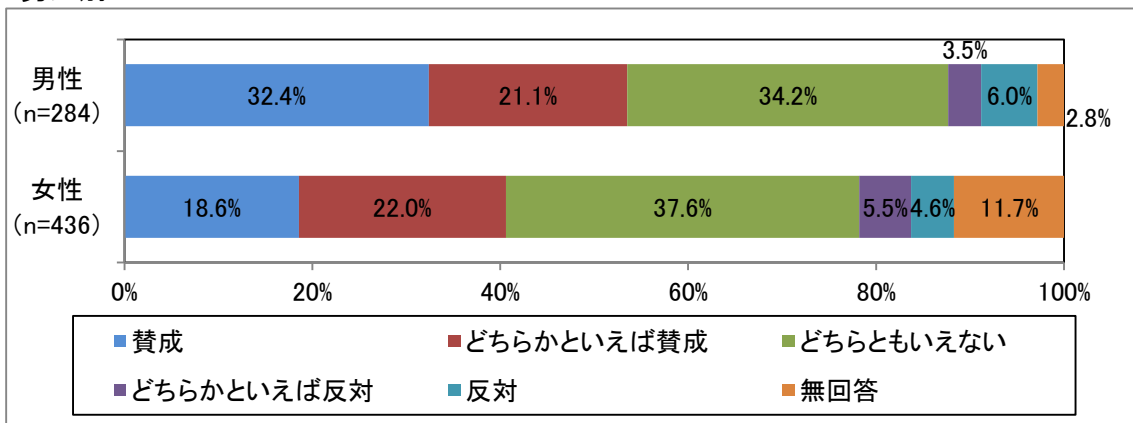
B. 男性は結婚して一人前である

- ・「賛成」「どちらかといえば賛成」の割合は46.2%であり、前回(50.7%)よりも4.5ポイント小さくなっている。
- ・男女別では、男性の「賛成」「どちらかといえば賛成」が女性より12.9ポイント上回っている。
- ・年代別では、年代が上がるにつれて「賛成」の割合が高くなっている。

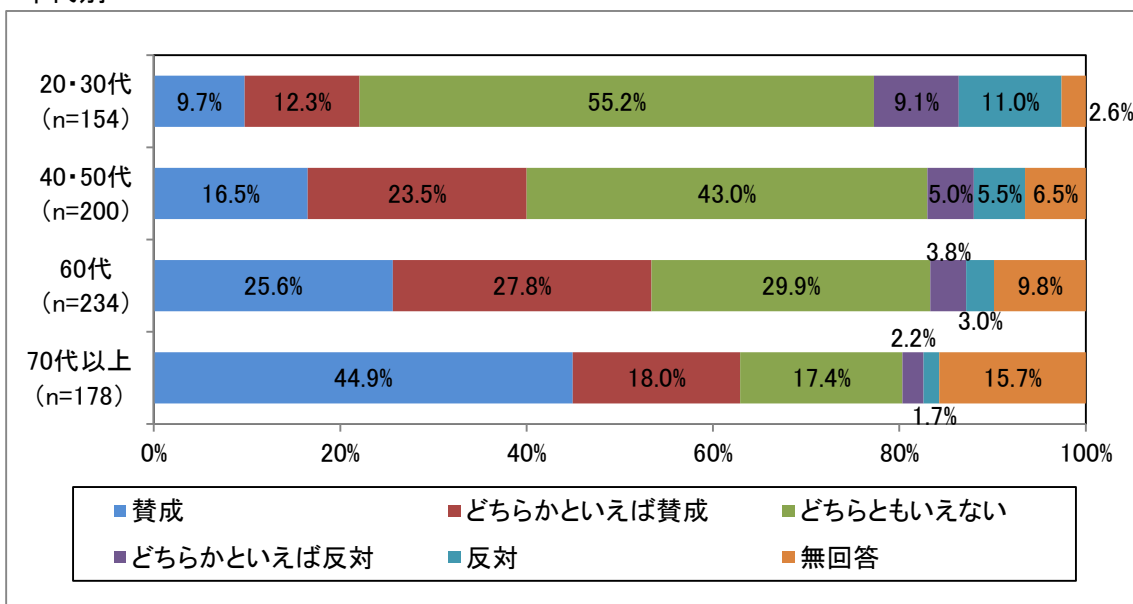
・全体



・男女別



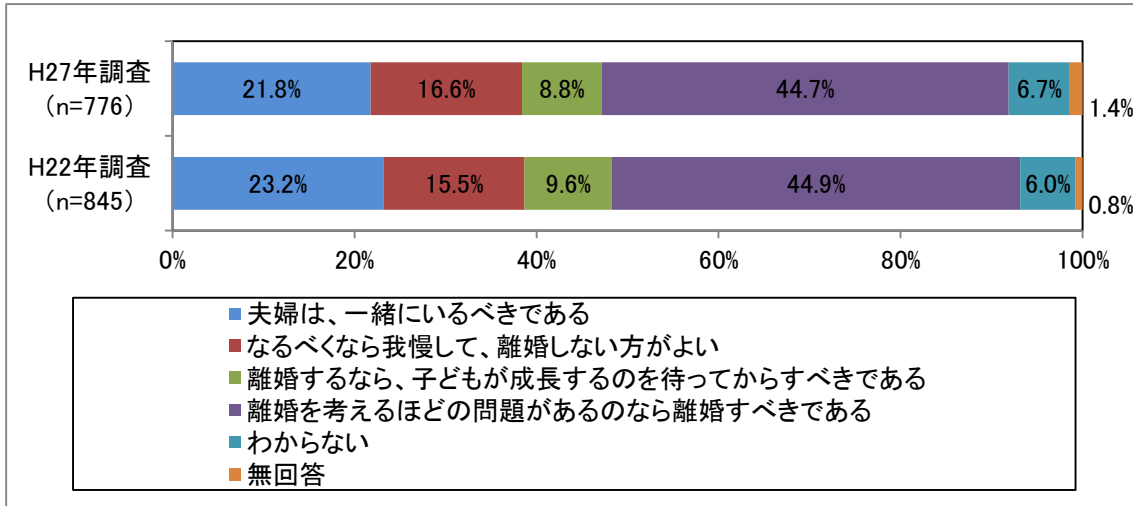
・年代別



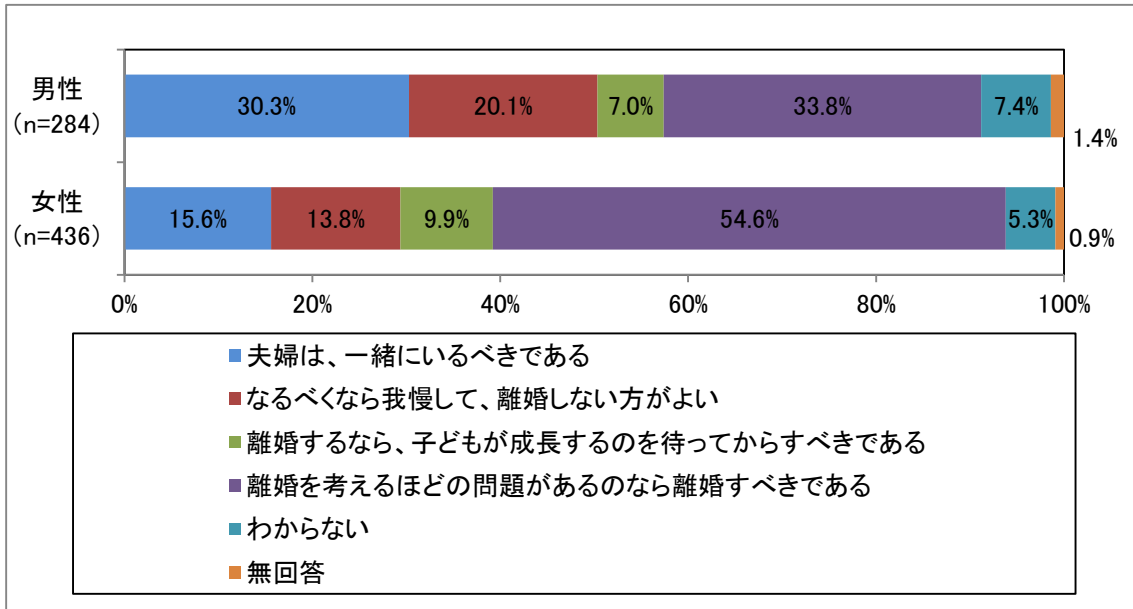
問3. あなたは離婚についてどのように考えますか。あなたの考え方に近いものを選んでください。

- ・「離婚を考えるほどの問題があるのなら離婚すべきである」がトップ(44.7%)であり、全体的に前回と同じ傾向となっている。
- ・男女別でみると、男女とも「離婚を考えるほどの問題があるのなら離婚すべきである」がトップであるが、女性(54.6%)が男性(33.8%)を大きく上回っている。
- ・年代別でみると、「離婚を考えるほどの問題があるのなら離婚すべきである」が世代が若くなるにつれて、その割合が高くなっている。

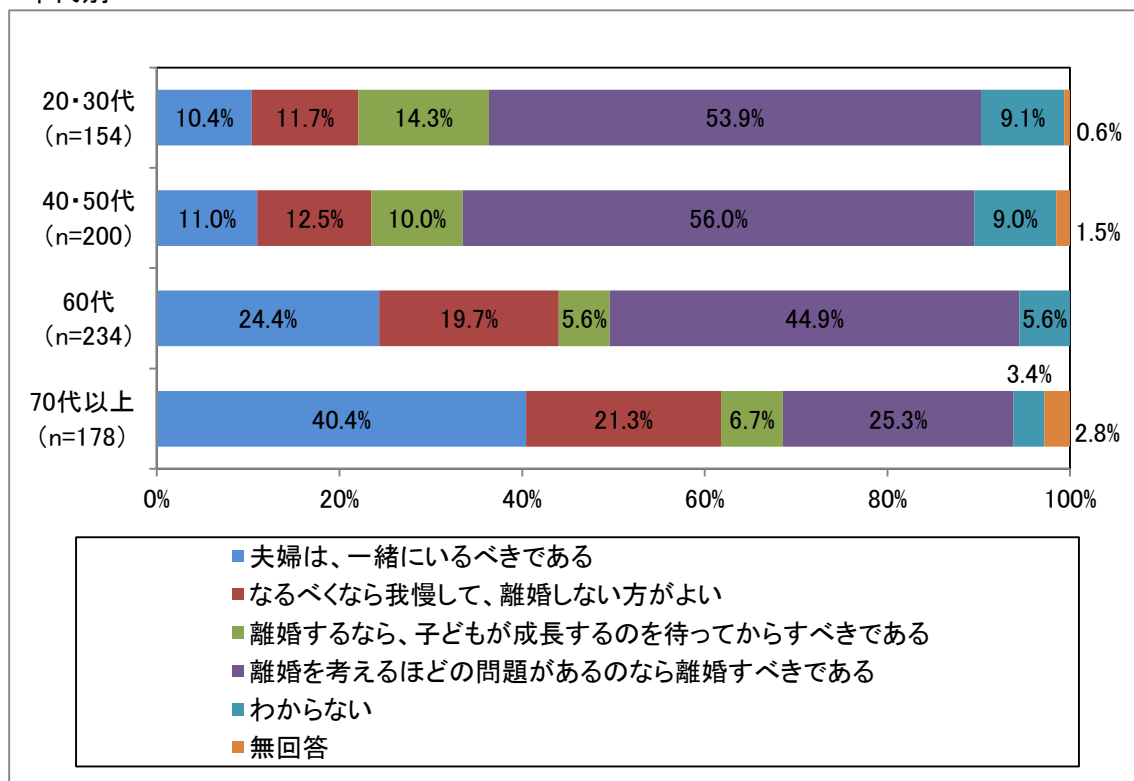
・全体



・男女別



・年代別

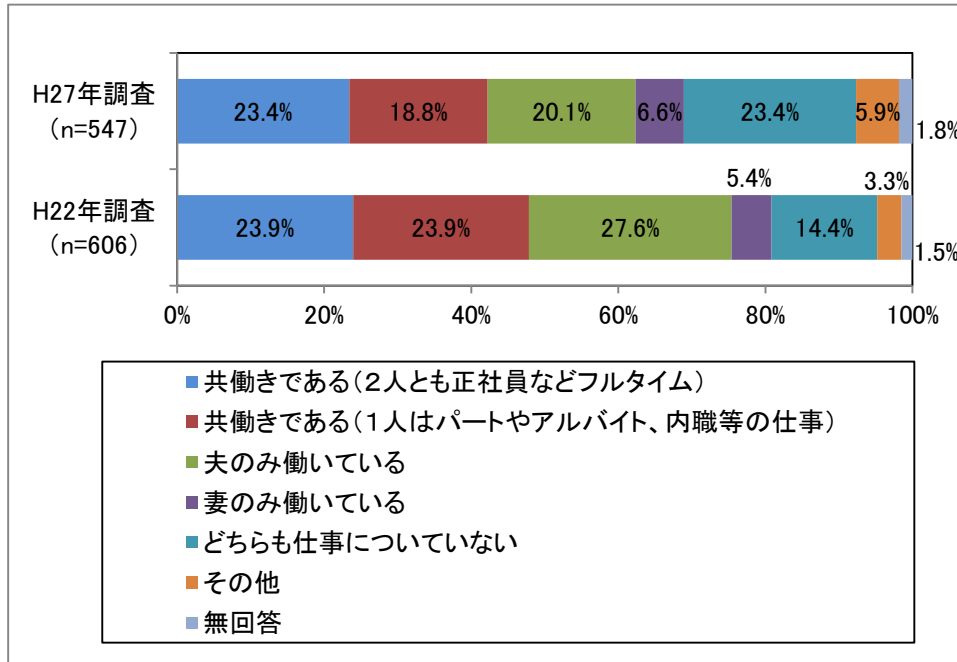


問4. 現在、夫婦共働き（パート、アルバイト、内職等を含む）ですか。

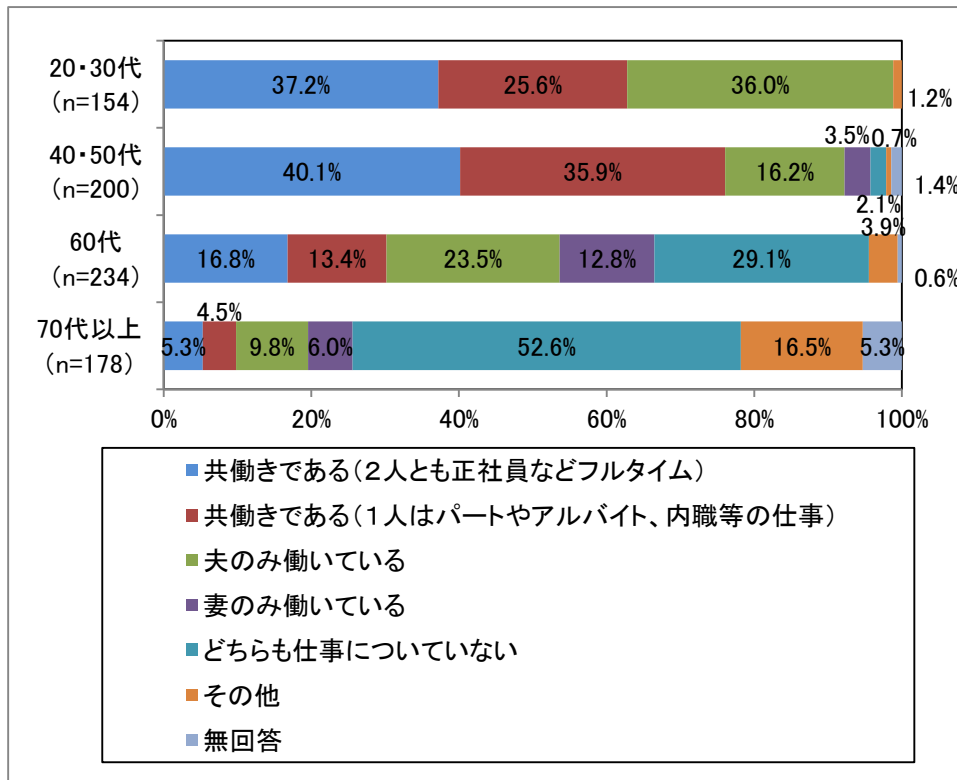
（結婚されている人（事実婚の人も含む）のみ）

- ・「共働き」の割合が44.2%で前回は5.6ポイント下回っている。
- ・共働きの割合は「40・50代」が最も高く(76.0%)、「60代」も30.2%となっている。「20・30代」では「夫のみ働いている」の割合も36.0%と他の年代よりも高くなっている。

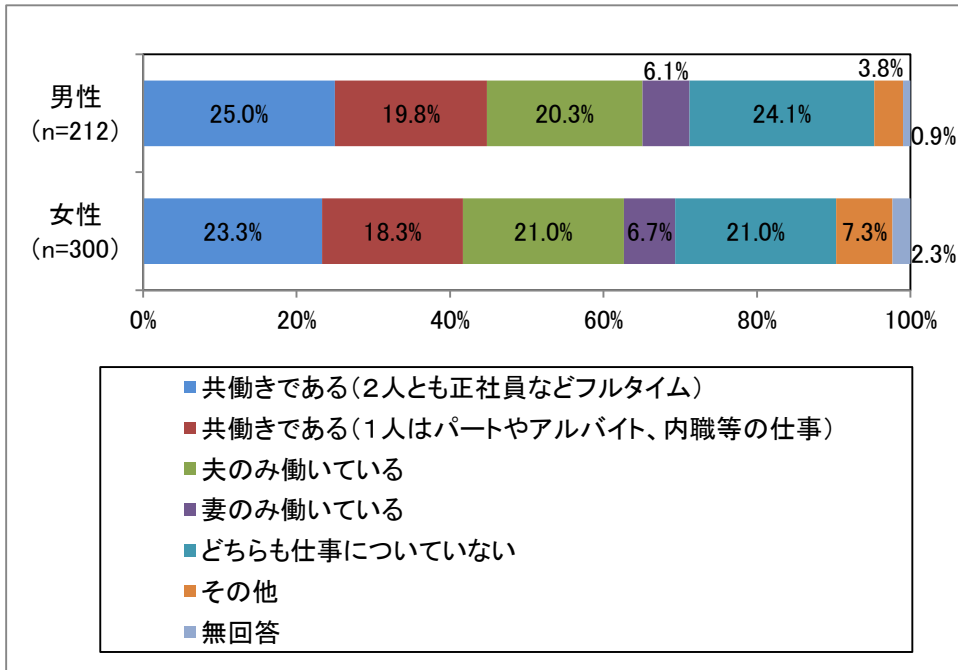
・全体



・年代別



・男女別

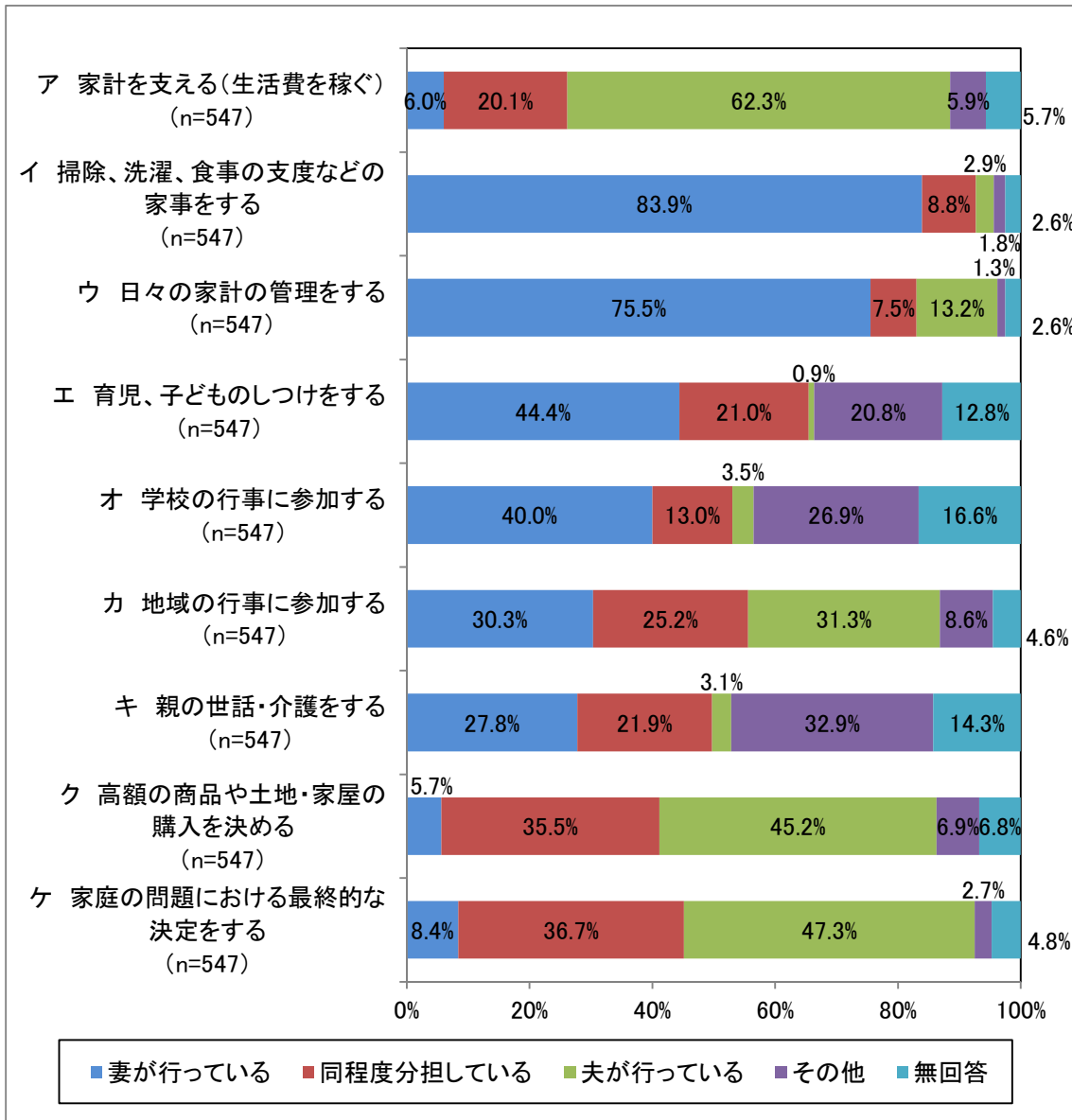


問5. あなたのご家庭では、次のような家庭内の仕事を主にどなたがしていますか。

(結婚されている人(事実婚の人も含む)のみ)

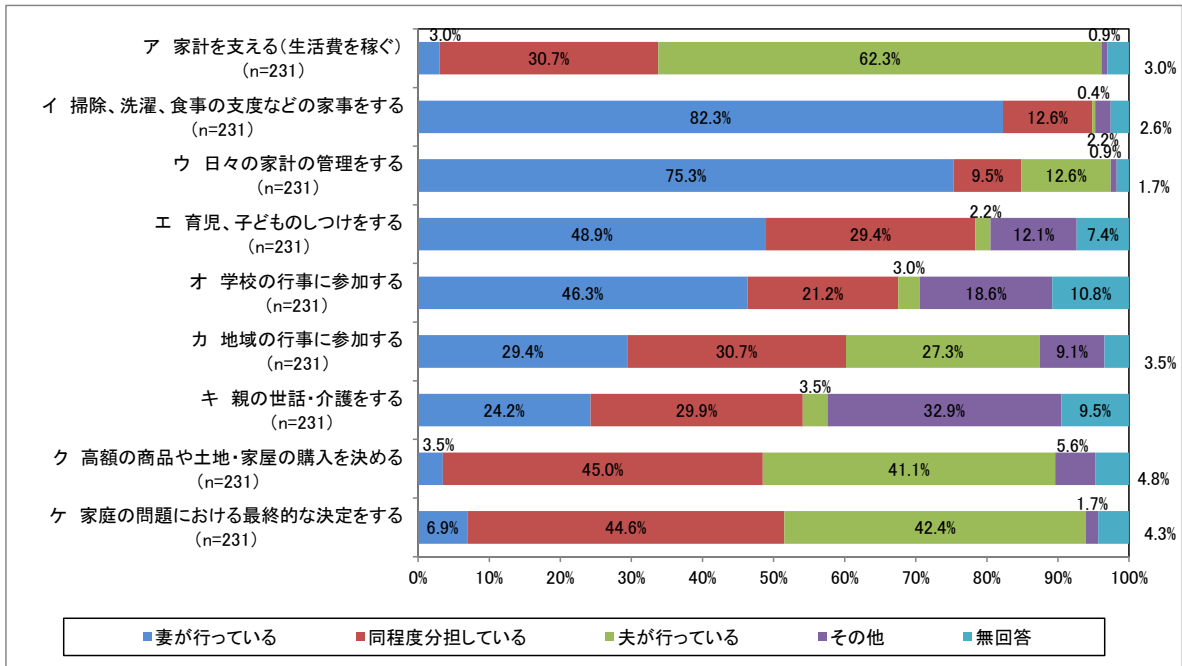
- ・「イ 掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする」「ウ 日々の家計の管理をする」「エ 育児、子どものしつけをする」「オ 学校の行事に参加する」は「妻が行っている」が第1位となっている。
- ・「カ 地域の行事に参加する」は夫婦が同程度となっている。
- ・「ク 高額の商品や土地・家屋の購入を決める」「ケ 家庭の問題における最終的な決定をする」は夫の割合が最も高い。
- ・上記の状況は「共働き家庭」・「非共働き家庭」においても概ね同じ傾向となっている。

・全体

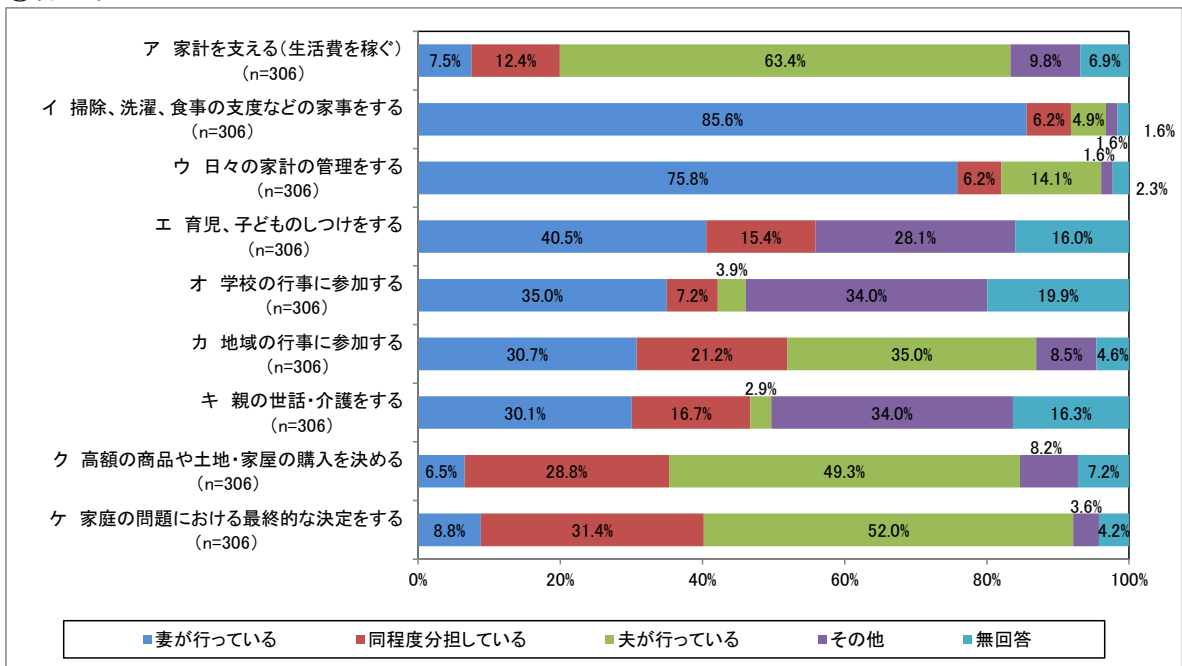


<共働き家庭・非共働き家庭の状況>

○共働き



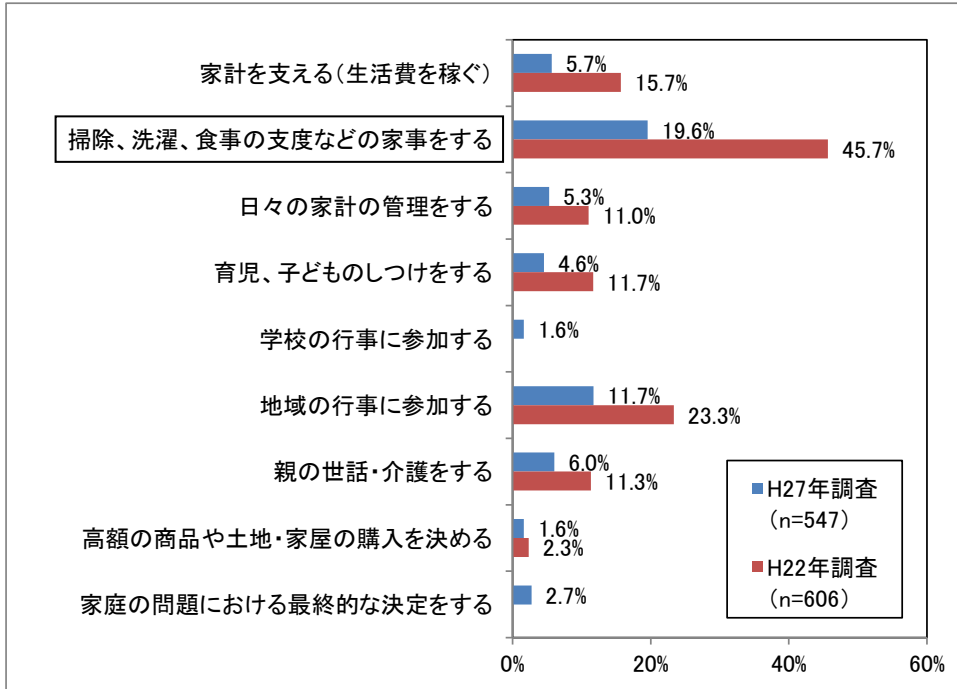
○非共働き



問6. 『問5』で答えた家庭の仕事の分担状況について、変えたい、変わってほしいと思うことがあれば選んでください。(複数回答)(※結婚されている人(事実婚の人も含む)のみ)

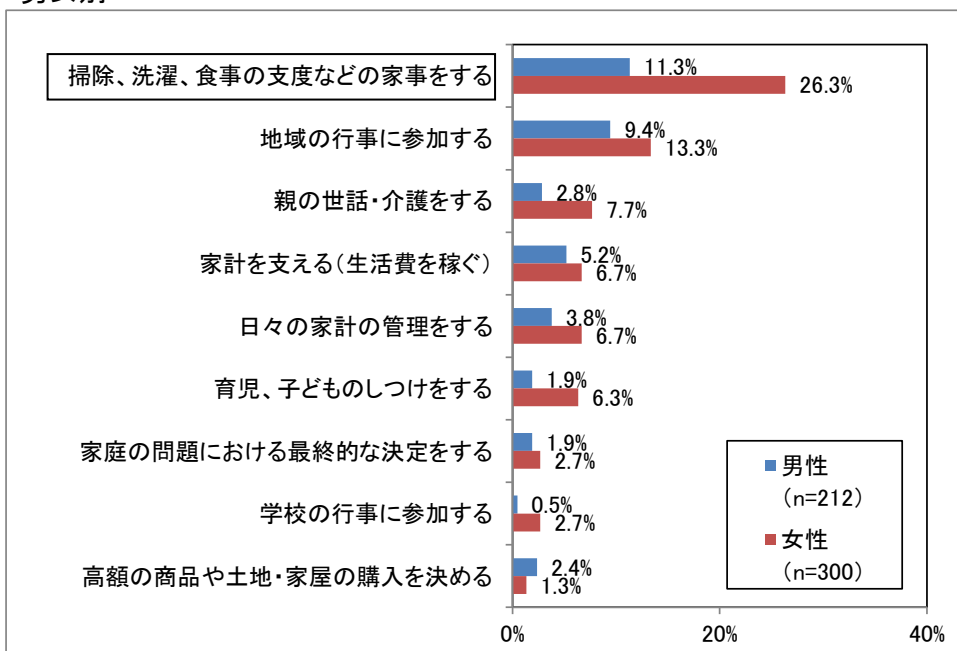
- ・「掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする」の割合(19.6%)が高く第1位であるが、前回(45.7%)を大きく下回っている。
- ・また、男女とも「掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする」を第1位としているが、女性(26.3%)は男性(11.3%)を大きく上回っている。

・全体

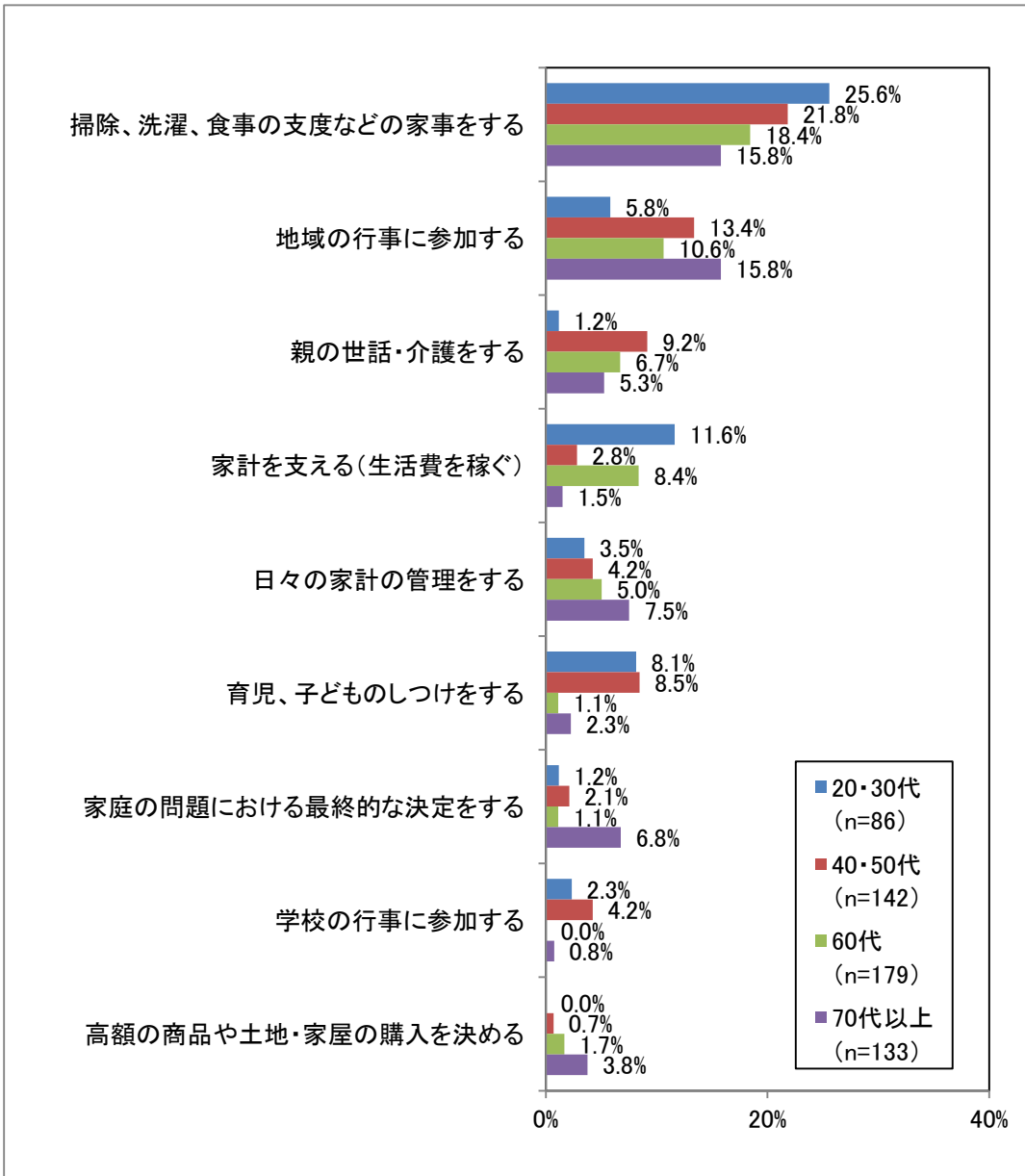


※「学校の行事に参加する」「家庭の問題における最終的な決定をする」は前回調査時選択肢なし

・男女別



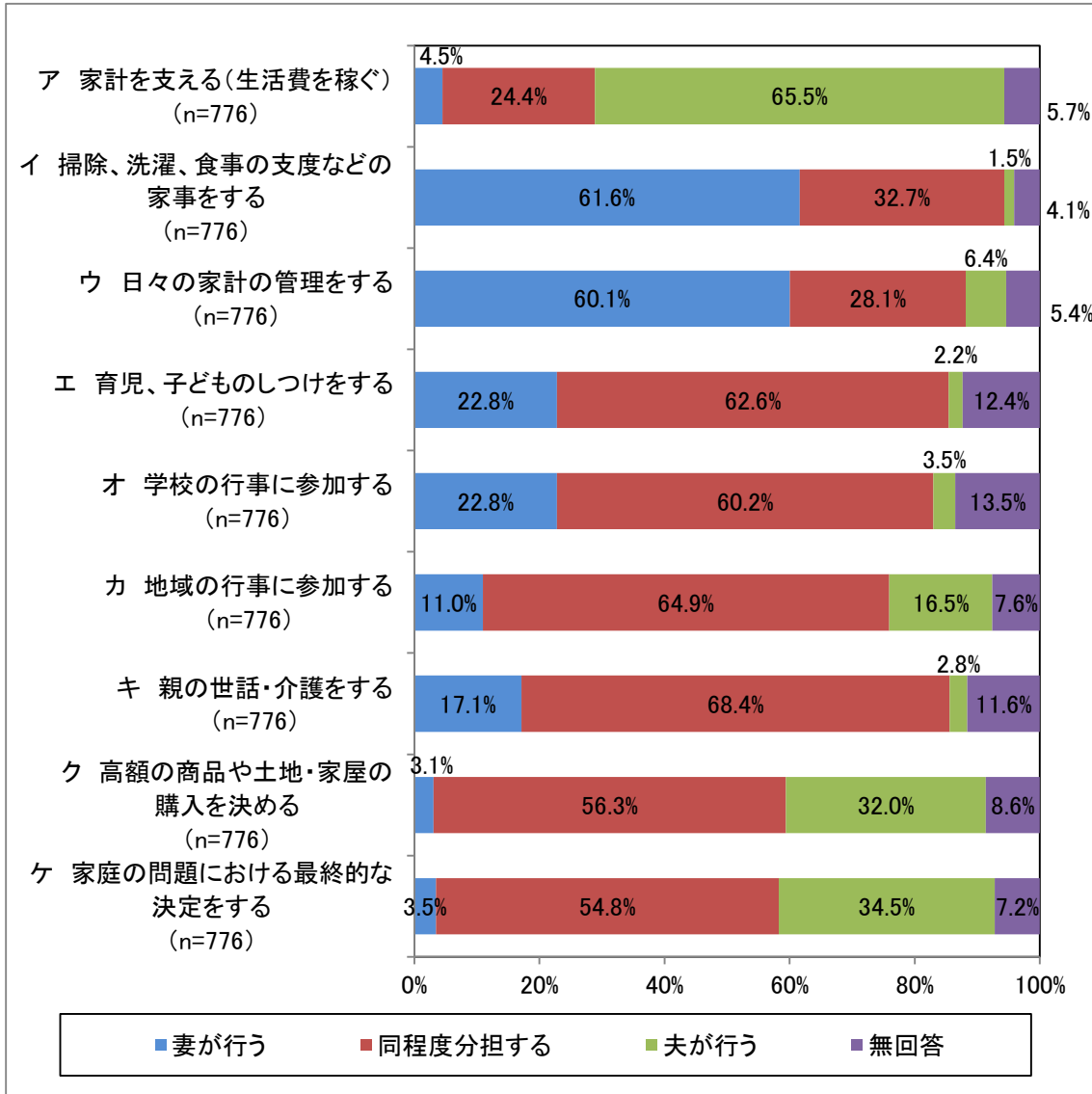
・年代別



問7. 家庭生活での夫婦の理想とする役割分担をどのように考えていますか。

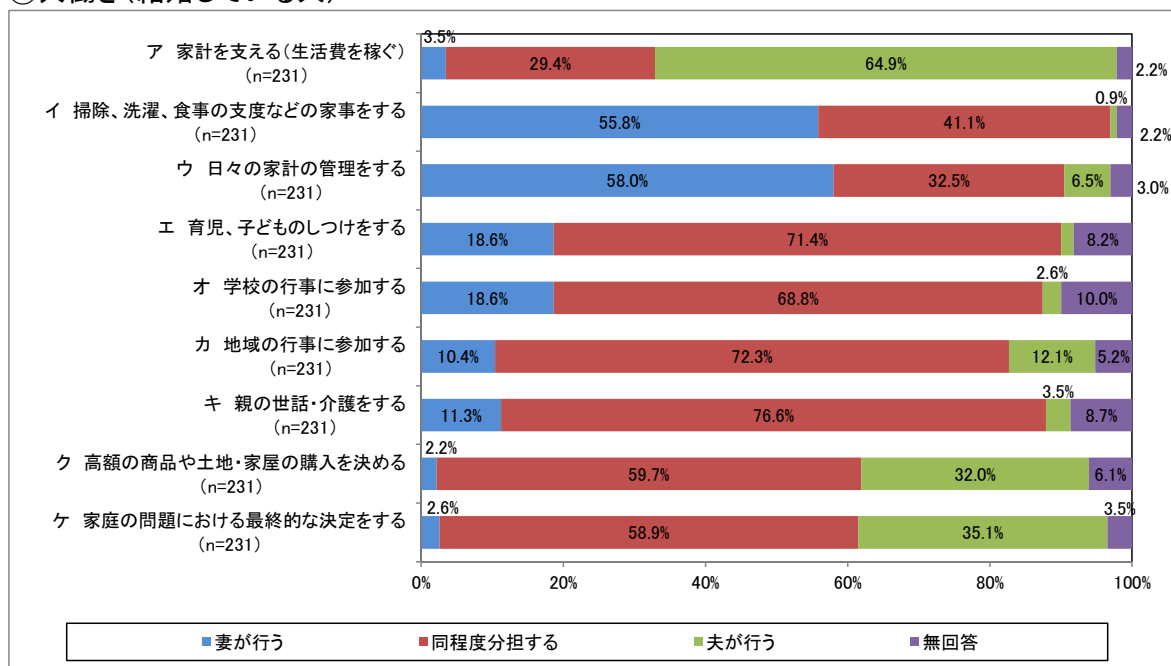
- ・「ア 家計を支える(生活費を稼ぐ)」では「夫が行う」の割合が高くなっている(65.5%)。
- ・一方、「イ 掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする」「ウ 日々の家計の管理をする」では「妻が行う」の割合が高くなっている。
- ・上記以外の項目については、「同程度分担する」の割合が高くなっている。
- ・以上のことは「共働き家庭」、「非共働き家庭」においても概ね同じ傾向となっている。

・全体

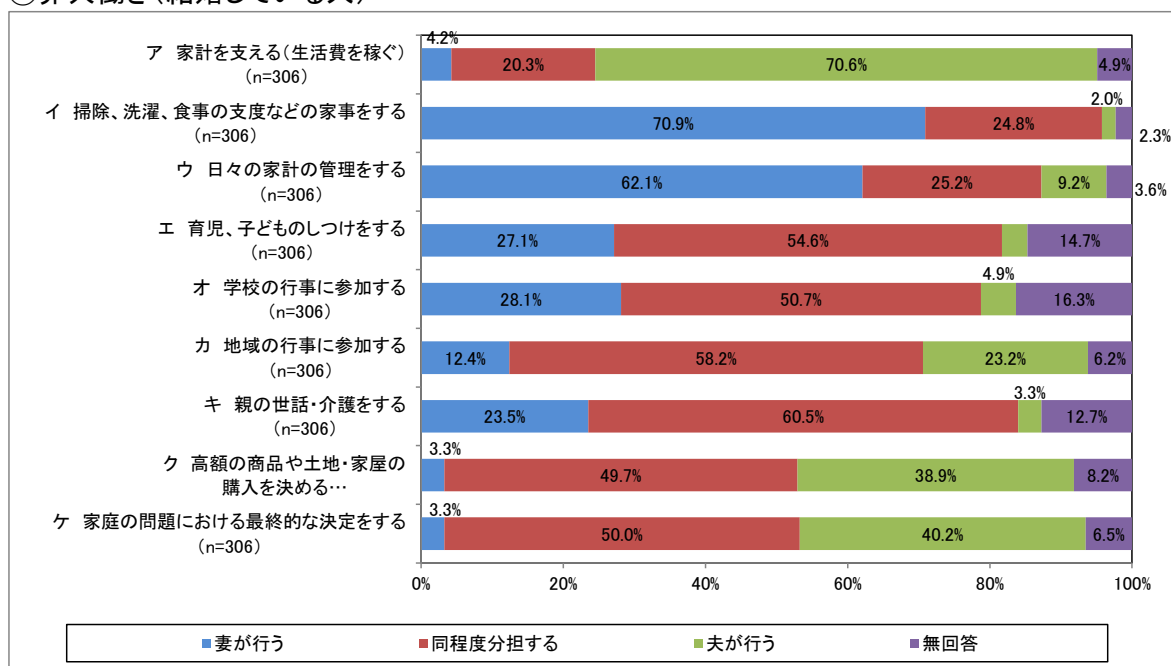


<共働き家庭・非共働き家庭の状況>

○共働き(結婚している人)



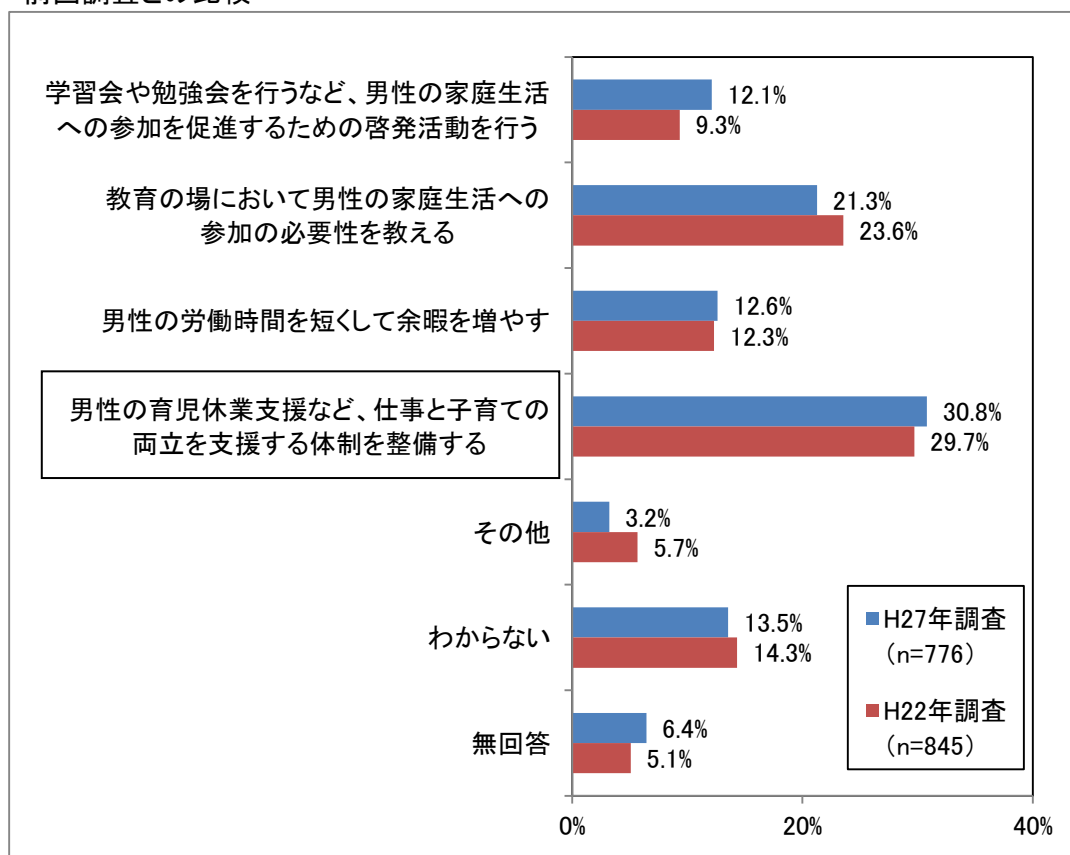
○非共働き(結婚している人)



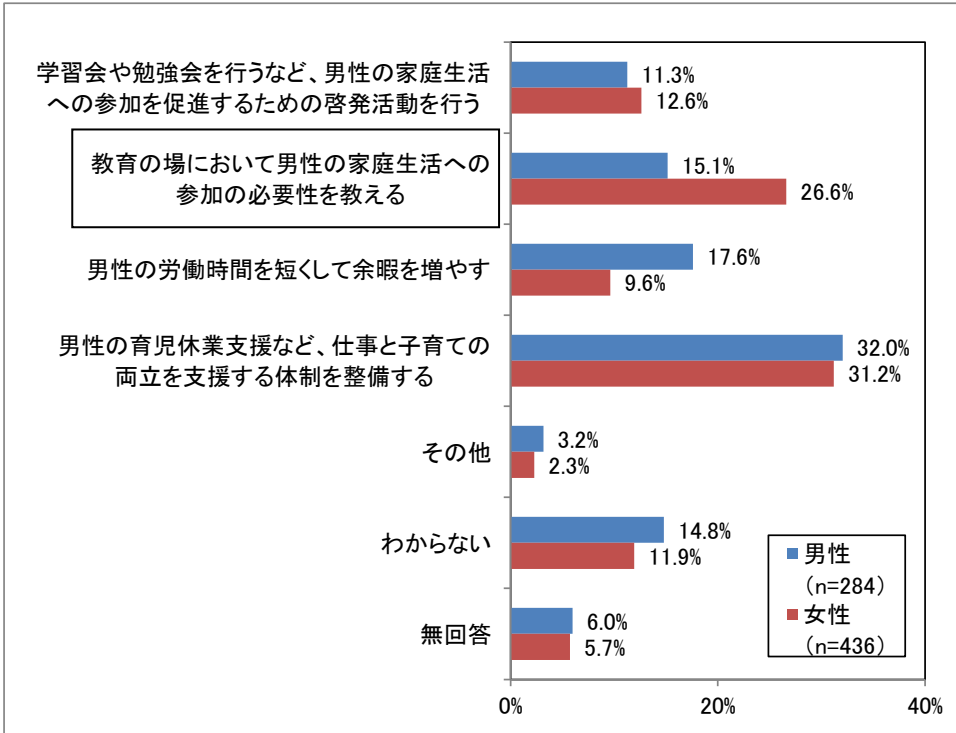
問8. あなたは男性の家庭生活への参加を促進するために、どのようなことが必要であると考えますか。あなたの考えに近いものを選んでください。

- ・「男性の育児休業支援など、仕事と子育ての両立を支援する体制を整備する」の割合(30.8%)が最も高くなっている。全体的に前回と比べて傾向に大きな差はみられない。
- ・男女別でみると、「教育の場において男性の家庭生活への参加の必要性を教える」の割合(26.6%)は女性で高くなっている。
- ・年代別では若い世代ほど「男性の労働時間を短くして余暇を増やす」の割合が高くなっている。
- ・「共働き家庭」では「教育の場において男性の家庭生活への参加の必要性を教える」が第1位(26.9%)で、「非共働き家庭」(19.1%)を7.8ポイント上回っている。また、この項目については「共働き女性」の関心(32.6%)が高くなっている。

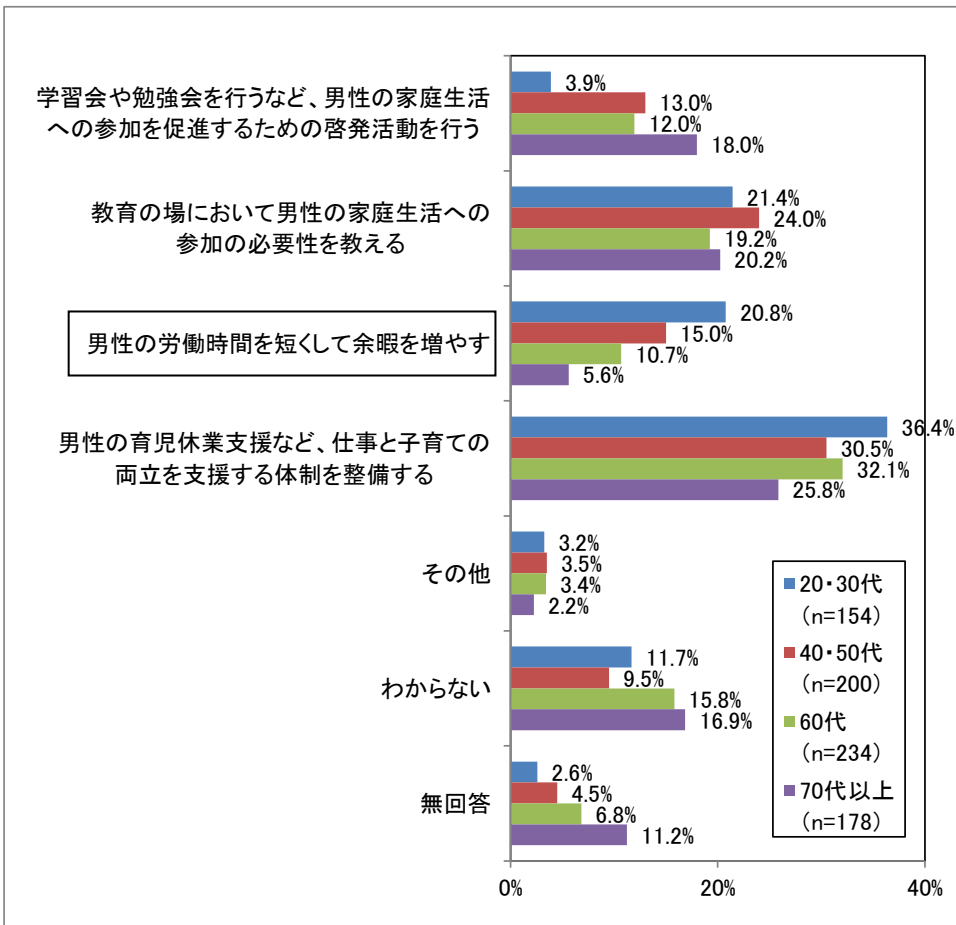
・前回調査との比較



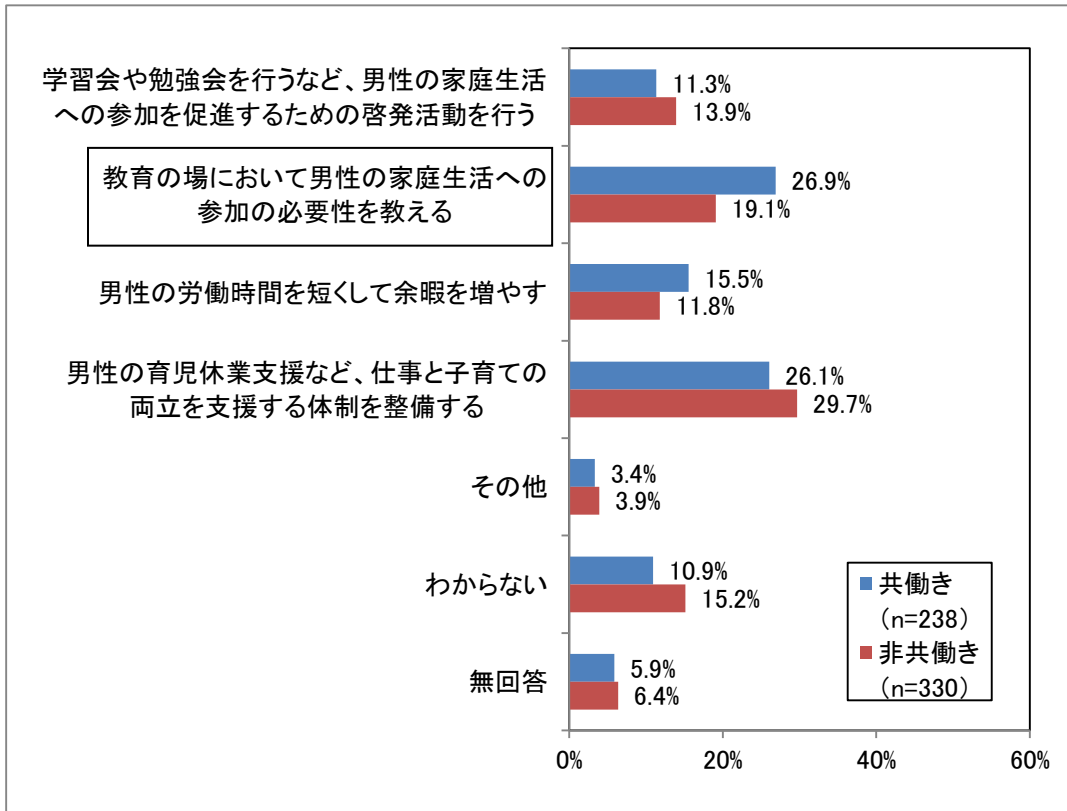
・男女別



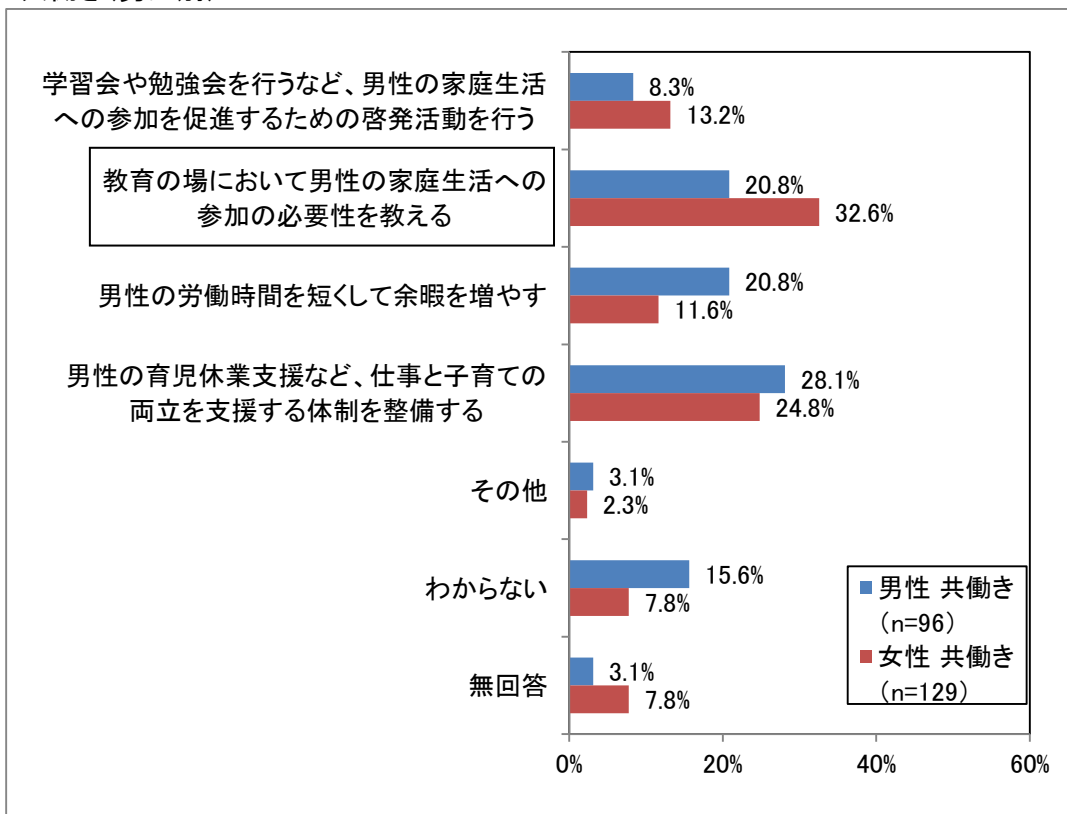
・年代別



・共働き・非共働き



・共働き(男女別)

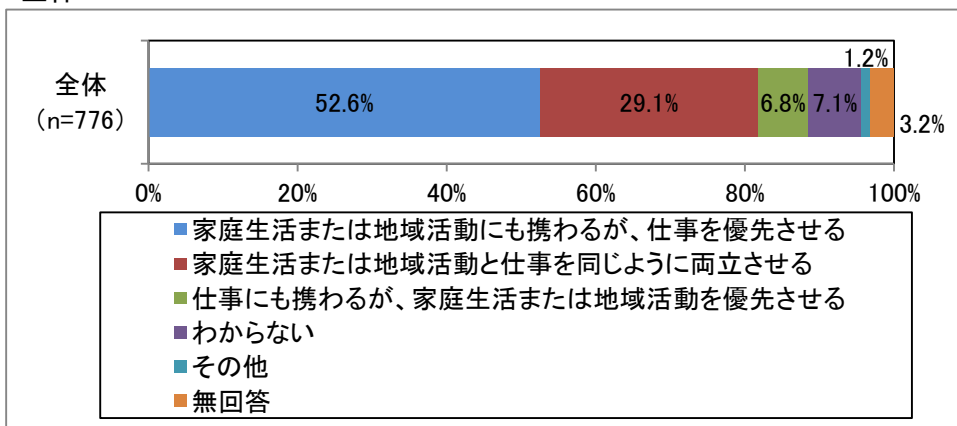


2. 就業について

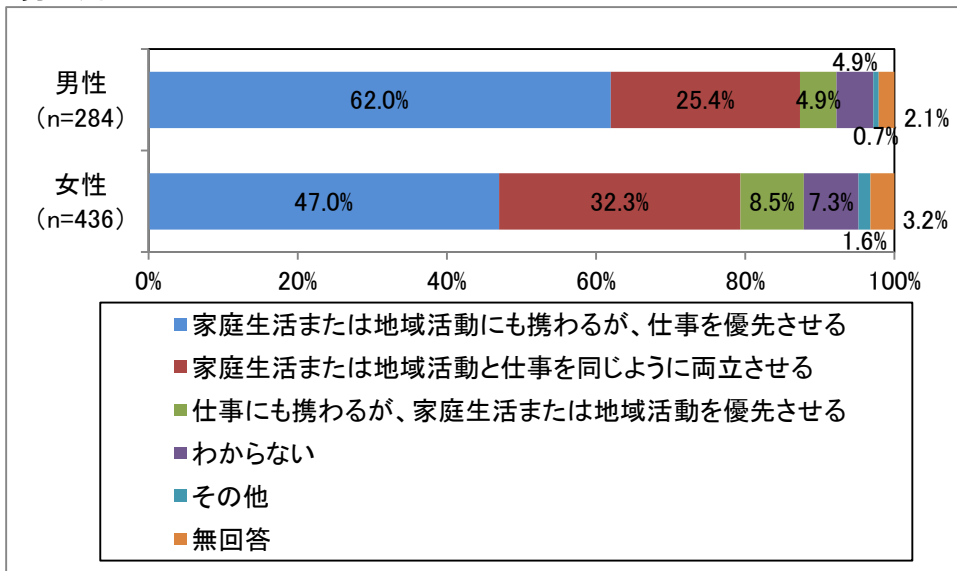
問9. 仕事と家庭生活・地域活動のバランスで望ましいものを教えてください。

- ・「家庭生活または地域活動にも携わるが、仕事を優先させる」の割合(52.6%)が最も高くなっている。
- ・男女別では男性の62.0%が「家庭生活または地域活動にも携わるが、仕事を優先させる」としている。女性は「家庭生活または地域活動と仕事を同じように両立させる」が32.3%で男性(25.4%)を上回っている。
- ・また全年代において「家庭生活または地域活動にも携わるが、仕事を優先させる」の割合が高くなっている。

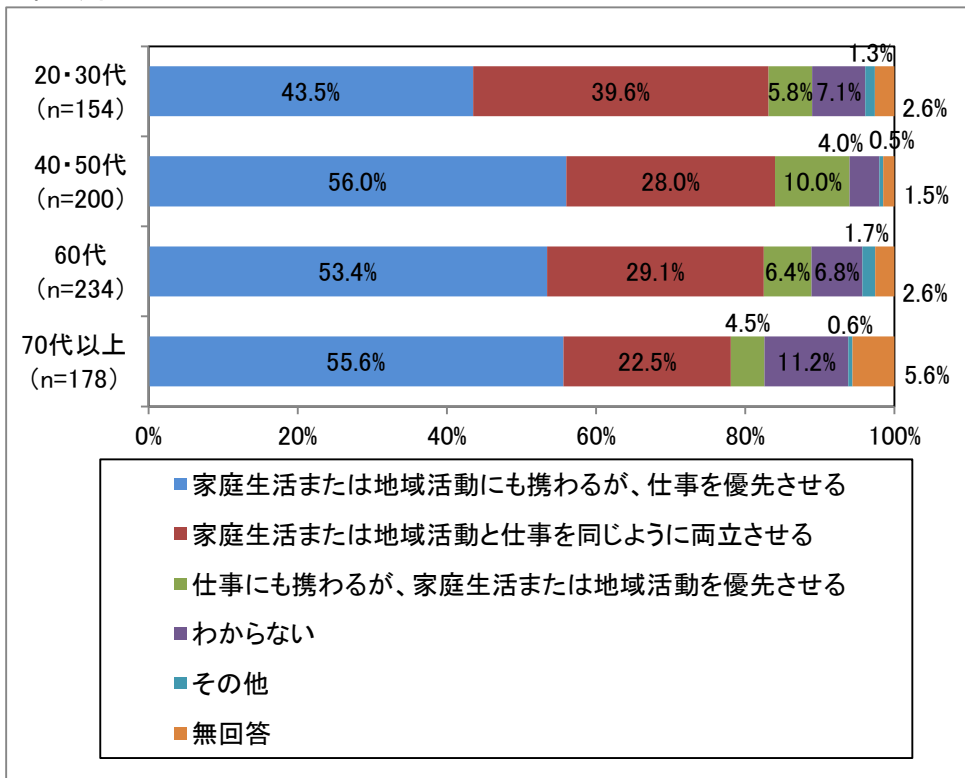
・全体



・男女別



・年代別

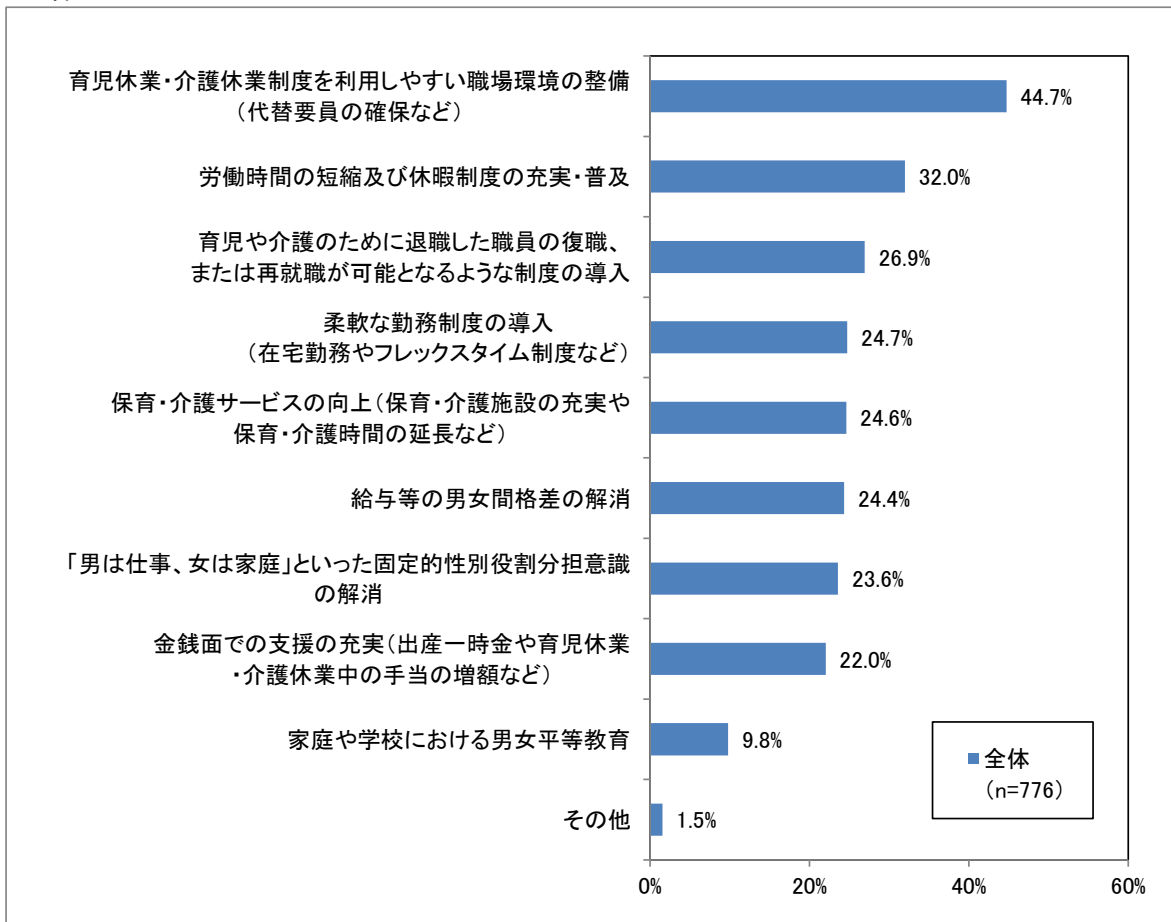


問10. 一般に、男性も女性も仕事と家庭生活や地域活動を両立させるためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。(複数回答)

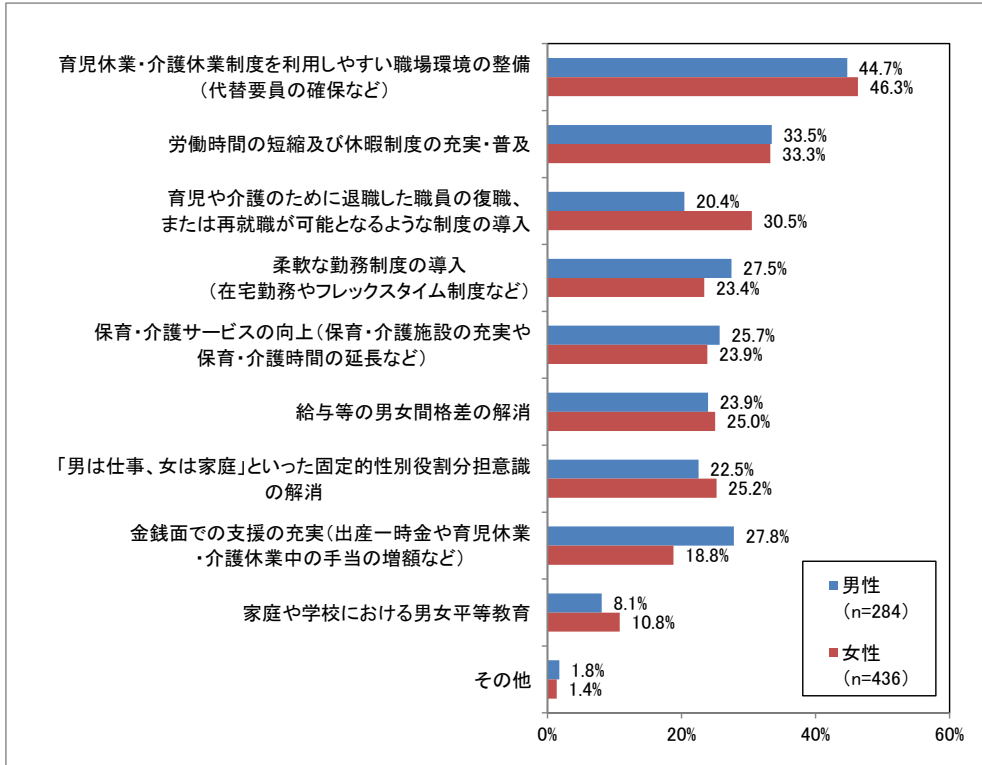
- ・「育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境の整備(代替要員の確保など)」の割合(44.7%)が第1位で、「労働時間の短縮及び休暇制度の充実・普及」(32.0%)が第2位、「育児や介護のために退職した職員の復職、または再就職が可能となるような制度の導入」(26.9%)が第3位となっている。
- ・男女別、年代別でも概ね同じ傾向になっている。但し、「20・30代」は「金銭面での支援の充実(出産一時金や育児休業・介護休業中の手当の増額など)」の割合(37.7%)が他の年代よりも高くなっている。
- ・「共働き・非共働き」では、「全体」とほぼ同じ状況にあるが、第1位の「育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境の整備(代替要員の確保など)」において、「非共働き」が49.4%で「共働き」(39.9%)を9.5ポイント上回っている。

一方、第2位の「労働時間の短縮及び休暇制度の充実・普及」では「共働き」が39.1%で「非共働き」(25.5%)を13.6ポイント上回っている。※この2項目については、「共働き」と「非共働き」で明確な差異がみられる。

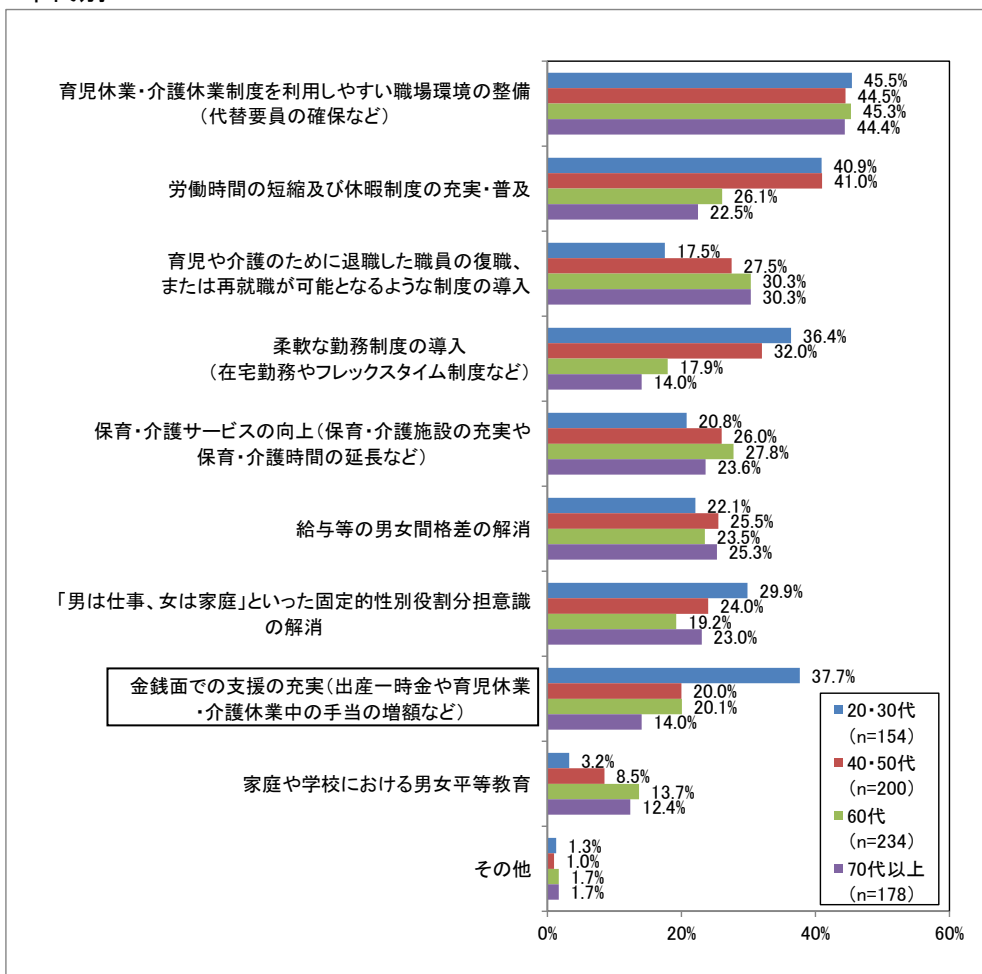
・全体



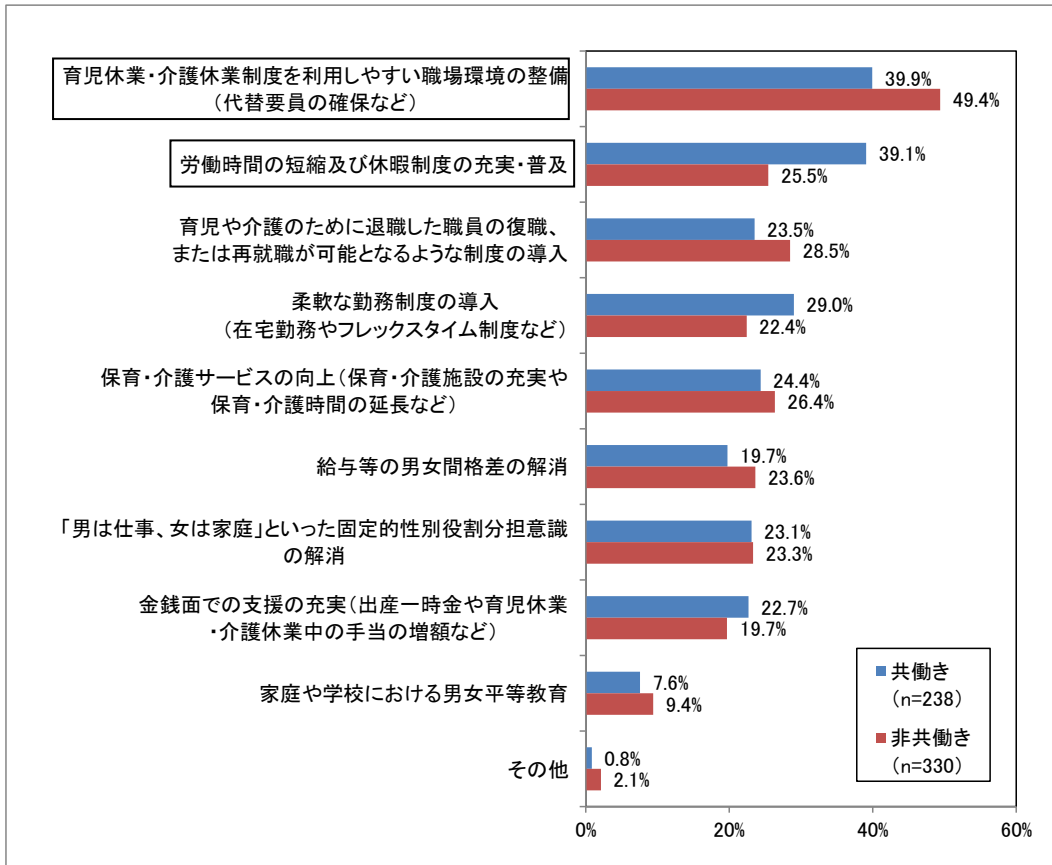
・男女別



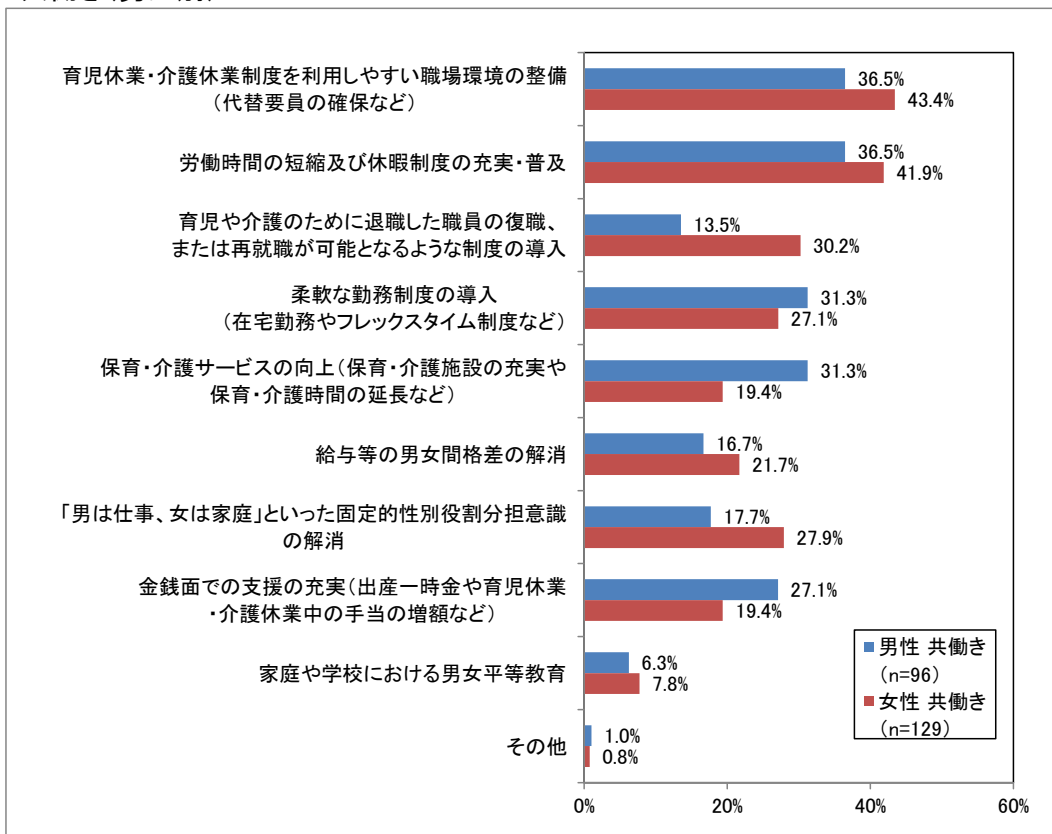
・年代別



・共働き・非共働き



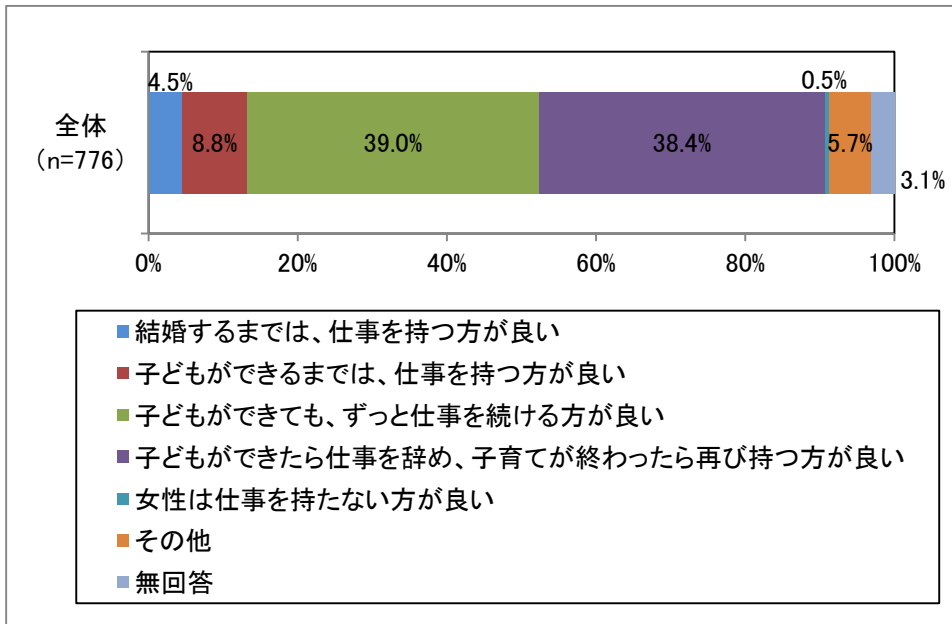
・共働き (男女別)



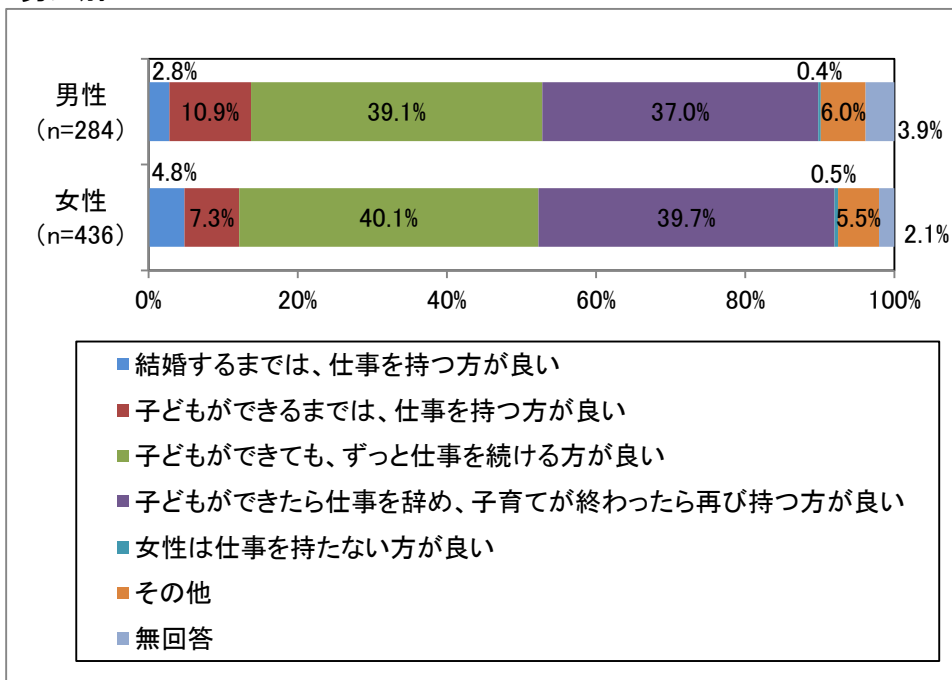
問11. 一般に、女性の就業について、あなたはどのように考えますか。

- ・「子どもができて、ずっと仕事を続ける方が良い」(39.0%)、「子どもができたなら仕事を辞め、子育てが終わったら再び持つ方が良い」(38.4%)の割合が同程度となっている。
- ・男女別においても回答に大きな差はみられない。
- ・年代別では「20～50代」で「子どもができて、ずっと仕事を続ける方が良い」の割合が高いのに対し、「60代以上」では「子どもができたなら仕事を辞め、子育てが終わったら再び持つ方が良い」の割合が高くなっている。
- ・「結婚している人」は「子どもができたなら仕事を辞め、子育てが終わったら再び持つ方が良い」がトップ(40.8%)であるのに対し、「結婚していない人」は「子どもができて、ずっと仕事を続ける方が良い」がトップ(47.2%)となっている。

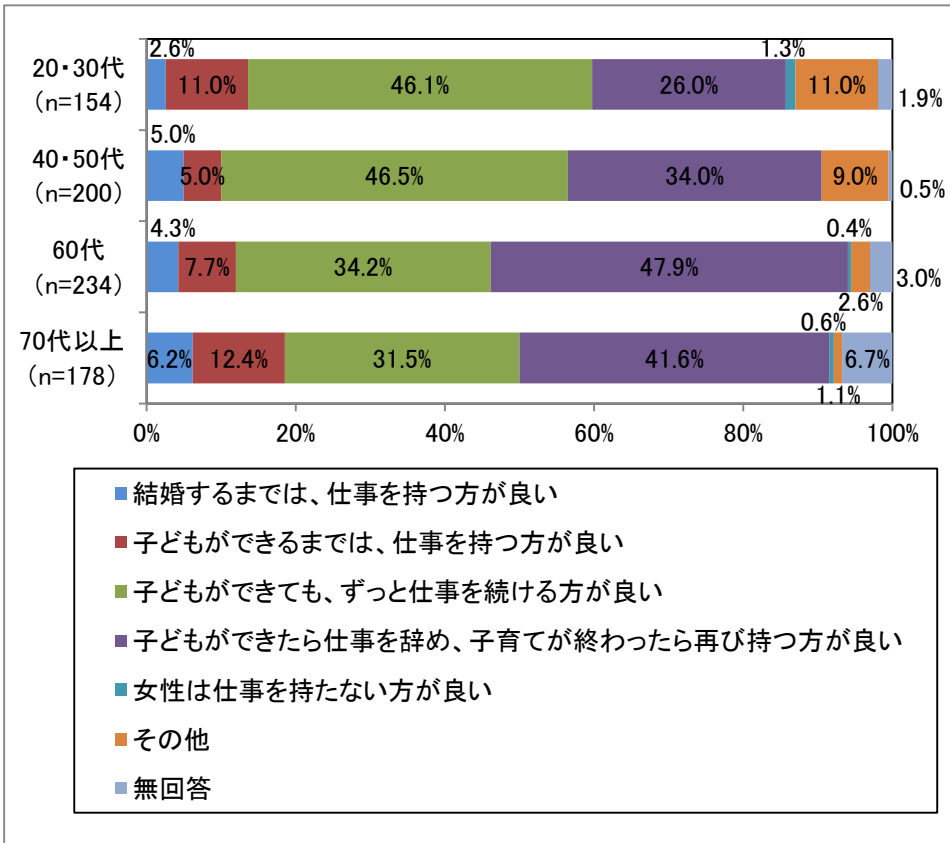
・全体



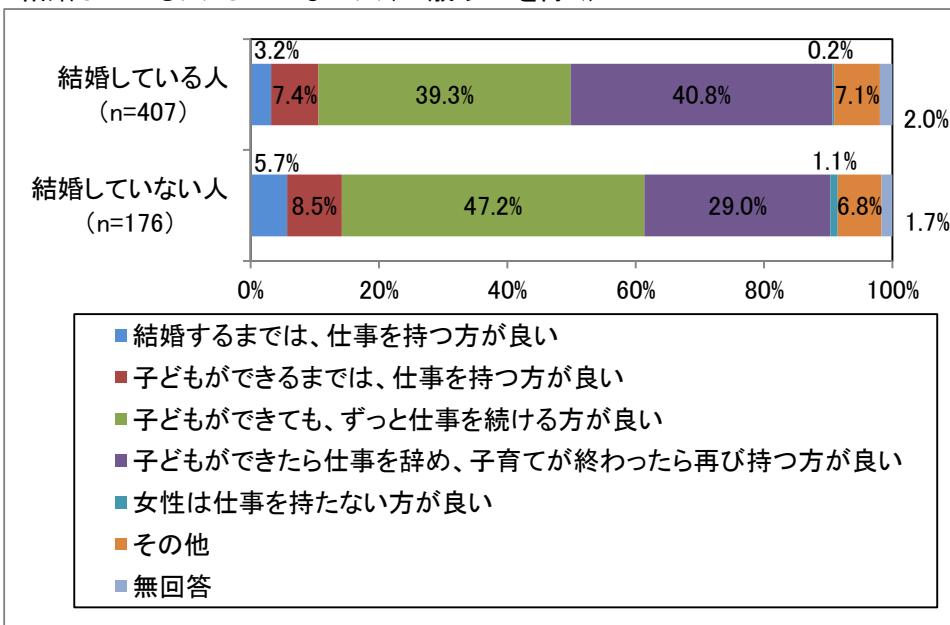
・男女別



・年代別



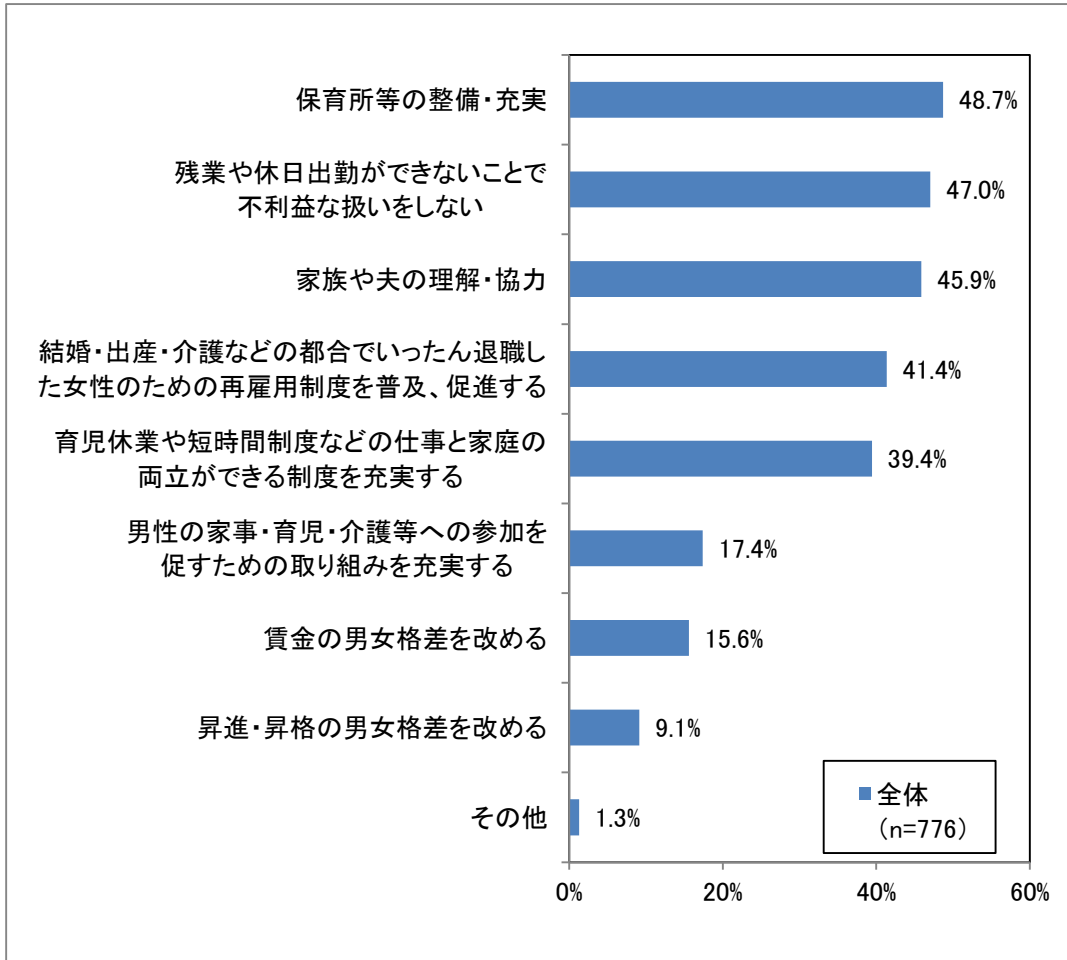
・結婚している人・していない人(70歳以上を除く)



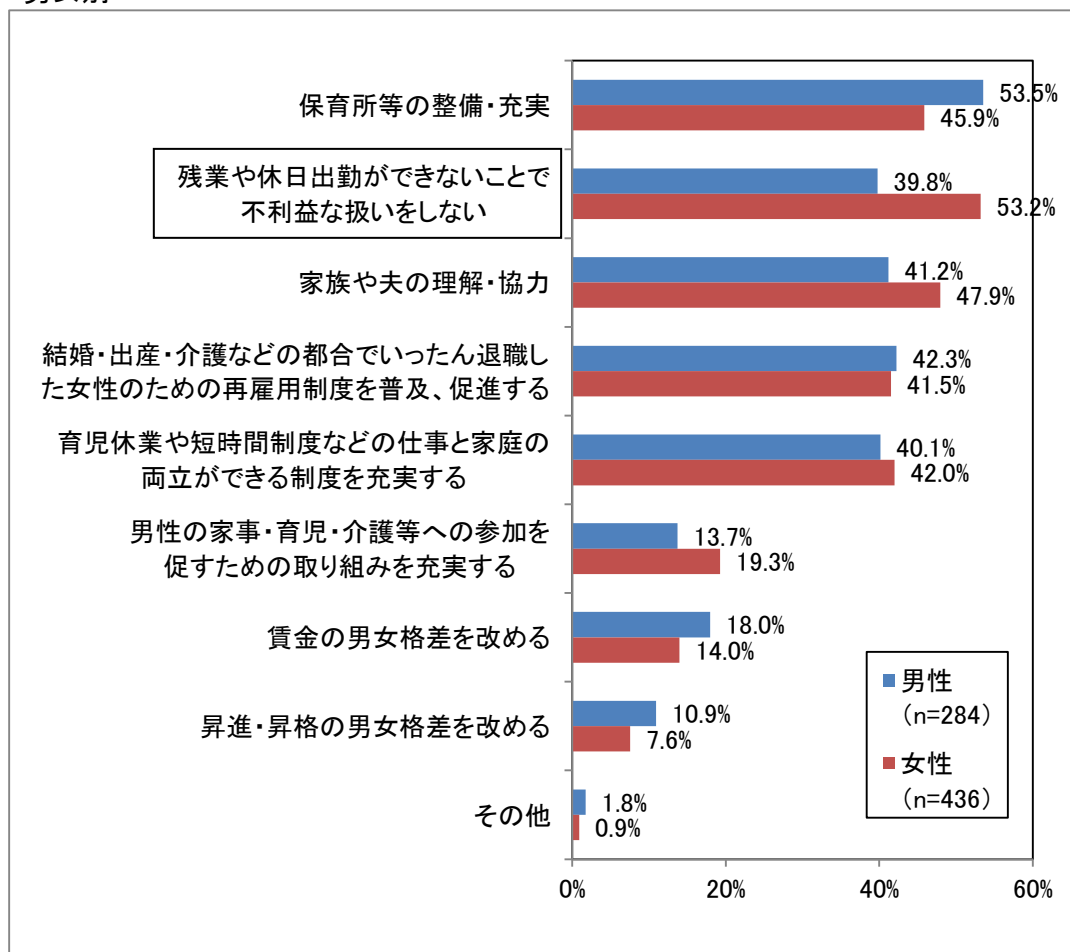
問12. 女性が結婚・出産後も職業を持ち、働き続けるためにはどのようなことが必要だと思いますか。(複数回答)

- ・「保育所等の整備・充実」の割合(48.7%)が第1位で、第2位「残業や休日出勤ができないことで不利益な扱いをしない」(47.0%)、第3位「結婚・出産・介護などの都合でいったん退職した女性のための再雇用制度を普及、促進する」(45.9%)となっている。
- ・男女別では、女性で「残業や休日出勤ができないことで不利益な扱いをしない」の割合(53.2%)が第1位となっている。特に「共働きの女性」は55.8%となっている。
- ・年代別及び「共働き・非共働き」とも「全体」と概ね同じ傾向となっている。

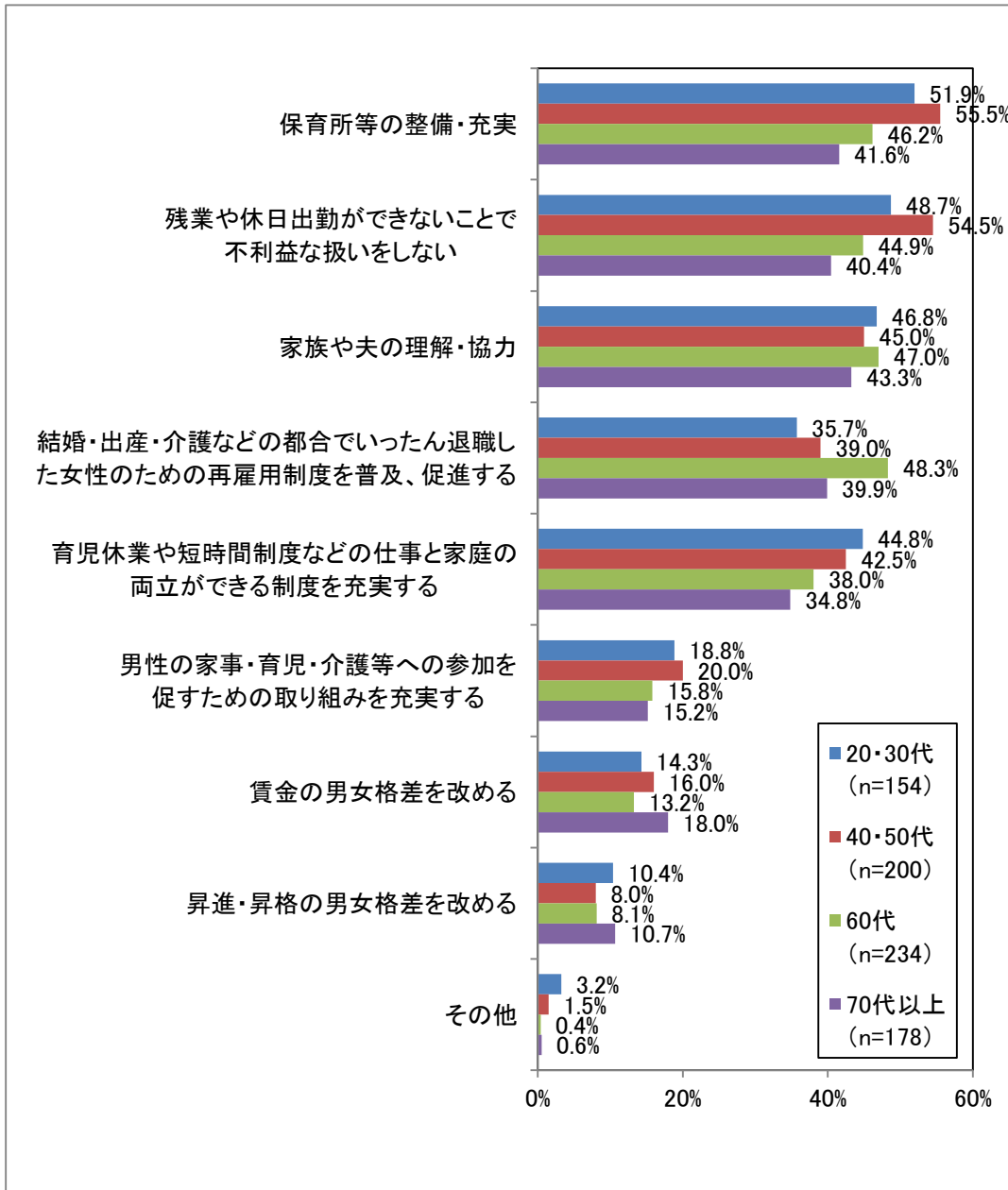
・全体



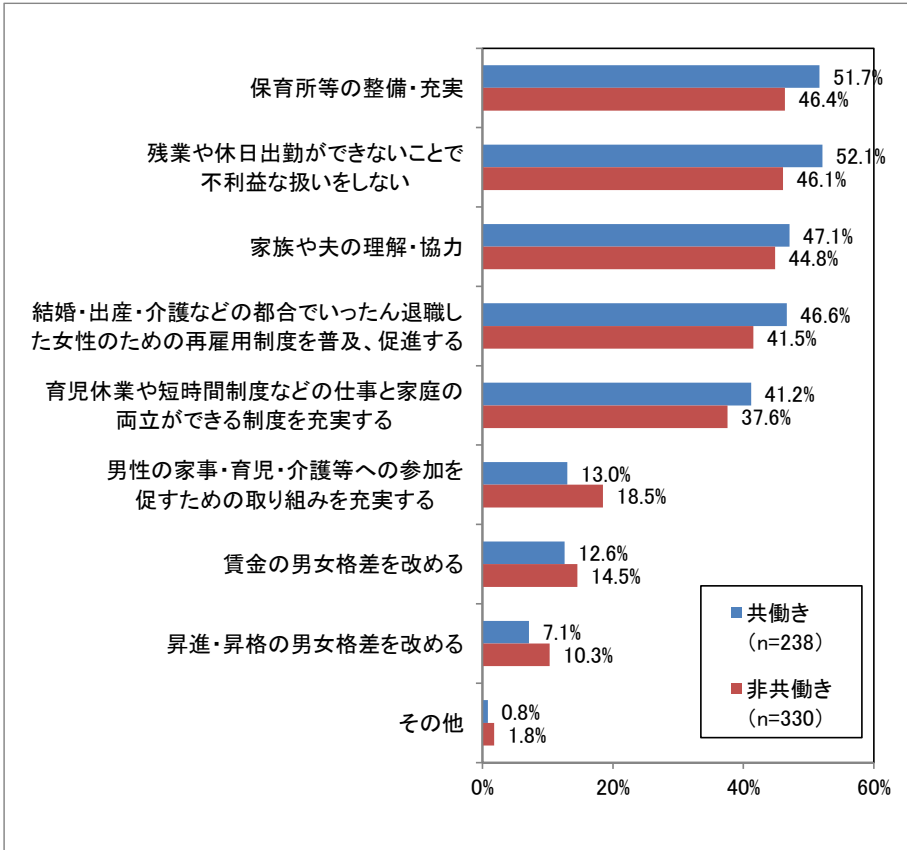
・男女別



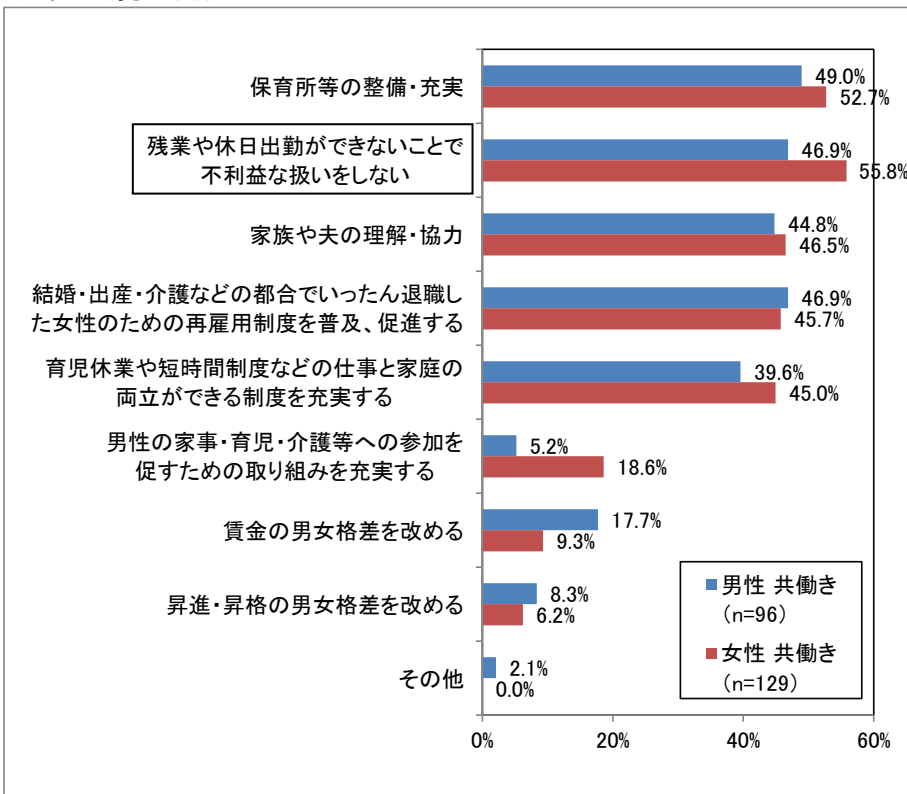
・年代別



・共働き・非共働き



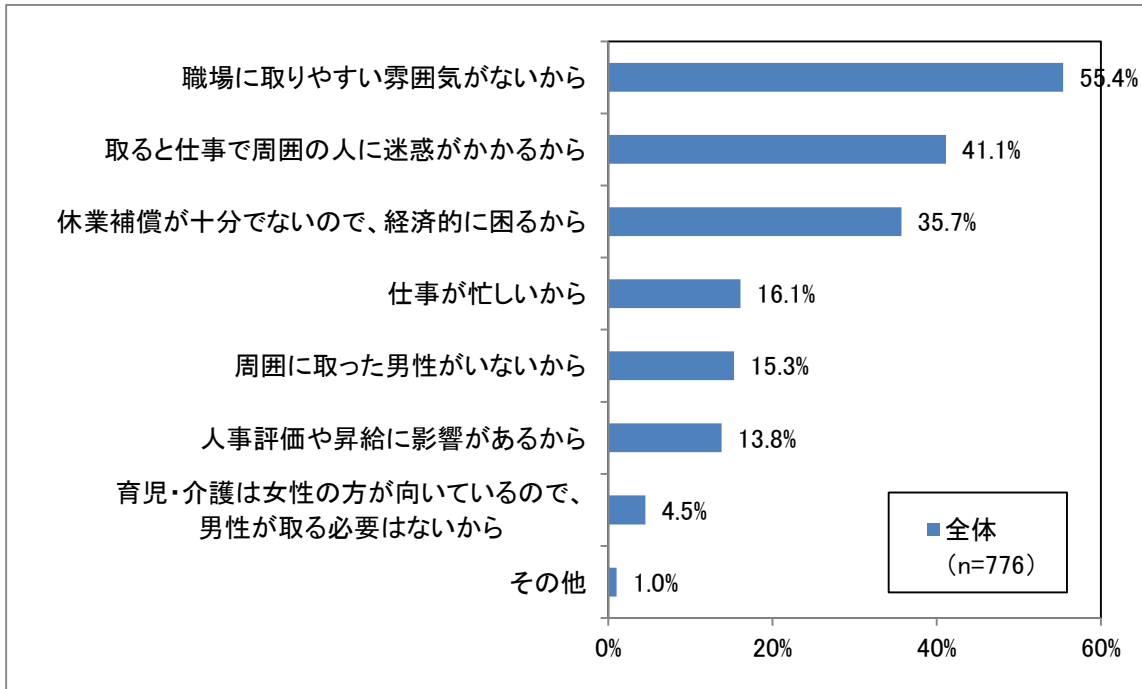
・共働き(男女別)



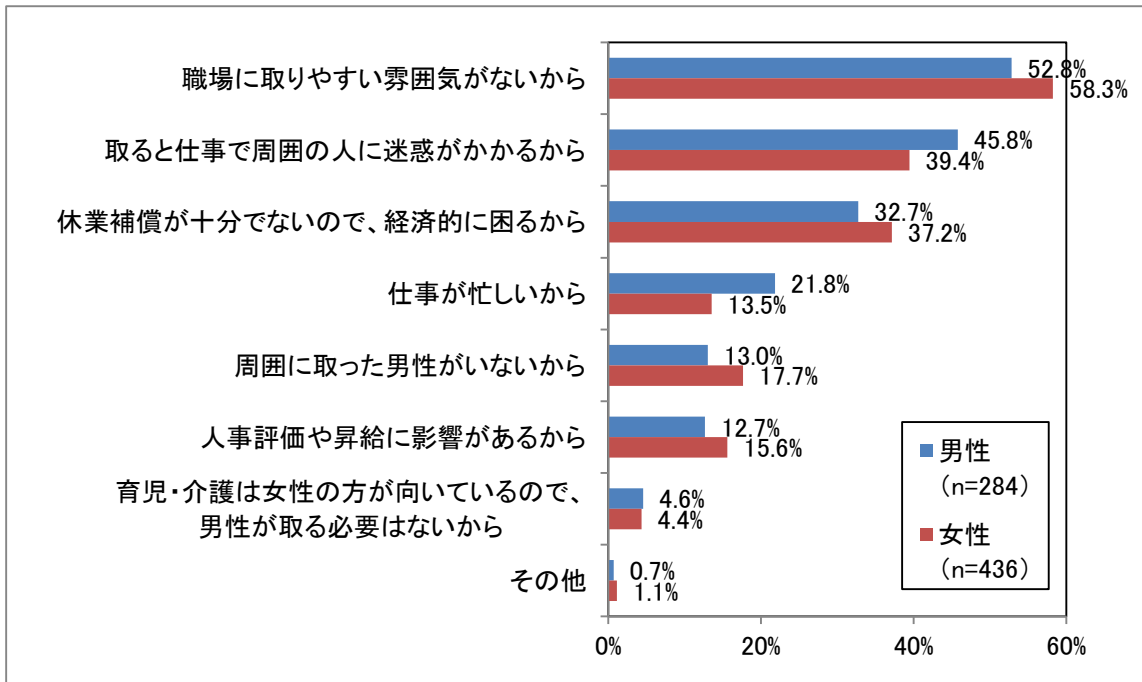
問13. 男性の育児休業取得率が低い理由は何だと思いますか。(複数回答)

- ・「職場に取りやすい雰囲気がないから」の割合(55.4%)が第1位で、第2位「取ると仕事で周囲の人に迷惑がかかるから」(41.1%)、第3位「休業補償が十分でないので、経済的に困るから」(35.7%)となっている。
- ・男女別、年代別とも「全体」と概ね同じ傾向となっている。

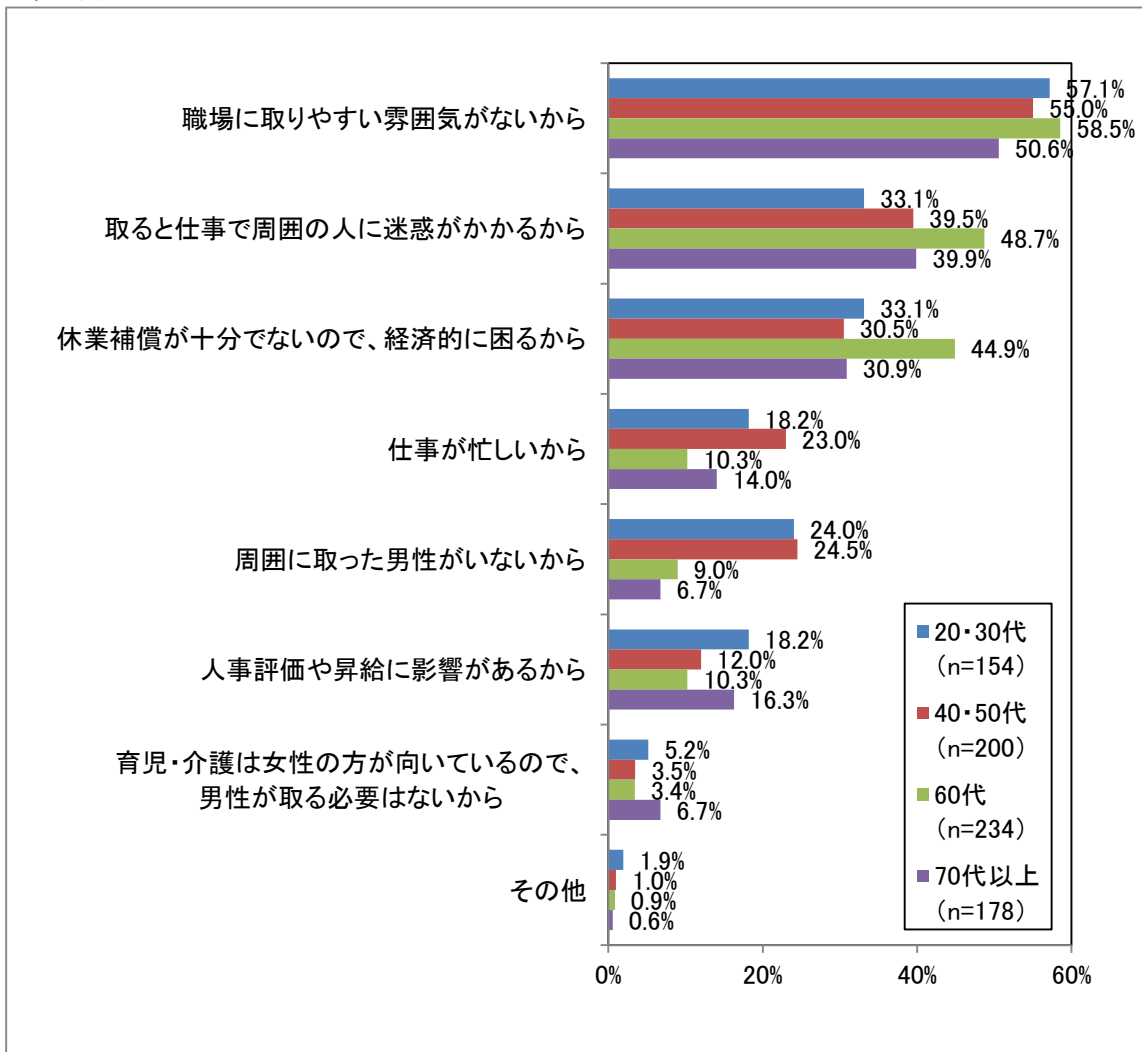
・全体



・男女別



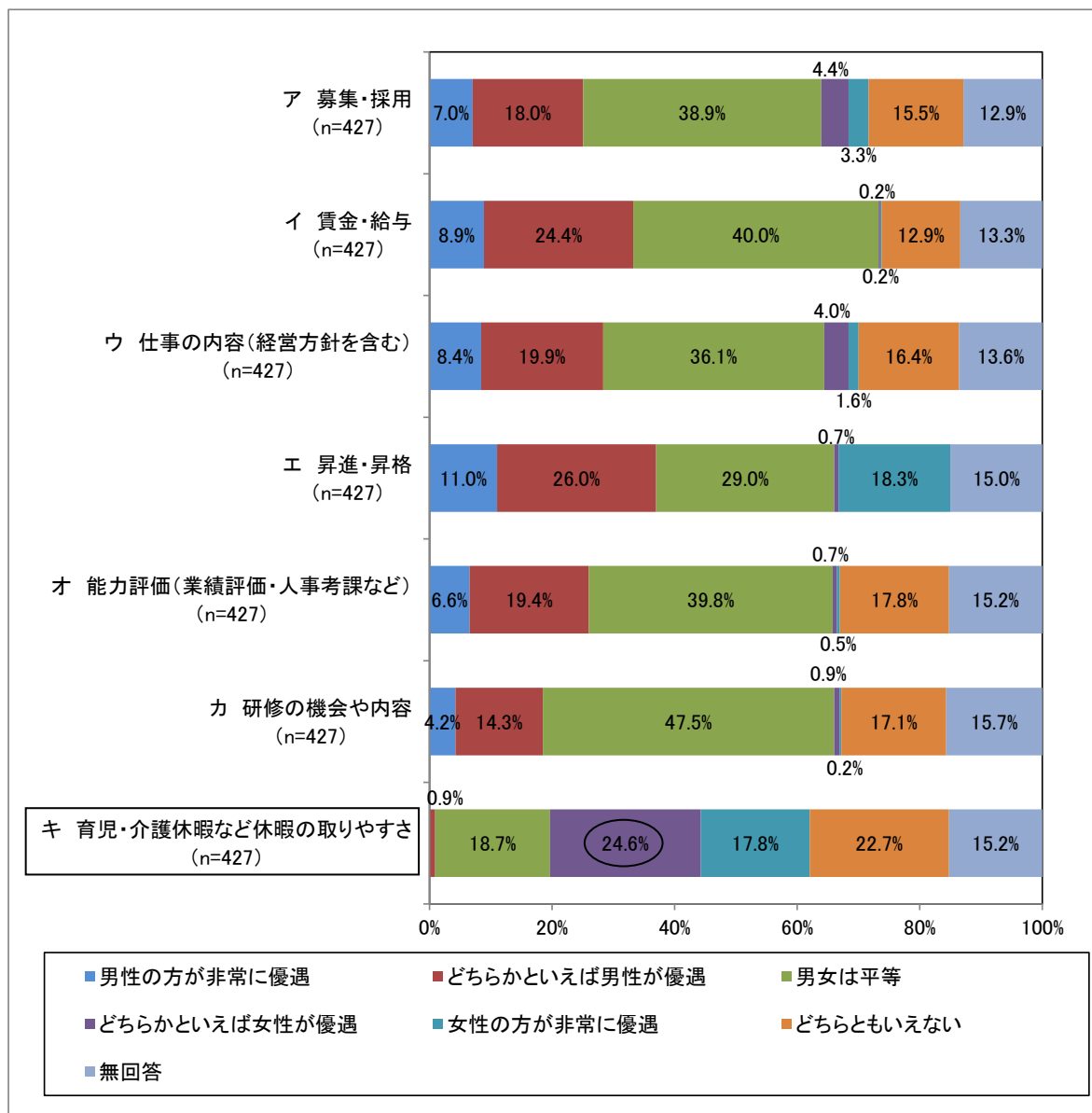
・年代別



問14. あなたの職場では次のような分野で、性別によって差があると思いますか。

(現在働いている人)

・全体的に「男女平等」の割合が高くなっているが、「キ 育児・介護休暇など休暇の取りやすさ」は「どちらかといえば女性が優遇」の割合(24.6%)が高い。

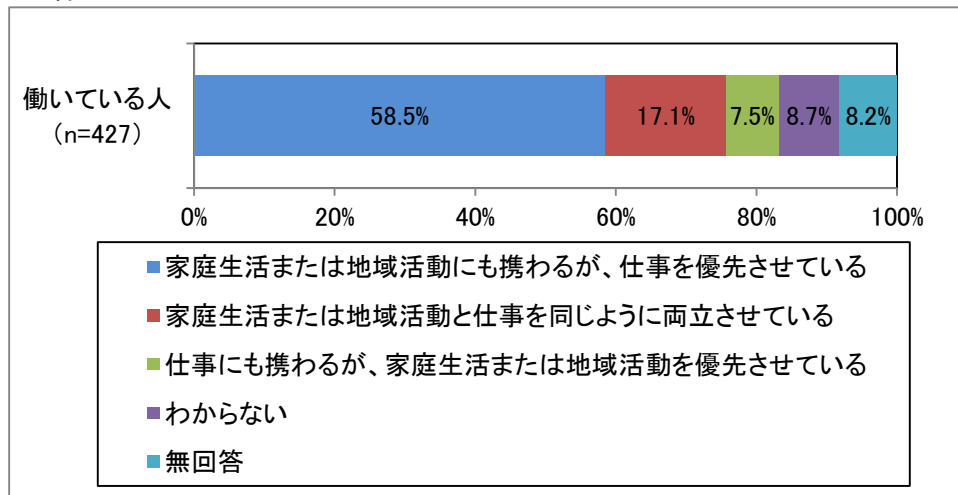


問15. 現在の仕事と家庭生活・地域活動のバランスを教えてください。

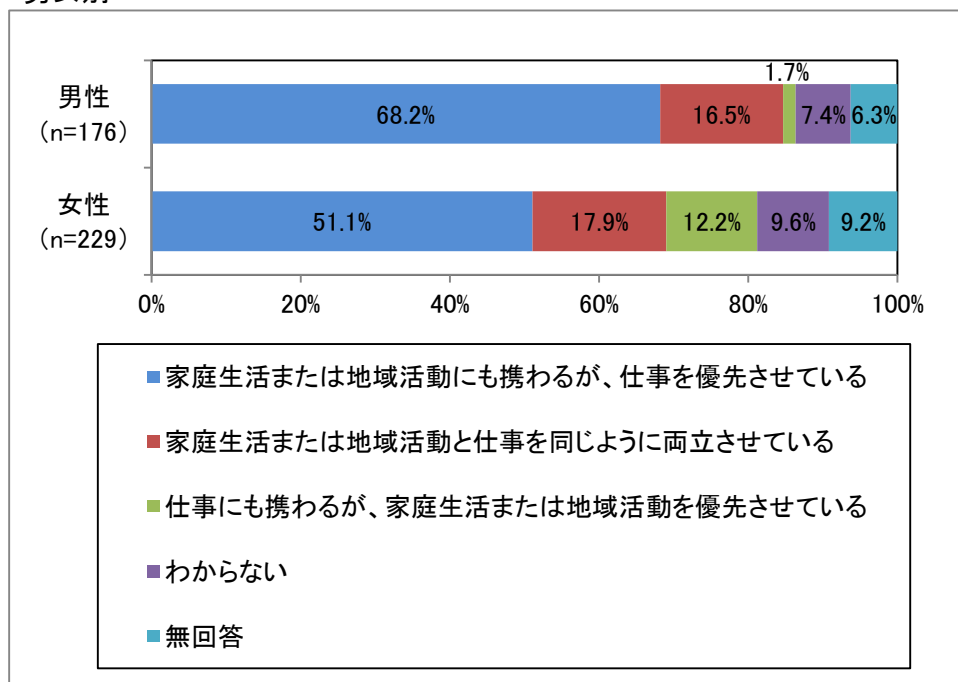
(現在働いている人)

- ・「家庭生活または地域活動にも携わるが、仕事を優先させている」の割合(58.5%)が最も高くなっている。
- ・男女別では「家庭生活または地域活動にも携わるが、仕事を優先させている」は男性が女性を17.1ポイント上回っている。

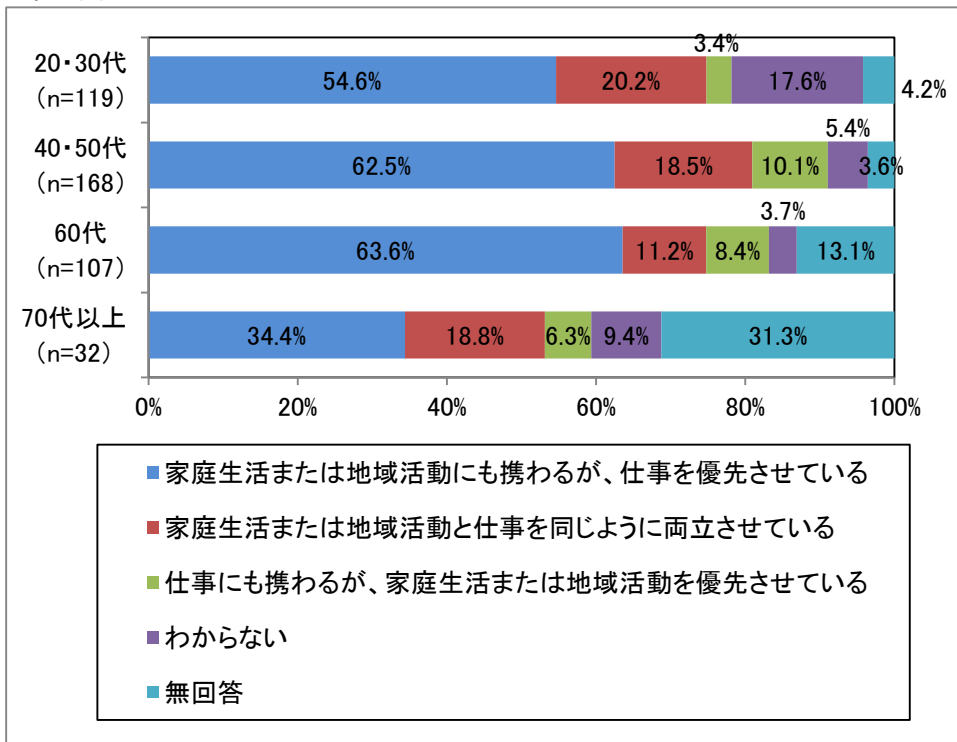
・全体



・男女別



・年代別

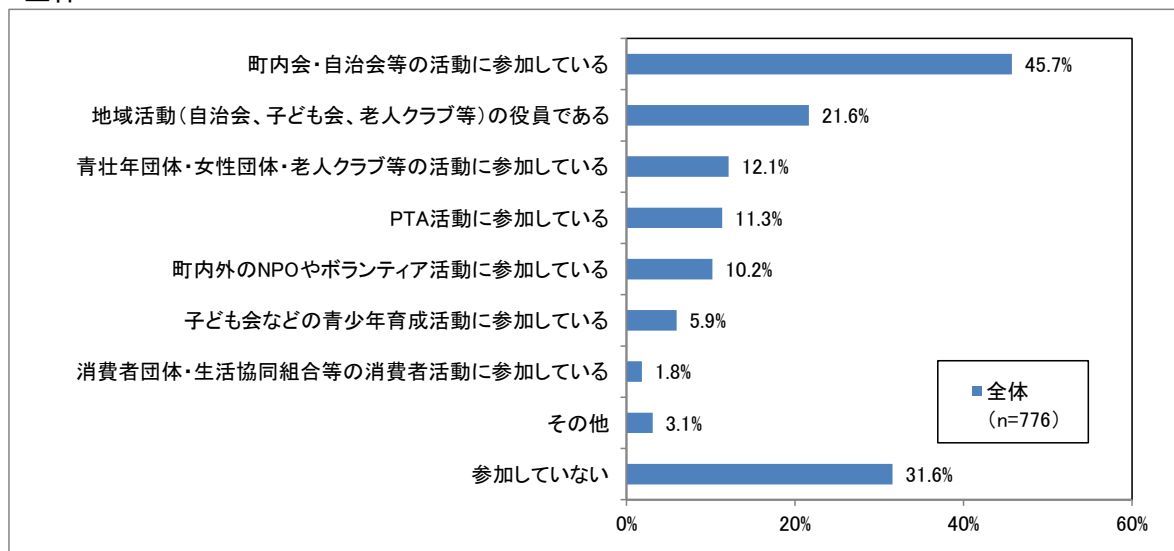


3. 地域・社会活動について

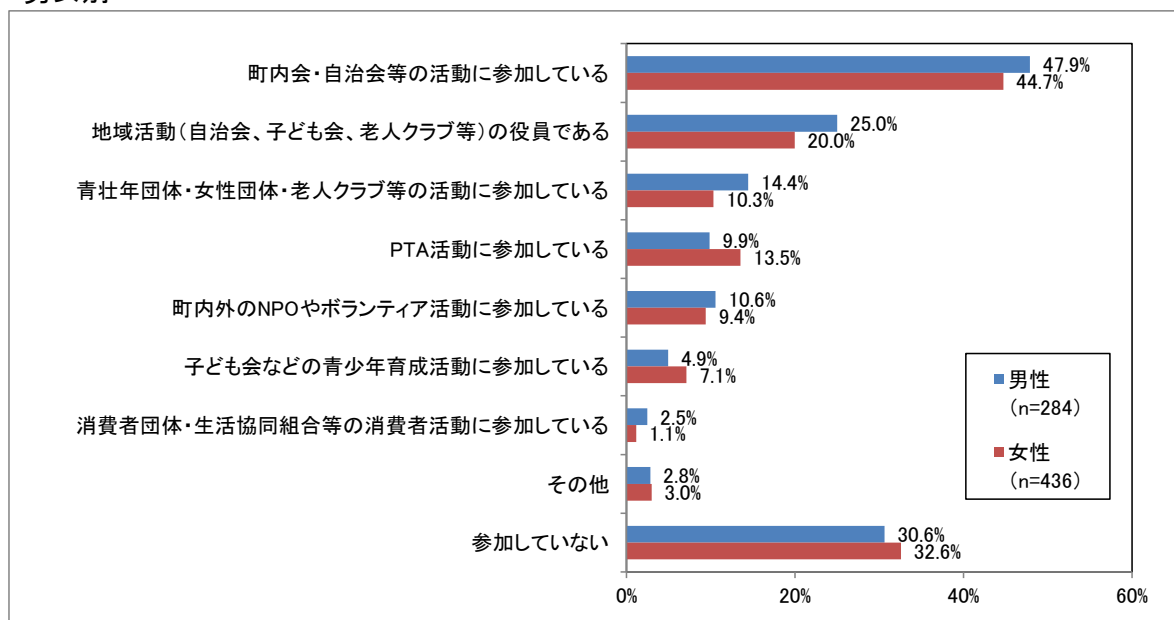
問16. あなたは日頃から地域活動に参加（この1年間程度）していますか。（複数回答）

- ・「町内会・自治会等の活動に参加している」の割合(45.7%)が最も高くなっている。「参加していない」は31.6%となっている。
- ・男女別でも上記と概ね同じ傾向となっている。
- ・年代別では「20・30代」で「参加していない」の割合(54.3%)が半数を超えている。

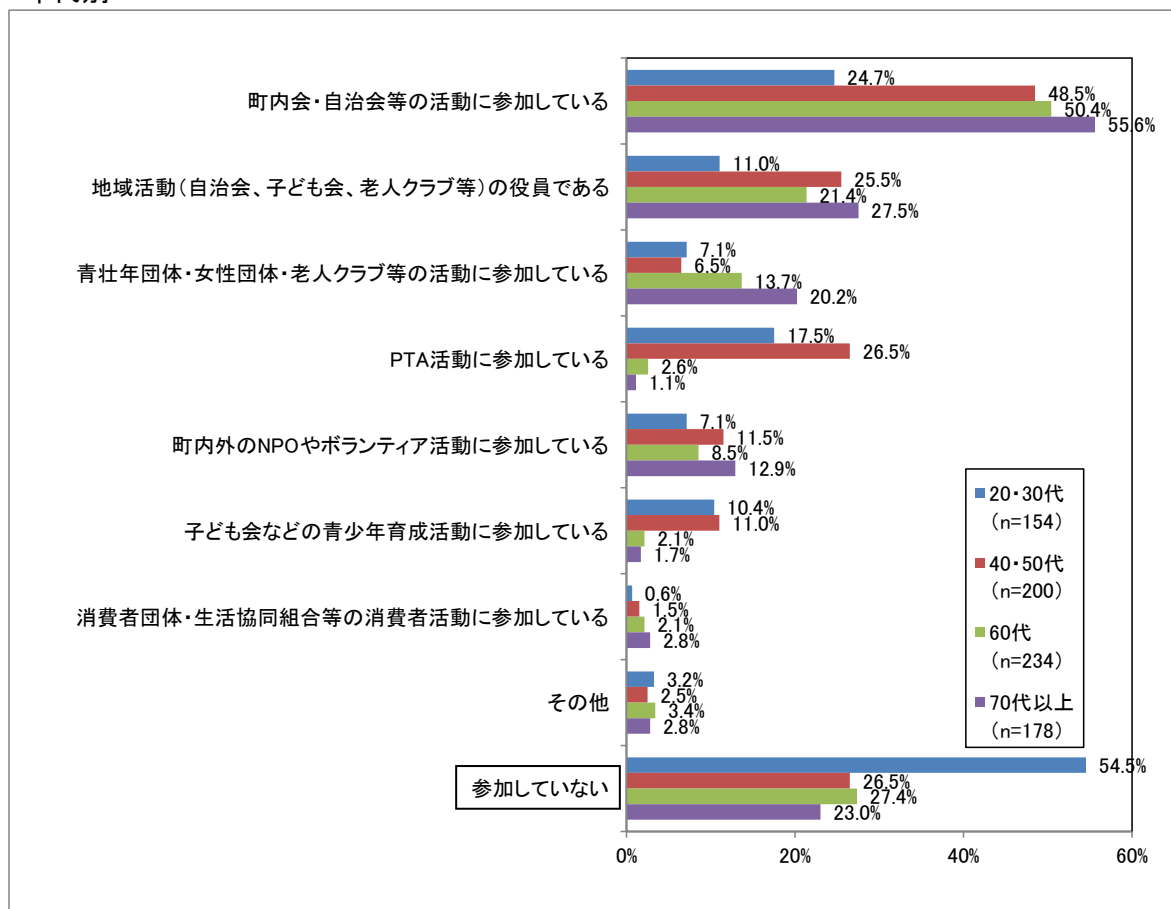
・全体



・男女別



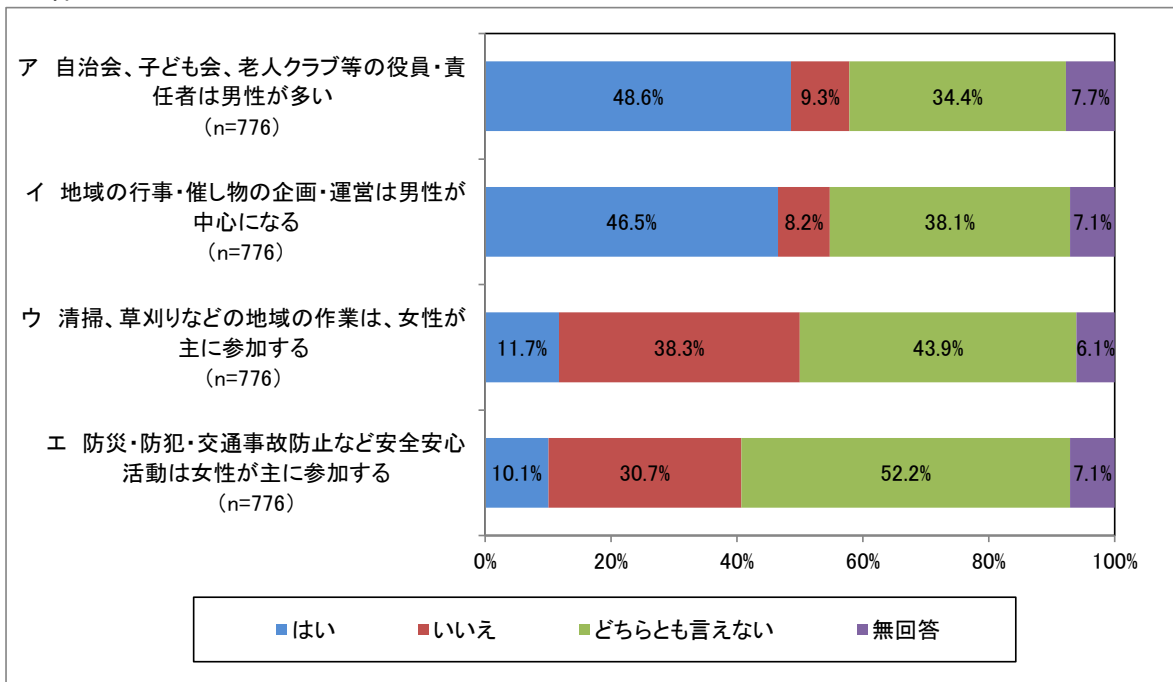
・年代別



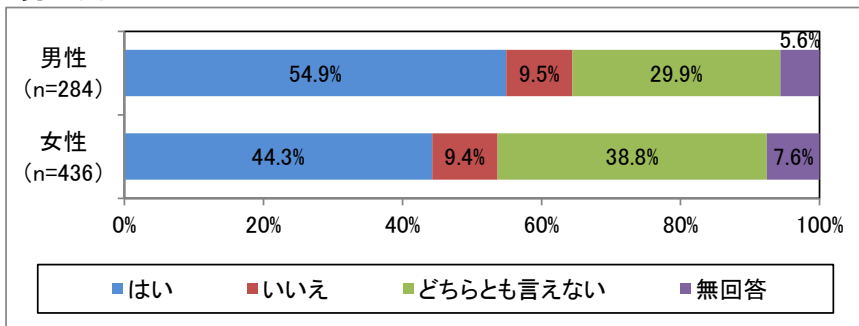
問17. 地域社会の慣習等について、あなたの地域では次（下記ア～エ）のようなことはありますか。

- ・「ア 自治会、子ども会、老人クラブ等の役員・責任者は男性が多い」や「イ 地域の行事・催し物の企画・運営」では「男性が多い」という回答が約半数となっている。
- ・「ウ 清掃、草刈りなどの地域の作業は、女性が主に参加する」では、「いいえ」(38.3%)が「はい」(11.7%)を上回っている。
- ・また、「エ 防災・防犯・交通事故防止など安全安心活動は女性が主に参加する」では「いいえ」(30.7%)が「はい」(10.1%)を上回っている。

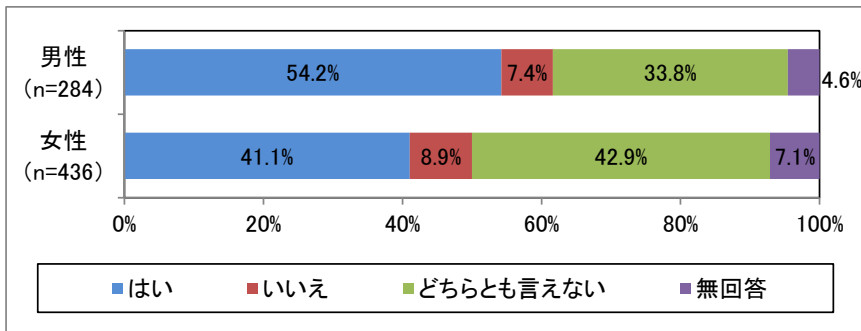
・全体



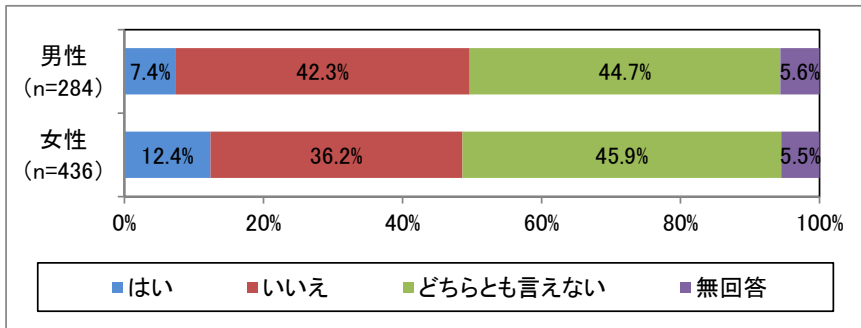
ア 自治会、子ども会、老人クラブ等の役員・責任者は男性が多い
・男女別



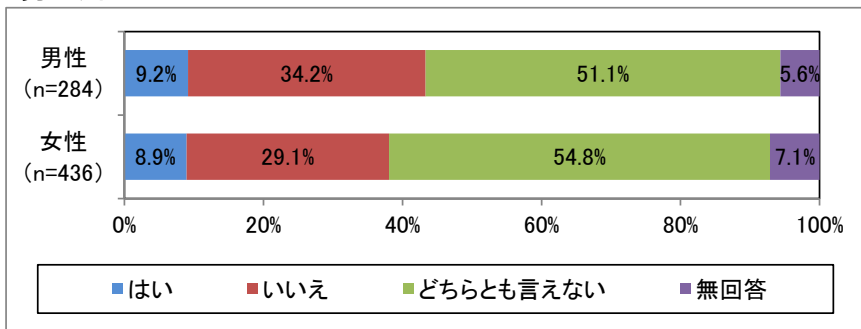
イ 地域の行事・催し物の企画・運営は男性が中心になる
・男女別



ウ 清掃、草刈りなどの地域の作業は、女性が主に参加する
・男女別



エ 防災・防犯・交通事故防止など安全安心活動は女性が主に参加する
・男女別

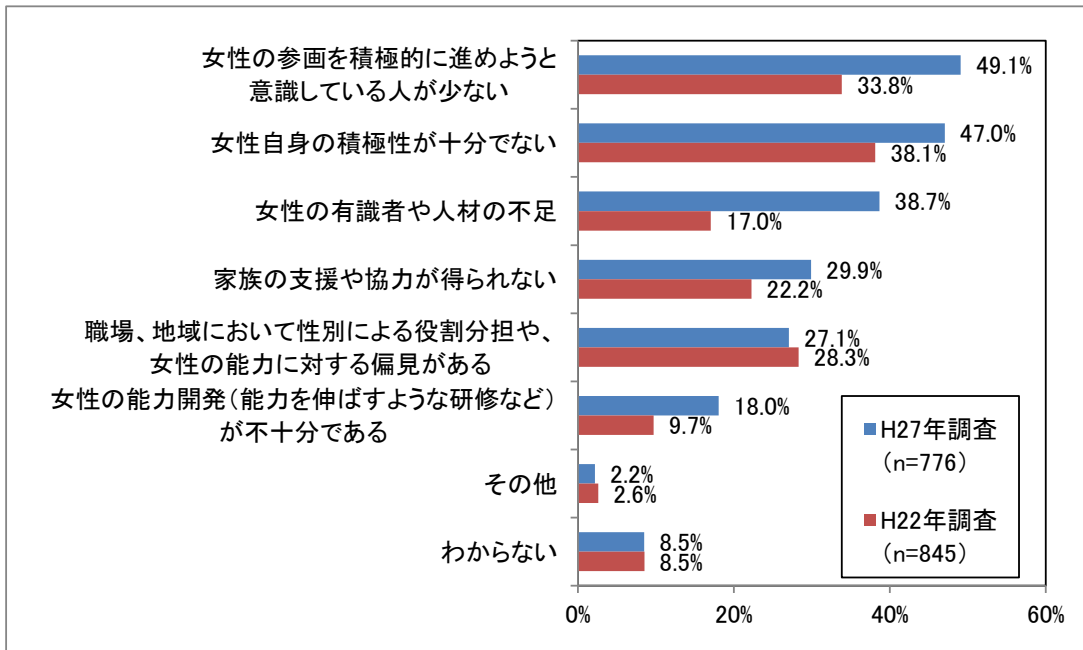


問18. 近年、女性の社会進出は進みつつあるものの、町議会議員、町の審議会委員、自治会の役員、団体等の役員にはまだ女性は少ないのが現状です。

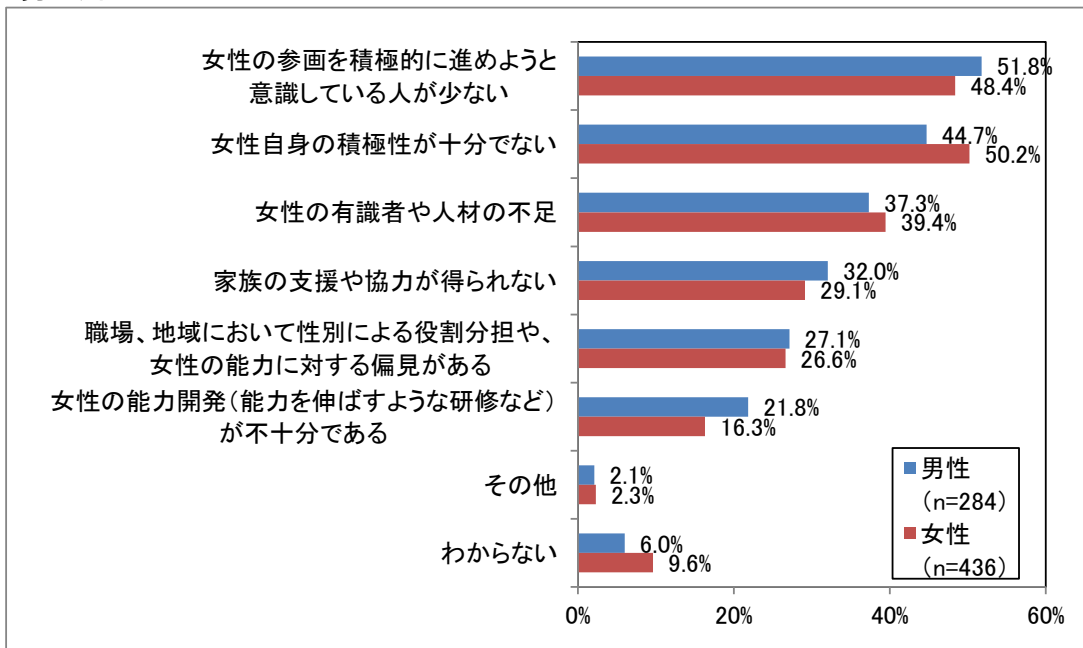
政策の企画や方針決定の過程に女性が少ない理由は何だと思えますか。(複数回答)

- ・「女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ない」(49.1%)、「女性自身の積極性が十分でない」(47.0%)、「女性の有識者や人材の不足」(38.7%)が上位3項目となっており、前回と比べてそれぞれ15.3ポイント、8.9ポイント、21.7ポイント増加している。
- ・男女別では、女性は「女性自身の積極性が十分でない」が第1位(50.2%)となっている。
- ・年代別では、「40・50代」は「家族の支援や協力が得られない」が38.5%で他の年代と比べて高くなっている。
- ・「働いている人」も「全体」と概ね同じ傾向となっている。

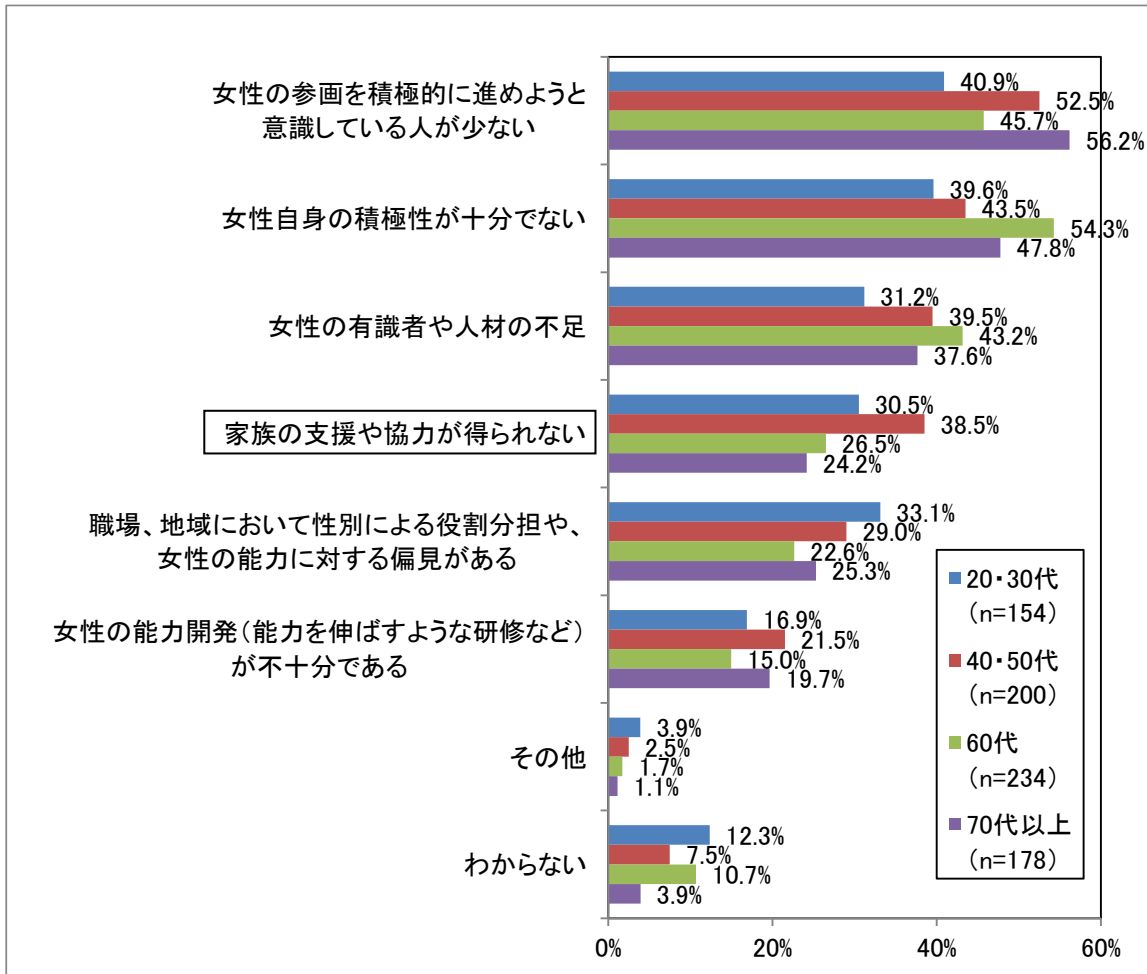
・全体



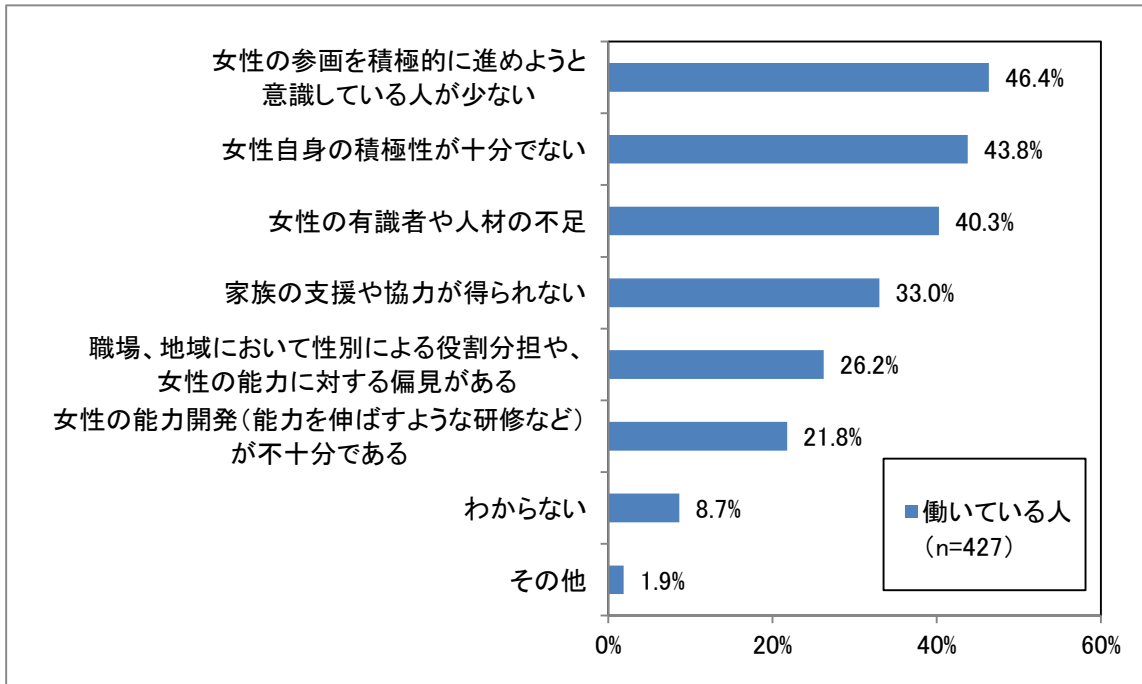
・男女別



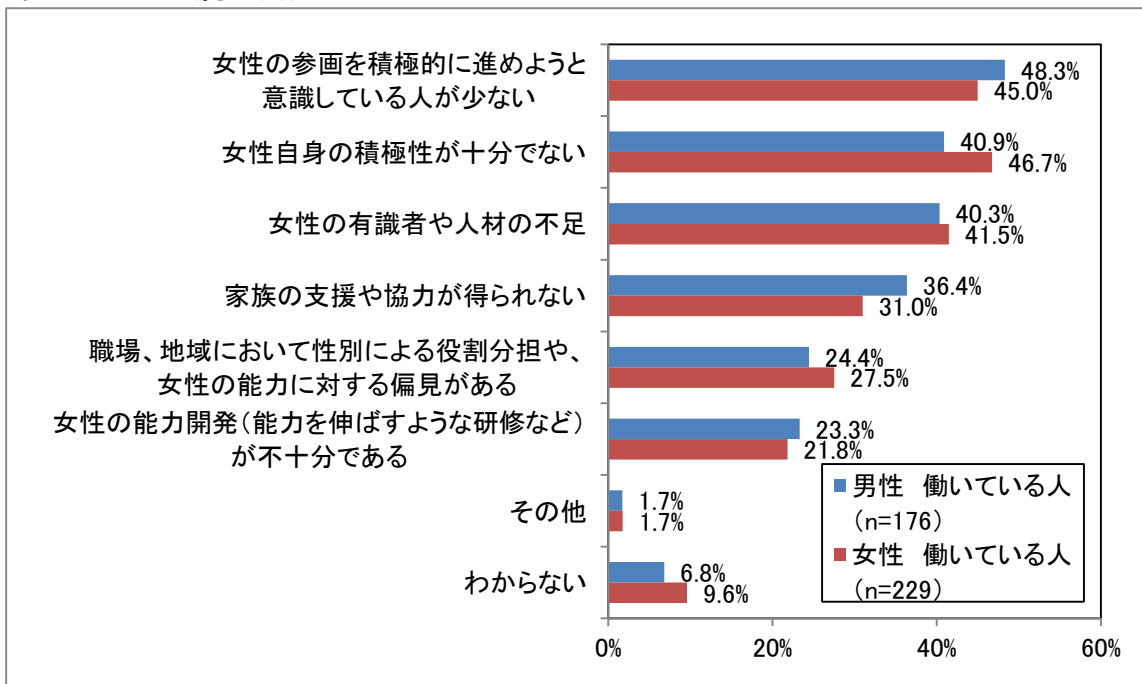
・年代別



・働いている人



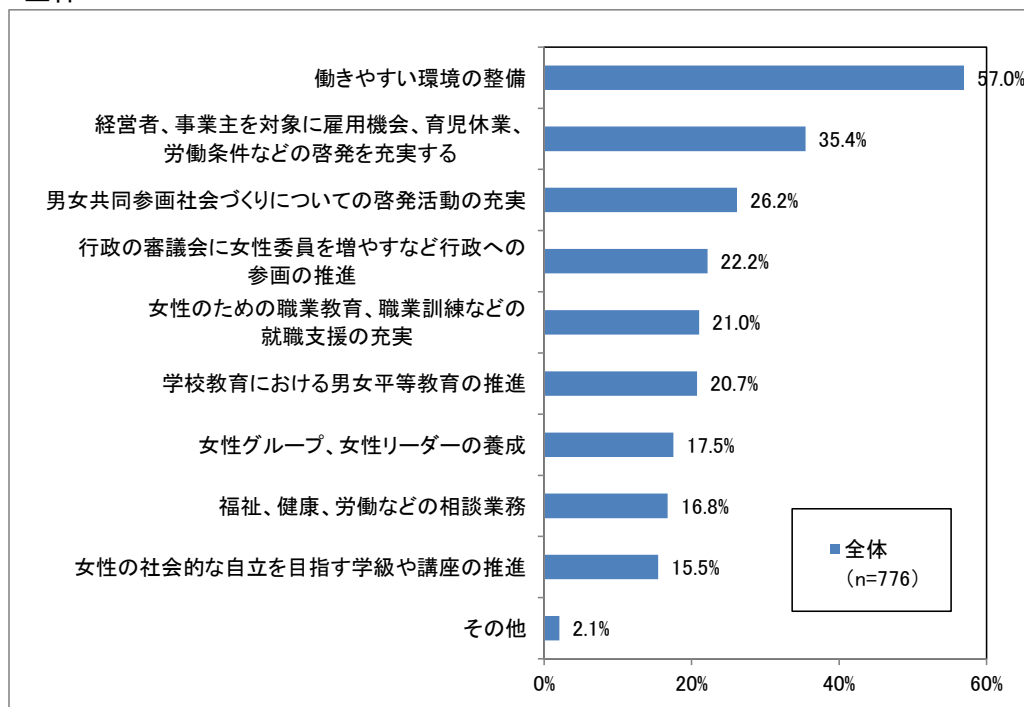
・働いている人(男女別)



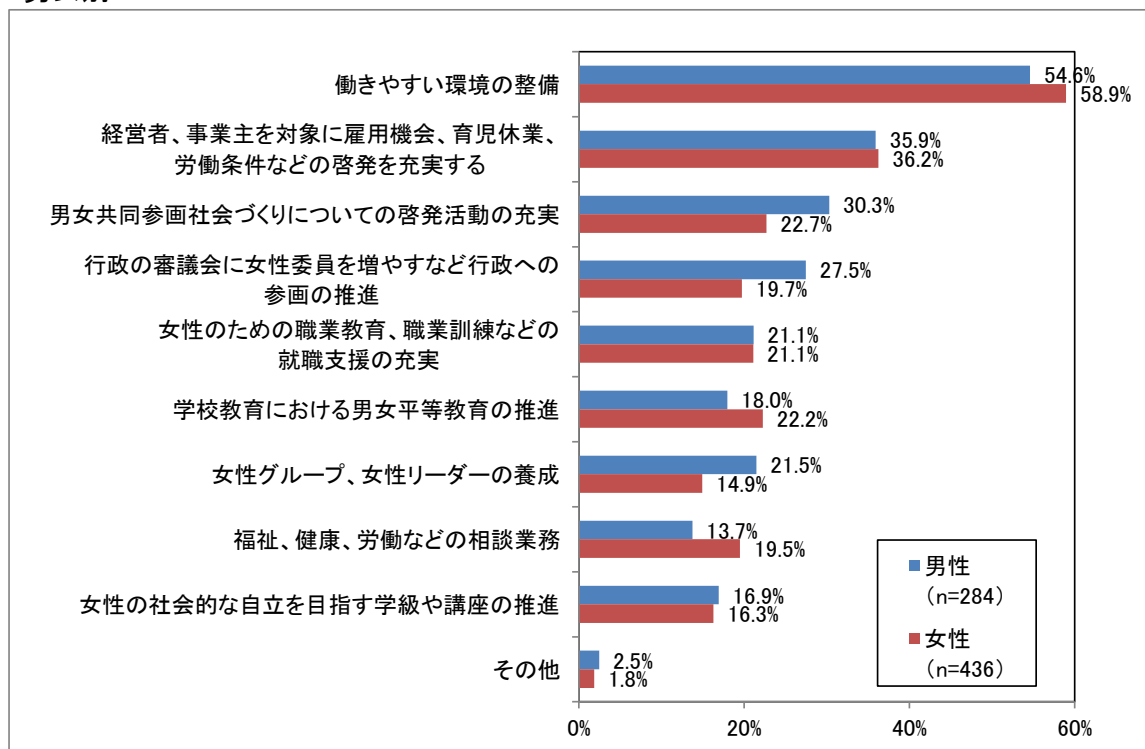
問19. 「男女共同参画社会」を形成するために、町（役場）は今後どのような施策に力を入れれば良いと思いますか。（複数回答）

- ・「働きやすい環境の整備」(57.0%)の割合が最も高くなっている。
- ・男女別・年代別でも「全体」と概ね同じ傾向となっている。

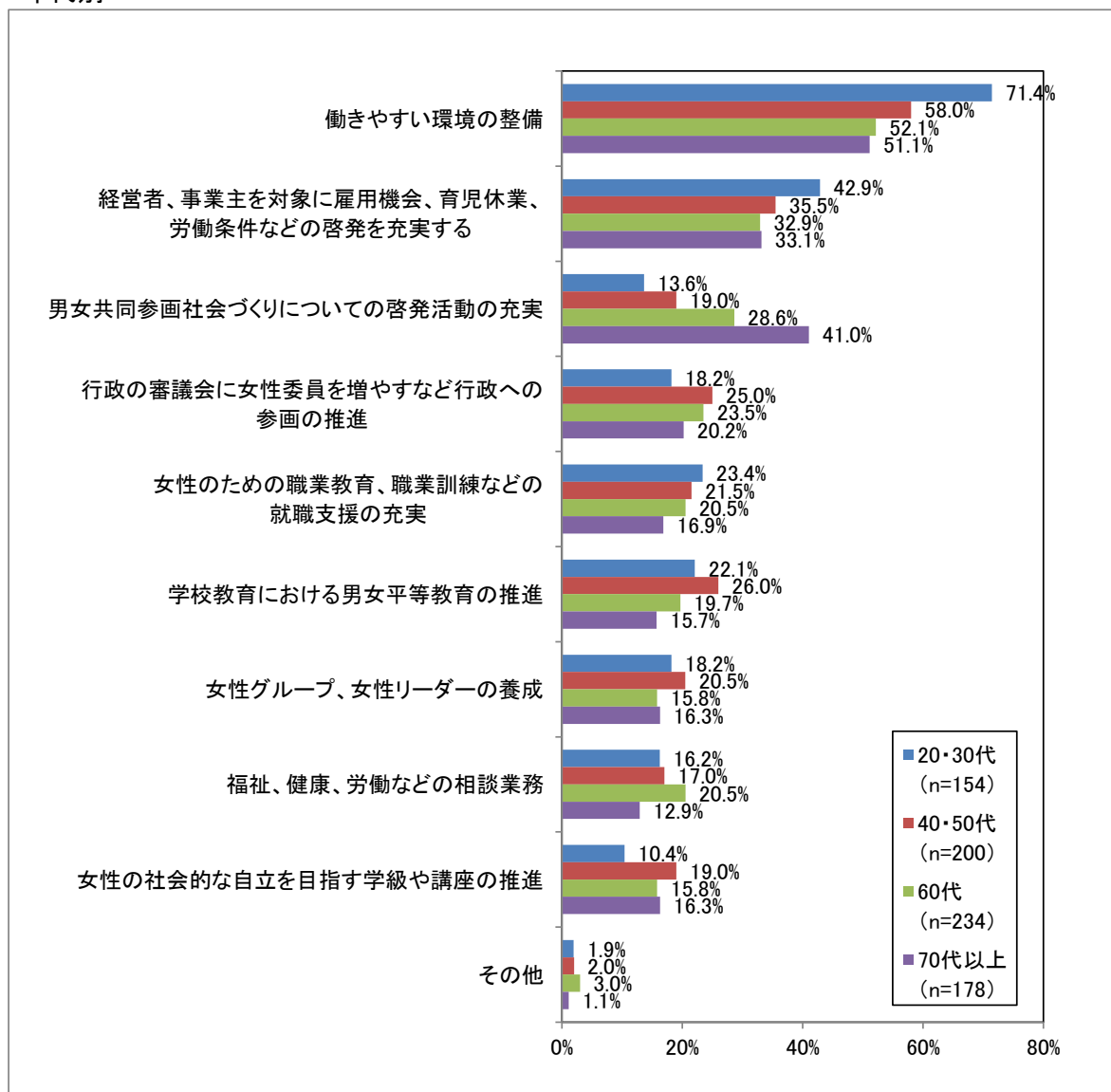
・全体



・男女別



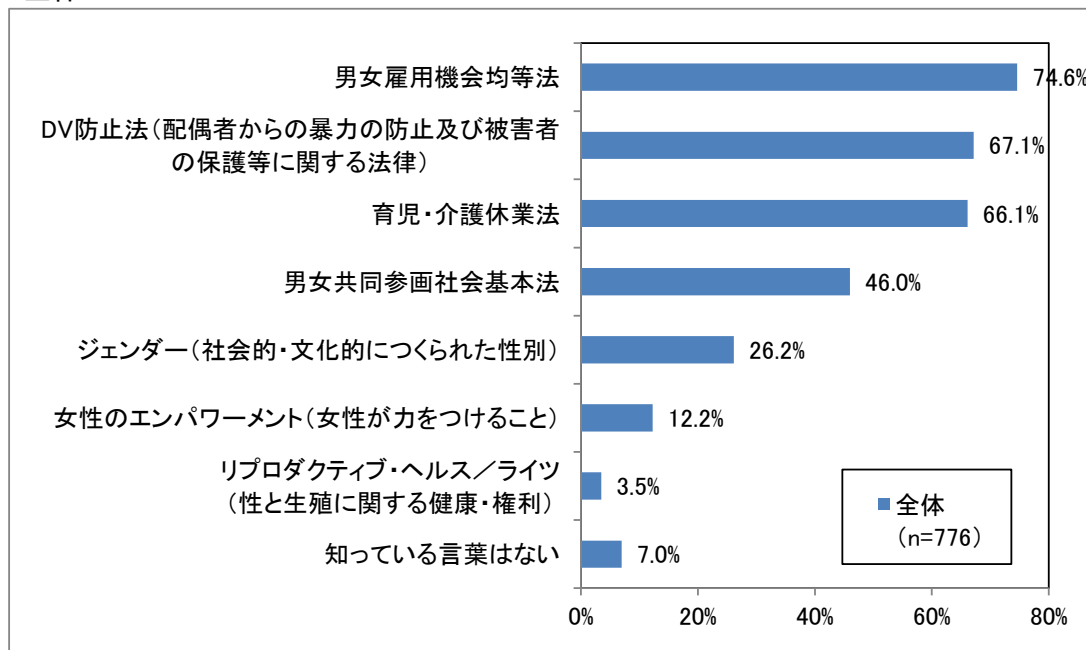
・年代別



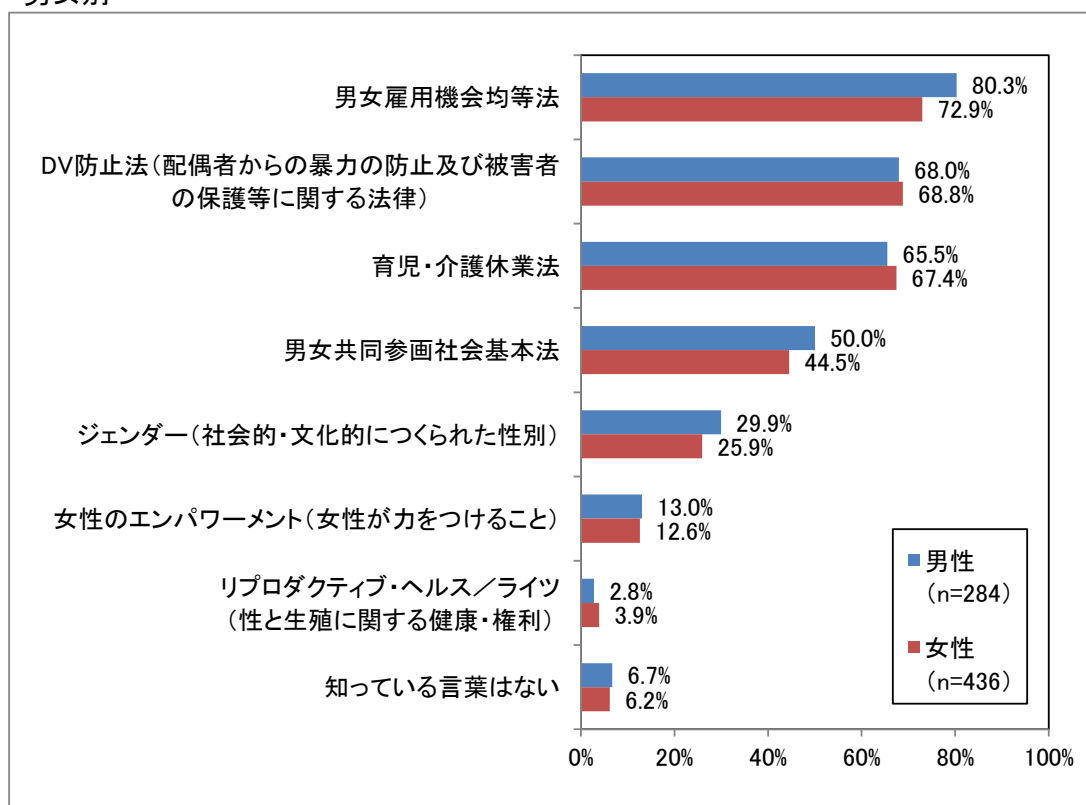
問20. 男女共同参画に関する言葉には下記のようなものがあります。この中で、あなたが見たり、聞いたりしたことがある言葉を教えてください。（複数回答）

- ・「男女雇用機会均等法」の割合(74.6%)が最も高く、次いで「DV防止法(配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律)」(67.1%)、「育児・介護休業法」(66.1%)となっている。
- ・男女別・年代別でも「全体」と概ね同じ傾向となっているが、「40・50代」は「DV防止法」(78.0%)、「育児・介護休業法」(75.5%)が高くなっている。

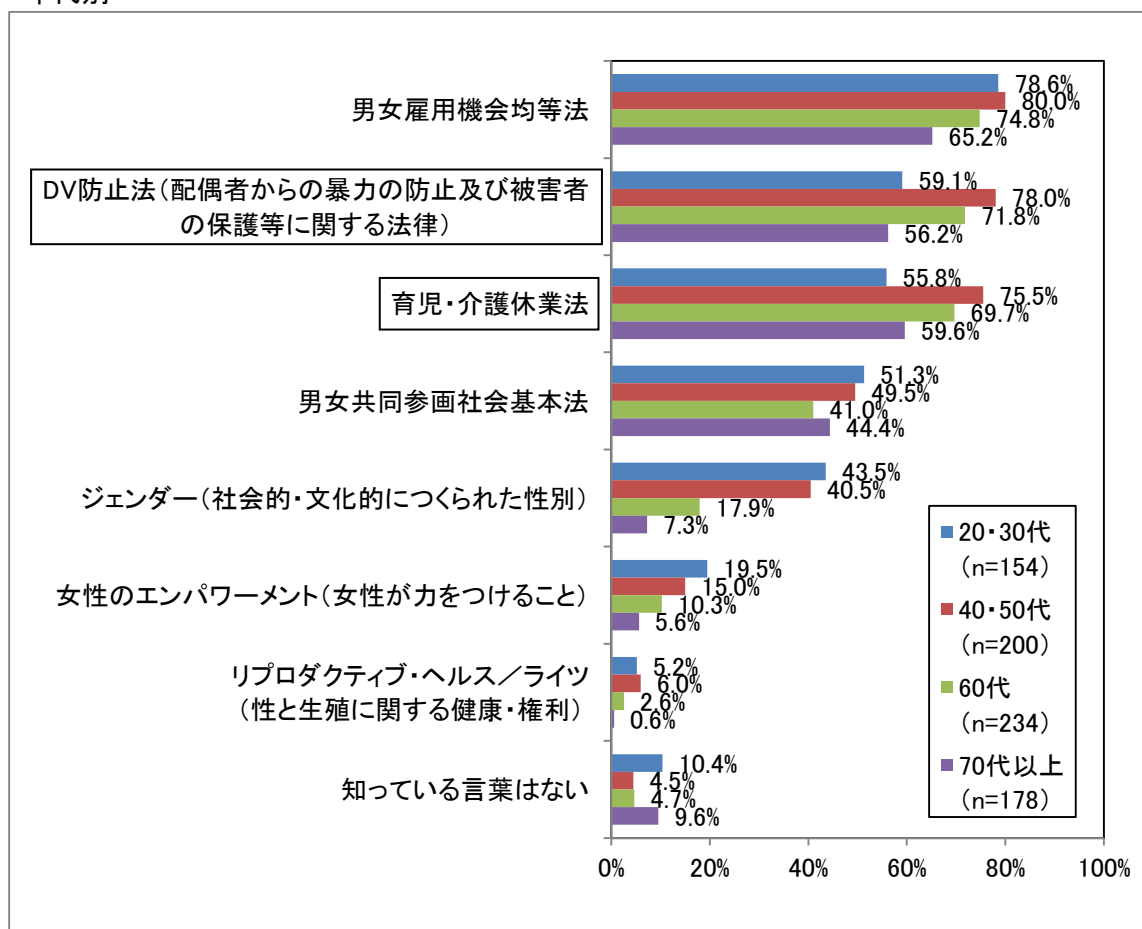
・全体



・男女別



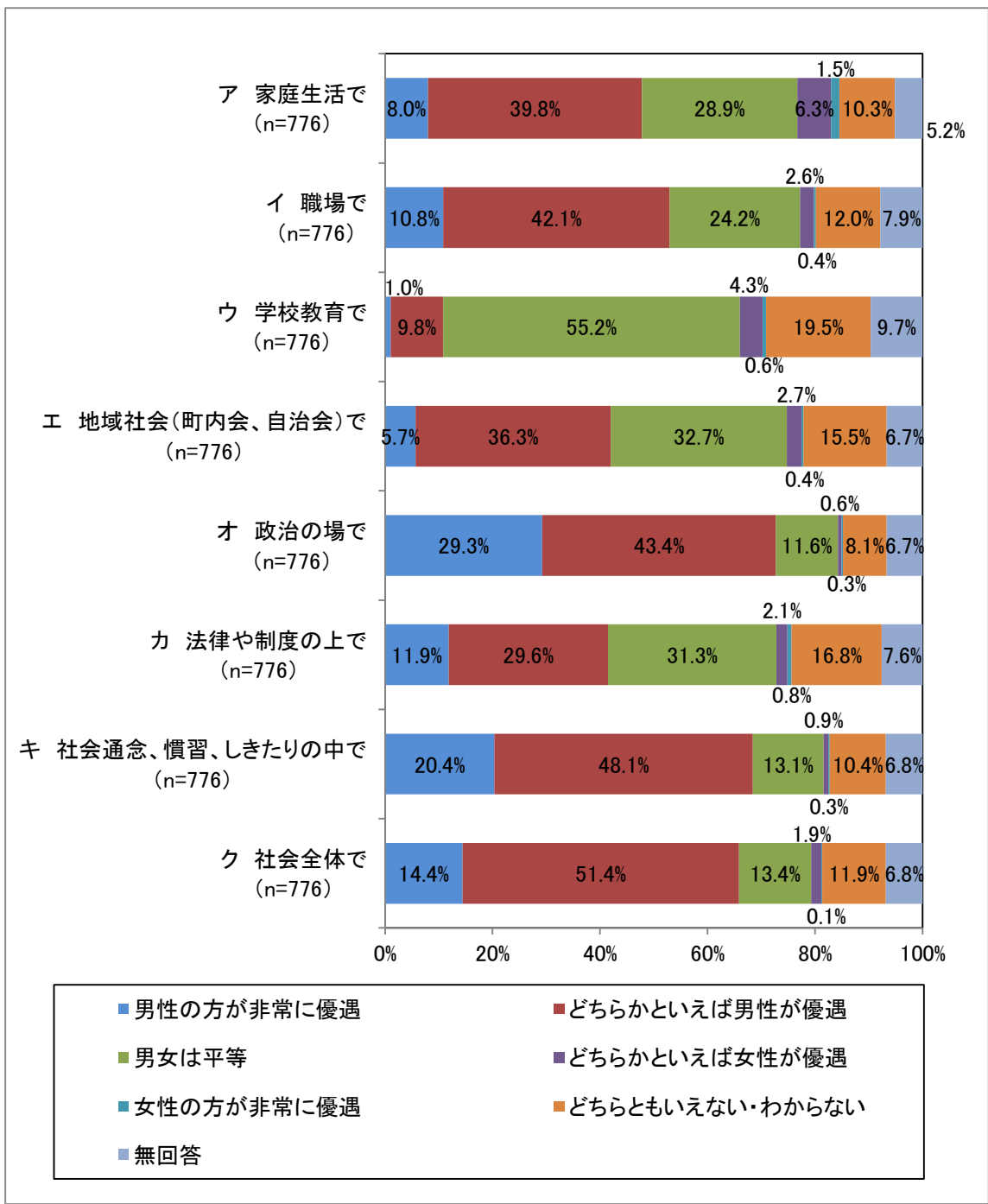
・年代別



4. 男女平等意識について

問21. 次の分野で、男女の地位は平等だと思いますか。それぞれの分野について、あてはまるものを選んでください。

・「ウ 学校教育」では「男女は平等」割合(55.2%)が半数を超えているが、その他の項目では「男性の方が優遇」の割合が高くなっている。



・前回との比較

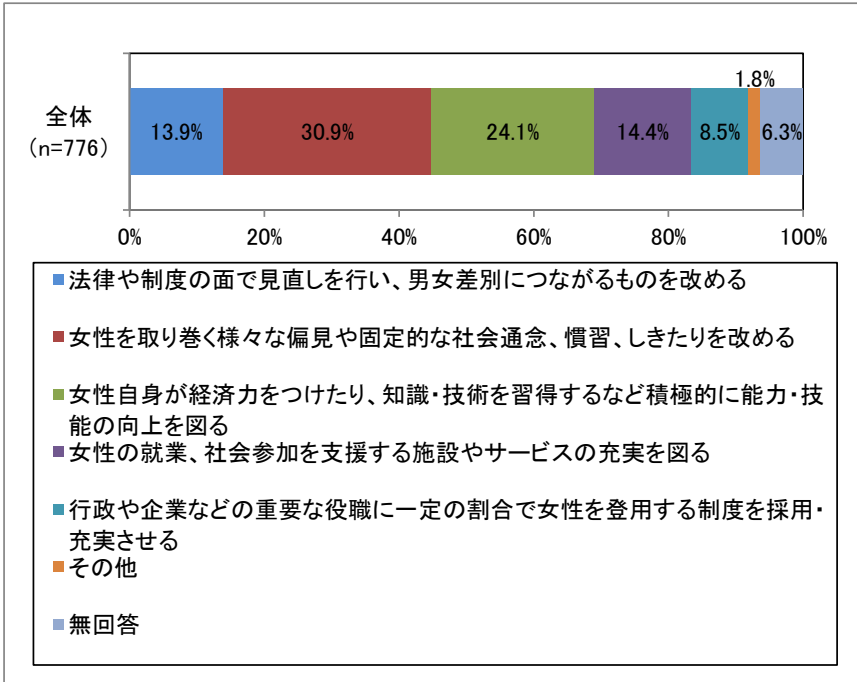
項目	調査年	男性優遇	男女は平等	女性優遇	合計
ア 家庭生活で	H27年調査(n=776)	47.8%	28.9%	7.9%	776
	H22年調査(n=845)	57.2%	31.5%	7.9%	845
イ 職場で	H27年調査(n=776)	53.0%	24.2%	3.0%	776
	H22年調査(n=845)	63.8%	27.6%	4.0%	845
ウ 学校教育で	H27年調査(n=776)	10.8%	55.2%	4.9%	776
	H22年調査(n=845)	14.9%	74.1%	6.3%	845
エ 地域社会(町内会、自治会)で	H27年調査(n=776)	42.0%	↑ 32.7%	3.1%	776
	H22年調査(n=845)	58.6%	29.8%	7.1%	845
オ 政治の場で	H27年調査(n=776)	↑ 72.7%	11.6%	0.9%	776
	H22年調査(n=845)	71.2%	23.8%	1.1%	845
カ 法律や制度の上で	H27年調査(n=776)	↑ 41.5%	31.3%	2.8%	776
	H22年調査(n=845)	41.3%	47.7%	6.5%	845
キ 社会通念、慣習、しきたりの中で	H27年調査(n=776)	68.4%	13.1%	1.2%	776
	H22年調査(n=845)	73.5%	19.9%	3.1%	845
ク 社会全体で	H27年調査(n=776)	65.8%	16.9%	↑ 3.9%	284
	H22年調査(n=845)	69.9%	23.4%	3.0%	845

※矢印は前回調査よりも割合が増加したもの

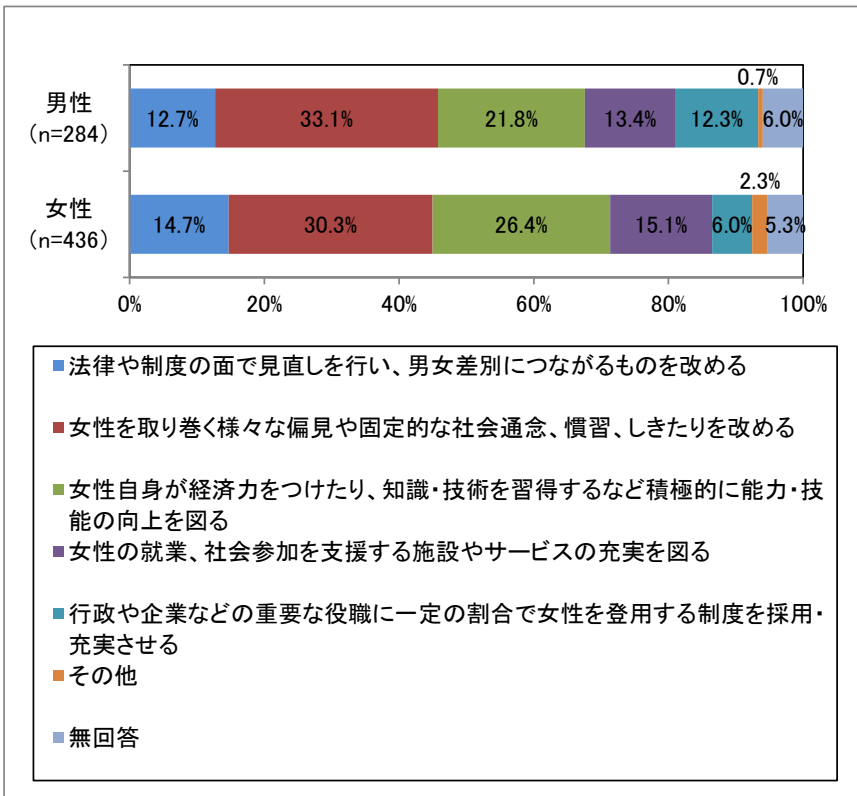
問22. 今後、男女があらゆる分野でもっと平等になるために、最も重要だと思われることは何でしょうか。

- ・「女性を取り巻く様々な偏見や固定的な社会通念、慣習、しきたりを改める」の割合(30.9%)が最も高く、次いで「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど積極的に能力・技能の向上を図る」(24.1%)となっている。
- ・男女別・年代別とも「全体」と概ね同じ傾向となっている。

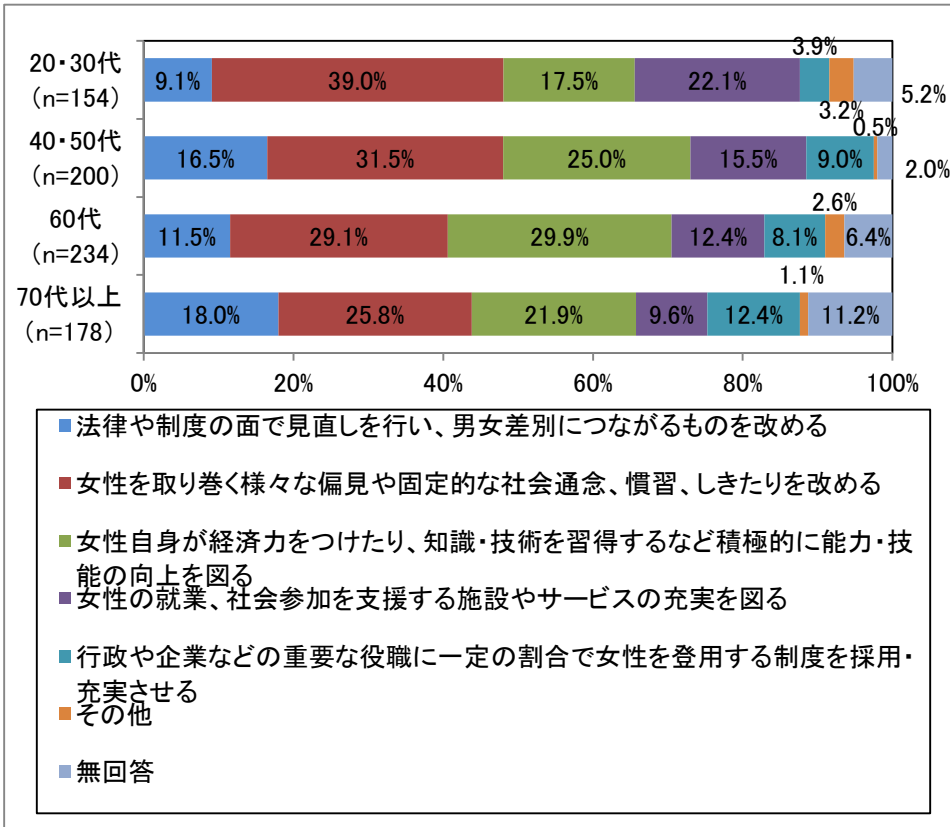
・全体



・男女別



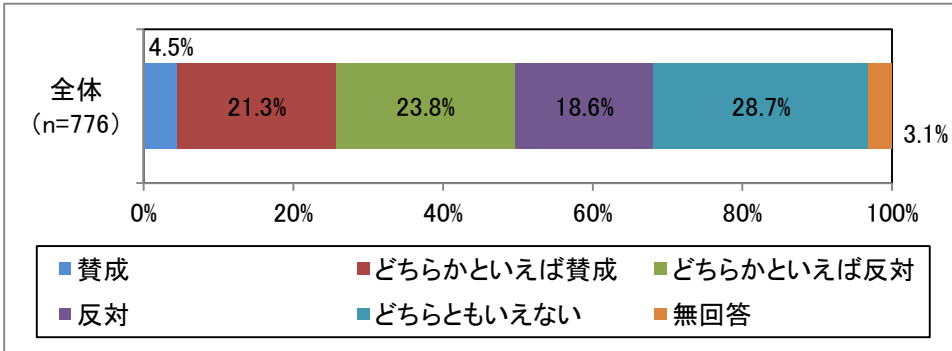
・年代別



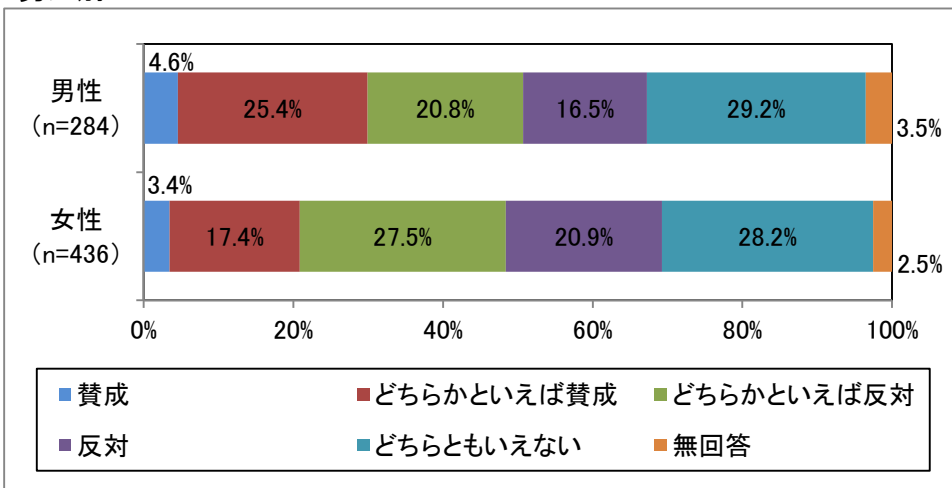
問23. 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどのように思いますか。

- ・「賛成」「どちらかといえば賛成」「賛成」は25.8%で、「反対」「どちらかといえば反対」「反対」は42.4%となっている。
- ・男女別では、女性の「反対」(48.4%)が男性の「反対」(36.8%)を上回っている。
- ・年代別では、年代が高くなるにつれて「賛成」の割合が高くなっている。

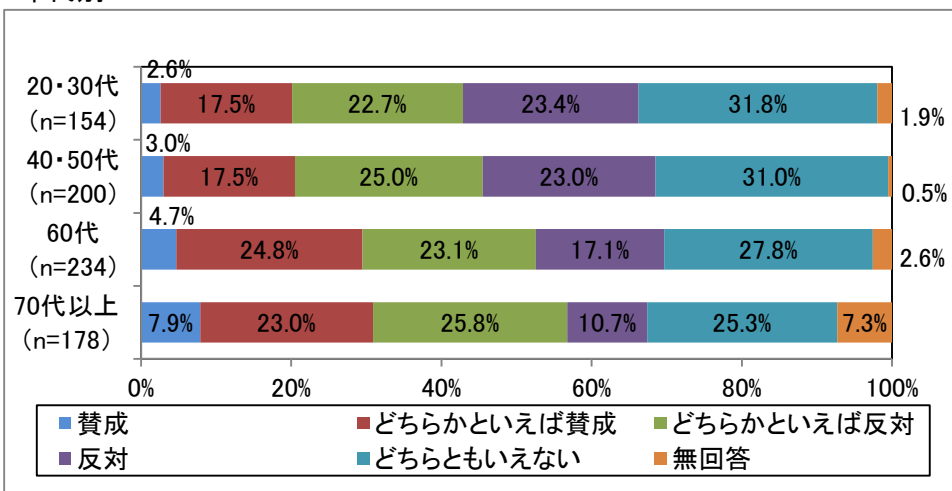
・全体



・男女別



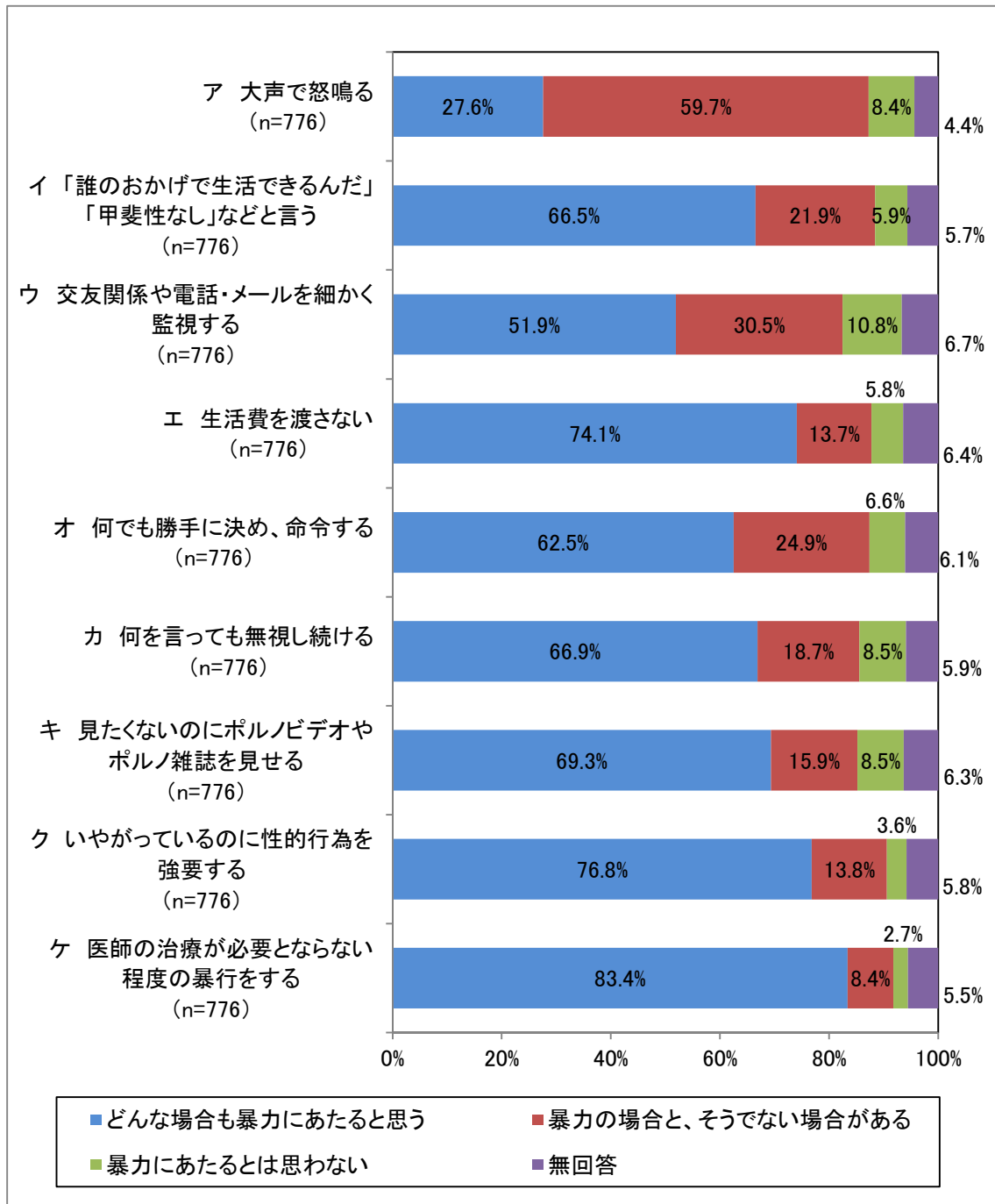
・年代別



5. DV（ドメスティックバイオレンス）防止について

問24. あなたは、あなたの夫や妻、または恋人が、次のようなことをした場合、それを暴力だと思いませんか。

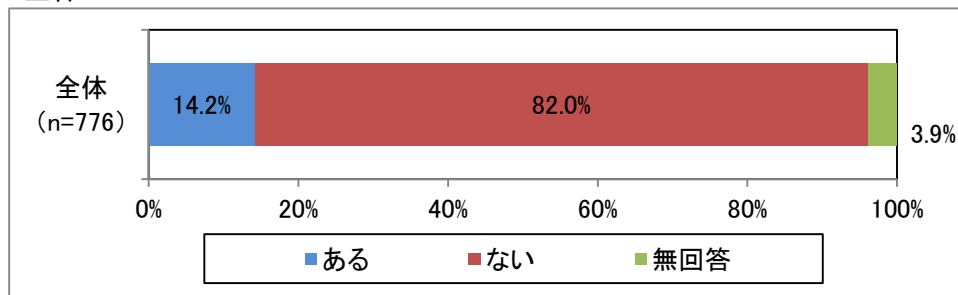
- ・「ア 大声で怒鳴る」については、「暴力の場合と、そうでない場合がある」の割合が約6割となっている。
- ・その他の項目については、「どんな場合も暴力にあたると思う」の割合が半数を超えている。



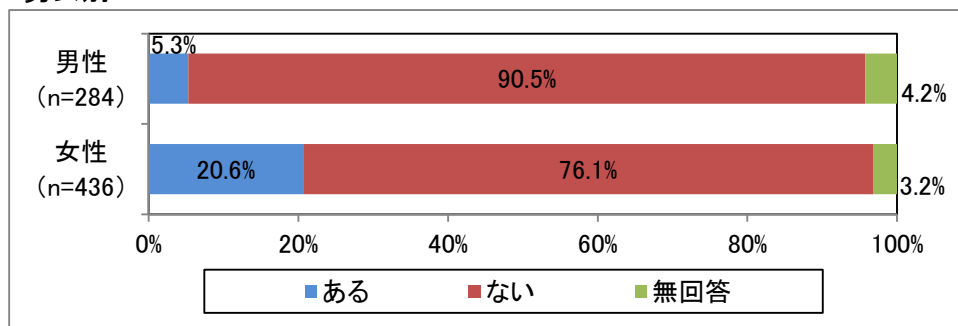
問25. あなたは、あなたの夫や妻、または恋人から暴力を受けた経験はありますか。

- ・「ある」の割合が14.2%となっており、女性では20.6%となっている。
- ・年代別では「40・50代」が他の年代に比べて「ある」の割合がやや高い状況にある。

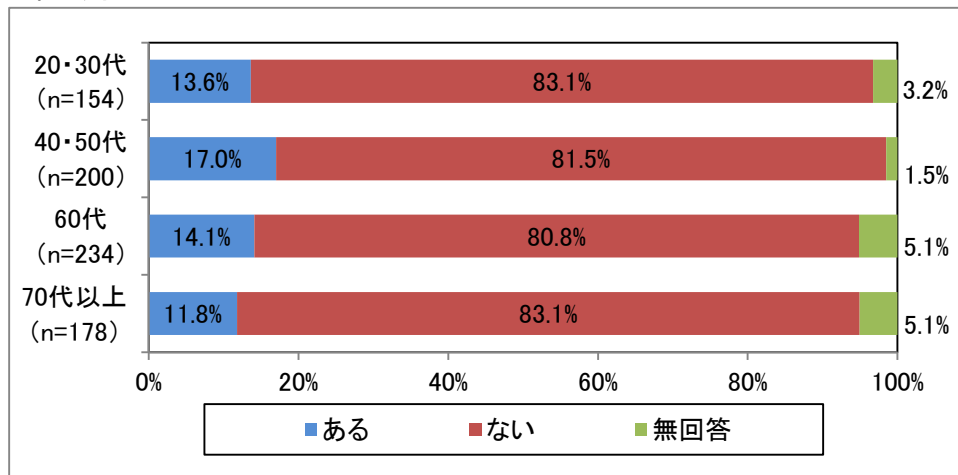
・全体



・男女別



・年代別

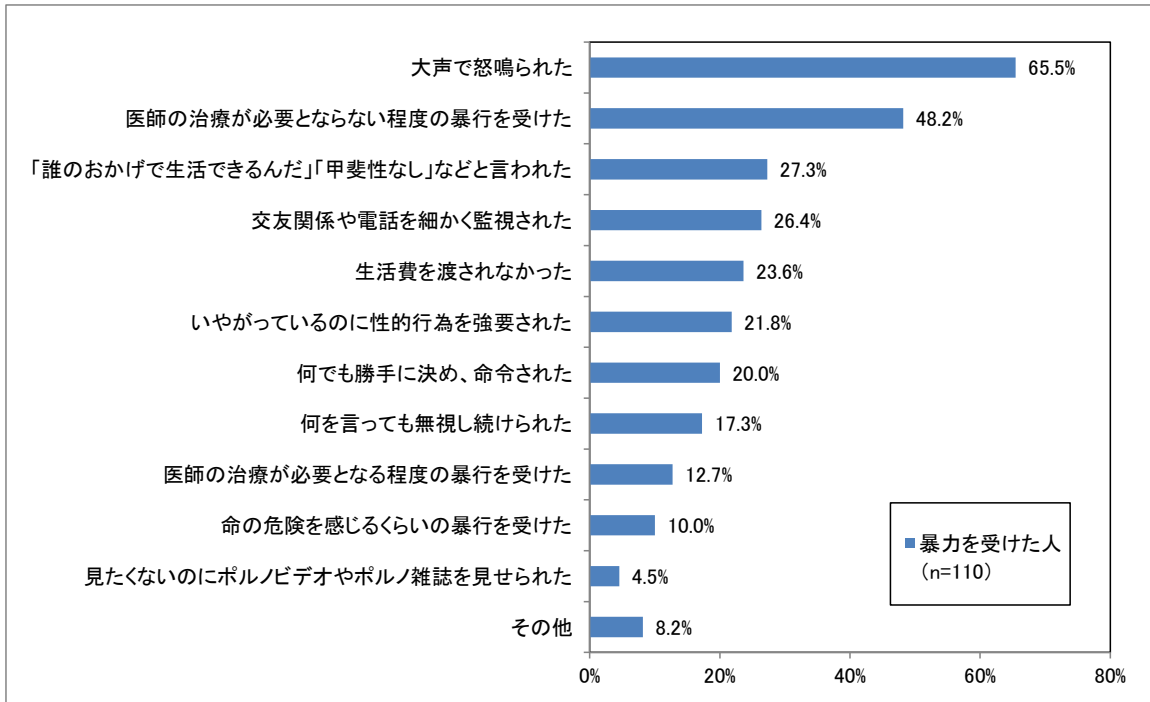


＜暴力を受けたことがある人におたずねします（問25で「1. ある」と回答した人）＞

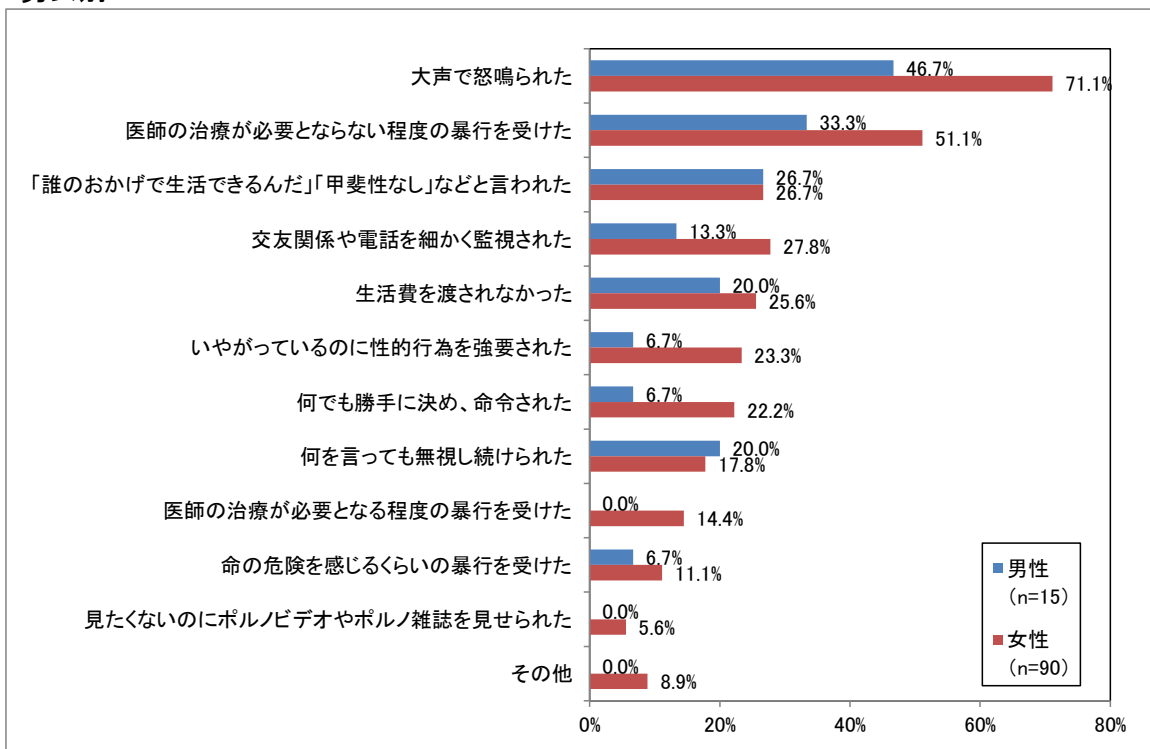
問26. 受けた暴力の内容を教えてください。（複数回答）

- ・「大声で怒鳴られた」の割合(65.5%)が第1位で、次いで「医師の治療が必要とならない程度の暴行を受けた」の割合(48.2%)が第2位となっている。
- ・男女別でも「全体」と概ね同じ状況にあるが、上記2項目について、女性が男性を大きく上回っている。

・全体



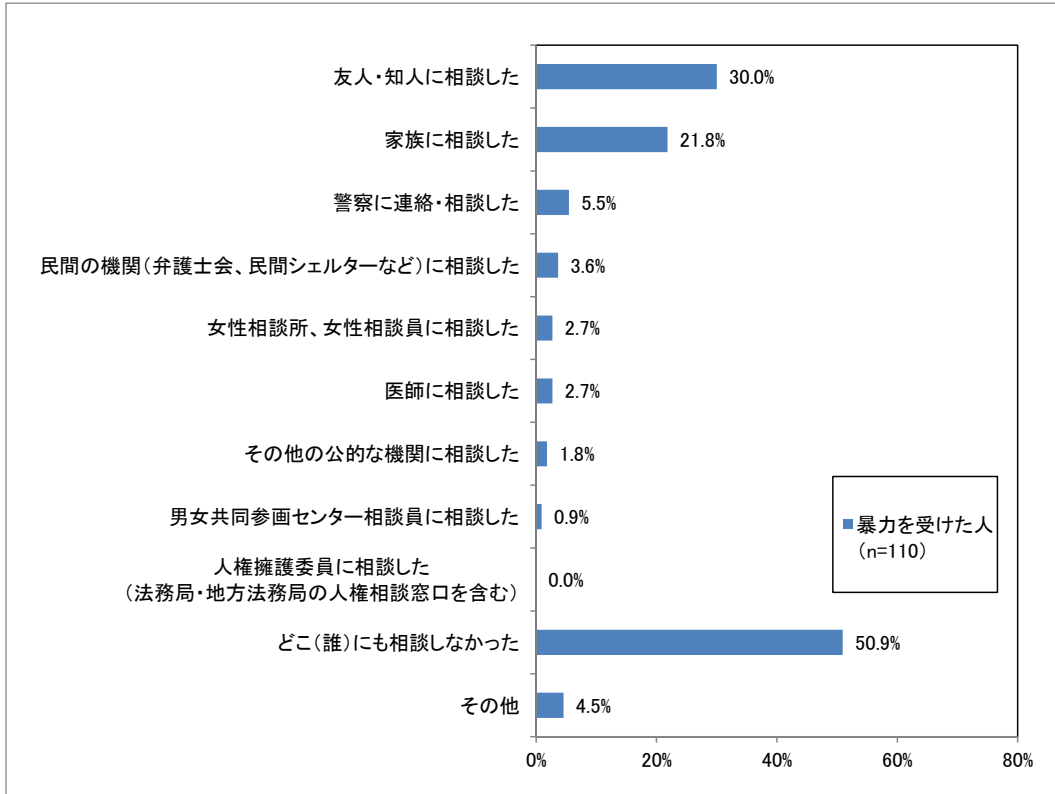
・男女別



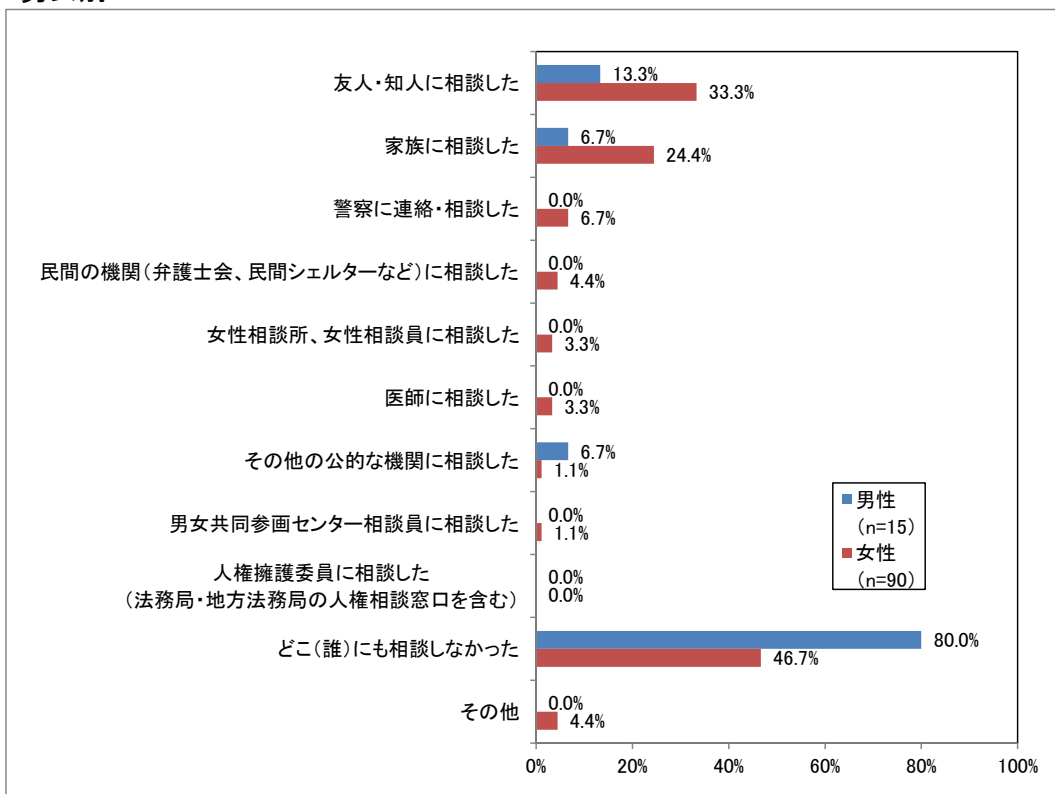
問27. あなたは、夫や妻、または恋人から暴力を受けた際、誰かに打ち明けたり、相談しましたか。(複数回答)

- ・「どこ(誰)にも相談しなかった」の割合(50.9%)が第1位で、第2位「友人・知人に相談した」(30.0%)、第3位「家族に相談した」(21.8%)となっている。
- ・男女別では、男性の80.0%が「どこ(誰)にも相談しなかった」と回答している。一方、女性では33.3%が「友人・知人に相談した」と回答している。

・全体



・男女別

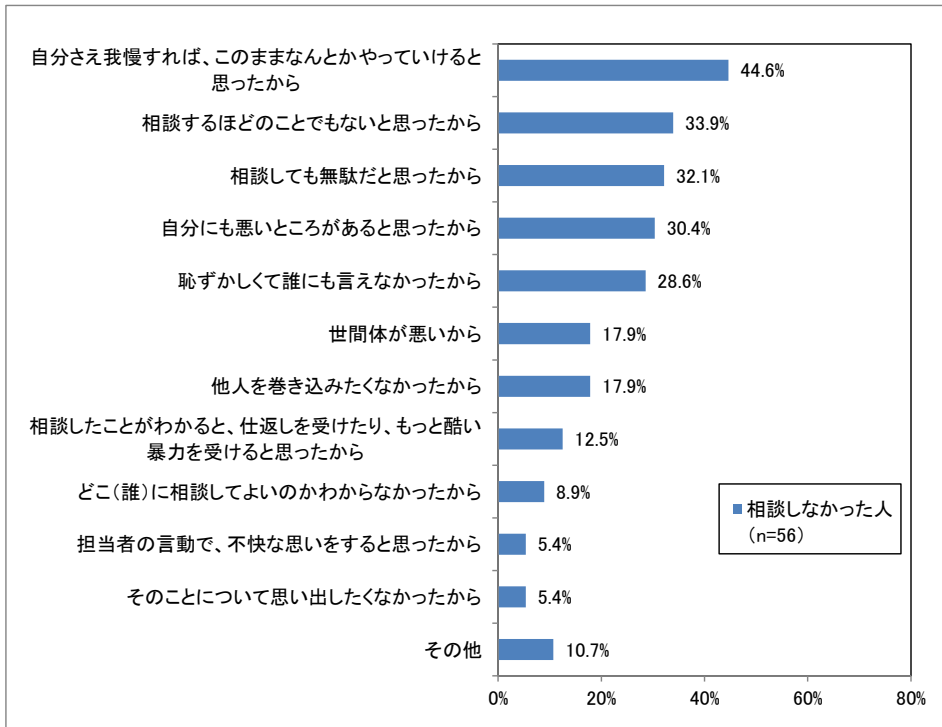


<問27で「10. どこ（誰）にも相談しなかった」と回答した人におたずねします。>

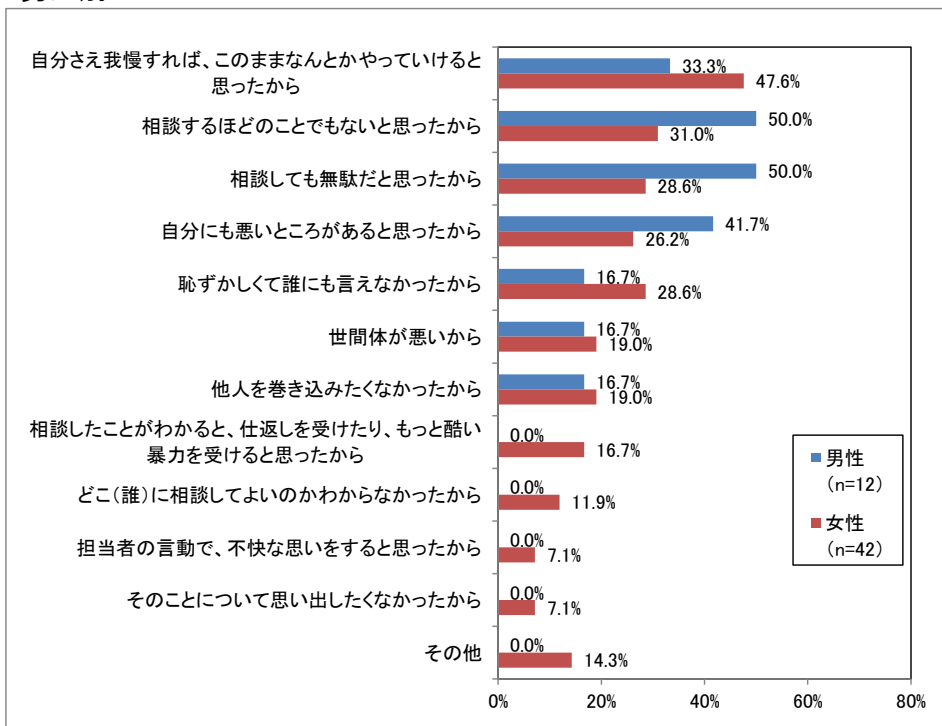
問28. どこ（誰）にも相談しなかった理由を教えてください。（複数回答）

- ・「自分さえ我慢すれば、このままなんとかやっていけると思ったから」の割合(44.6%)が第1位で、第2位「相談するほどのことでもないと思ったから」(33.9%)、第3位「相談しても無駄だと思ったから」(32.1%)となっている。
- ・男女別では、女性の第1位は「自分さえ我慢すれば、このままなんとかやっていけると思ったから」(47.6%)で、男性の第1位は「相談するほどのことでもないと思ったから」「相談しても無駄だと思ったから」(各50.0%)となっている。

・全体



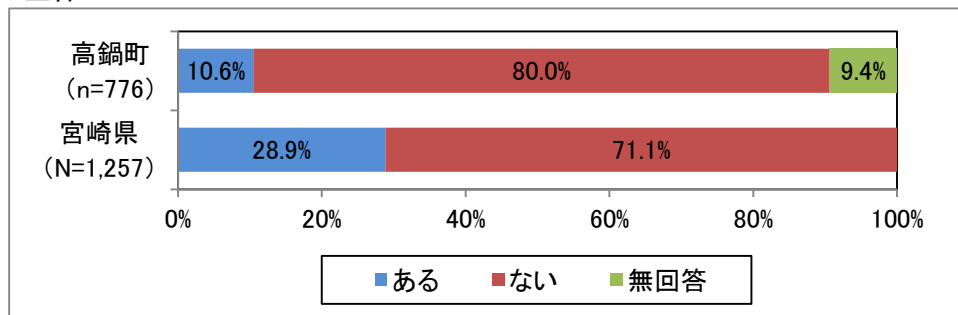
・男女別



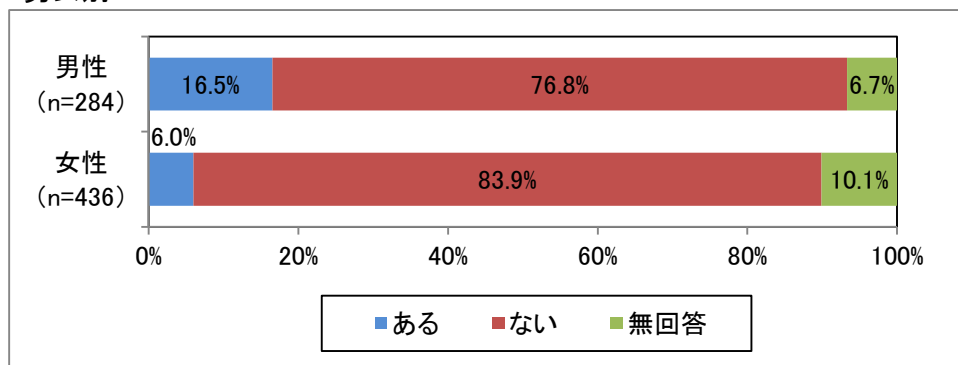
問29. あなたは、あなたの夫や妻、または恋人に暴力をふるったことがありますか。

- ・「ある」の割合が10.6%となっている。(宮崎県は28.9%:平成22年度)
- ・男女別では、男性の16.5%が「ある」と回答している。

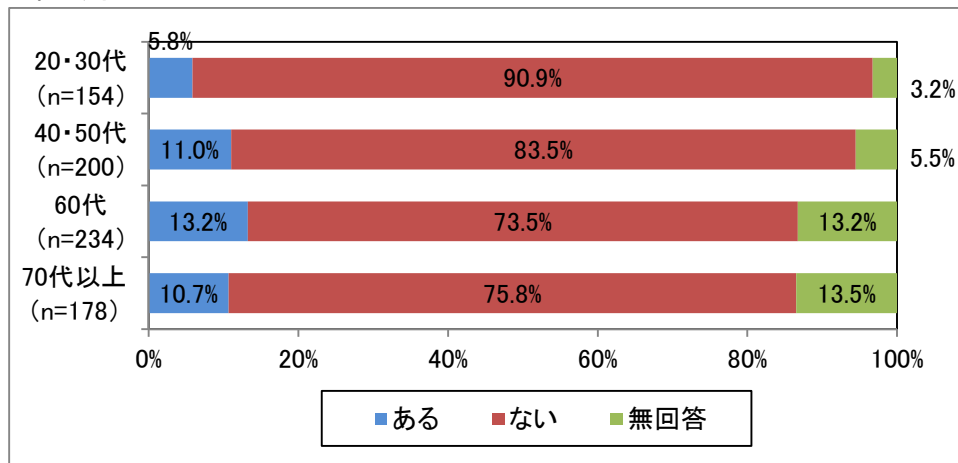
・全体



・男女別



・年代別

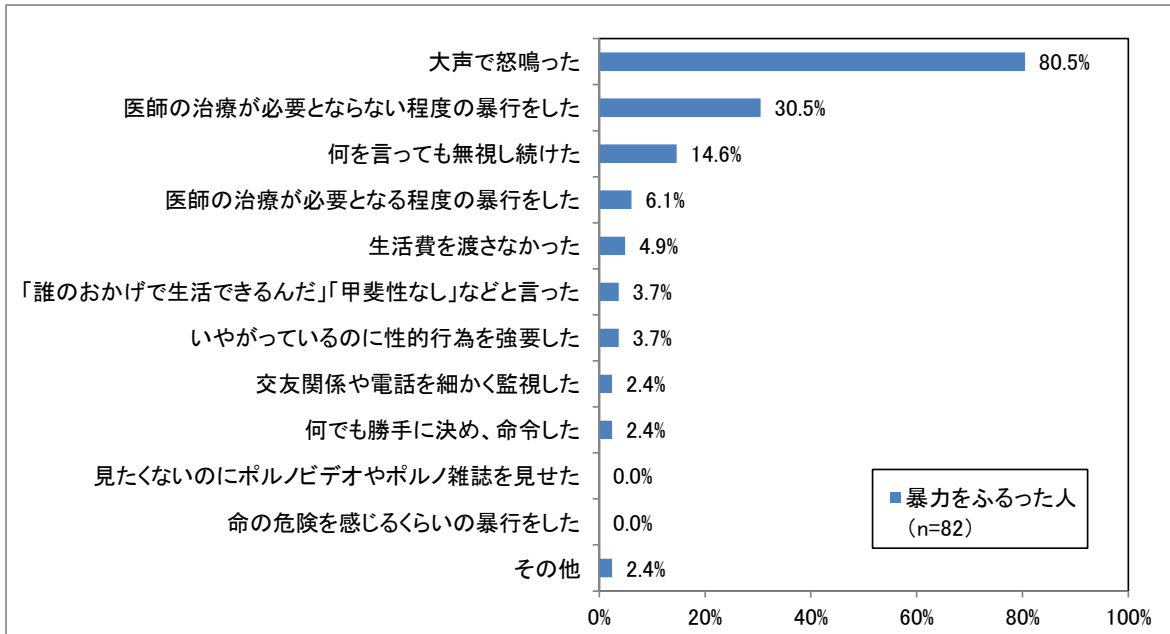


<暴力をふるったことがある人におたずねします>

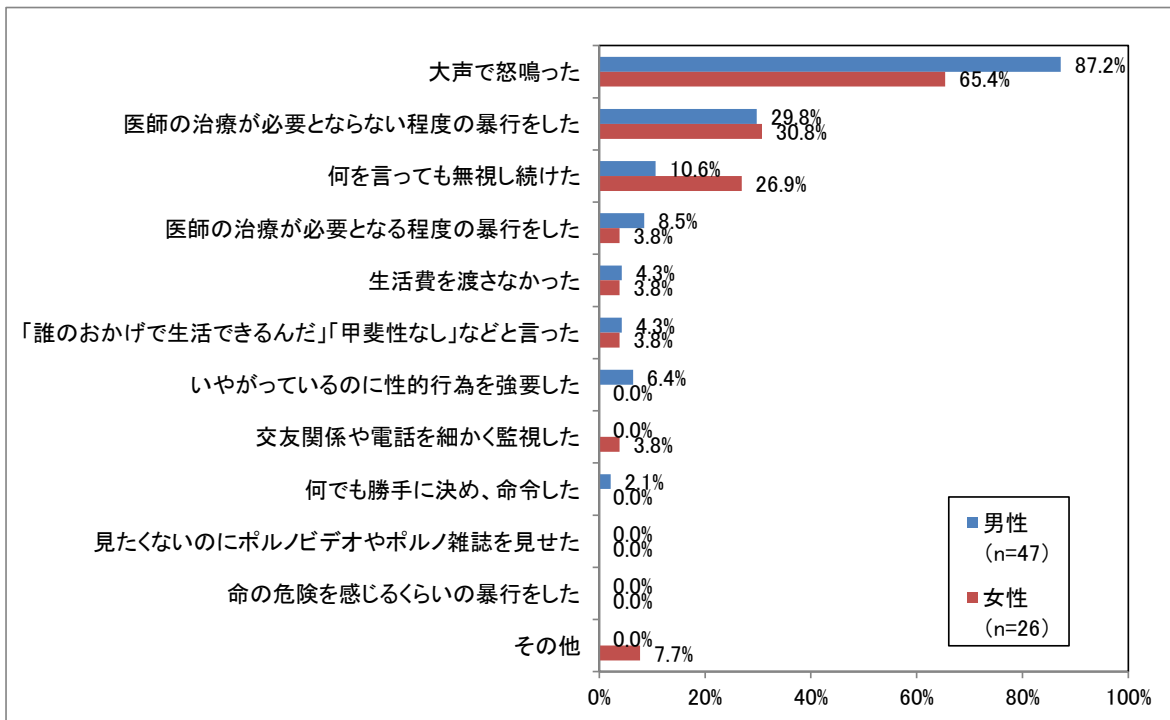
問30. ふるった暴力の内容を教えてください。(複数回答)

- ・「大声で怒鳴った」の割合が8割となっている。
- ・男女別では男性は「大声で怒鳴った」の割合が高いのに対し、女性は「何を言っても無視し続けた」の割合(26.9%)が男性(10.6%)より高くなっている。

・全体



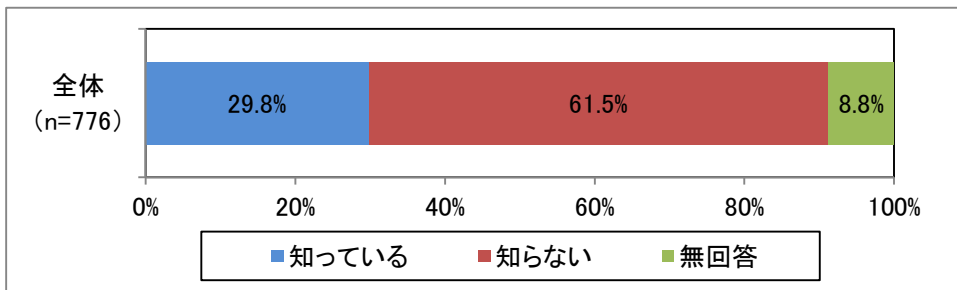
・男女別



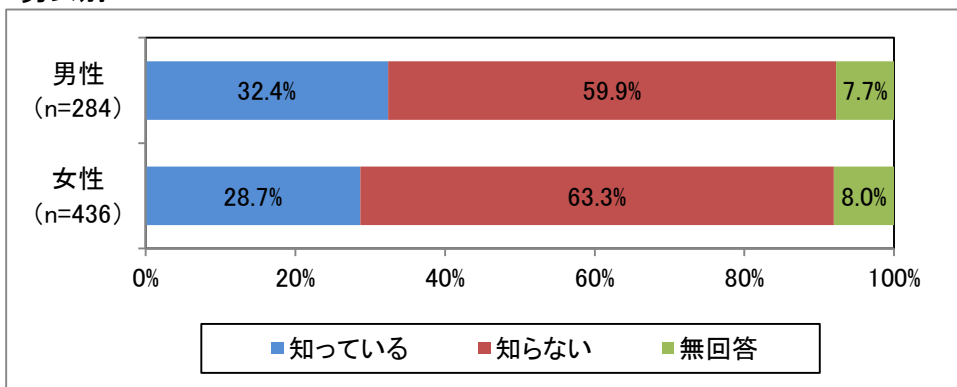
問31. あなたは、DV（ドメスティックバイオレンス）相談窓口を知っていますか。（高鍋町役場政策推進課、宮崎県女性相談所等）

- ・「知らない」の割合が約6割となっている。
- ・年代別では「20・30代」で7割が「知らない」と回答している。

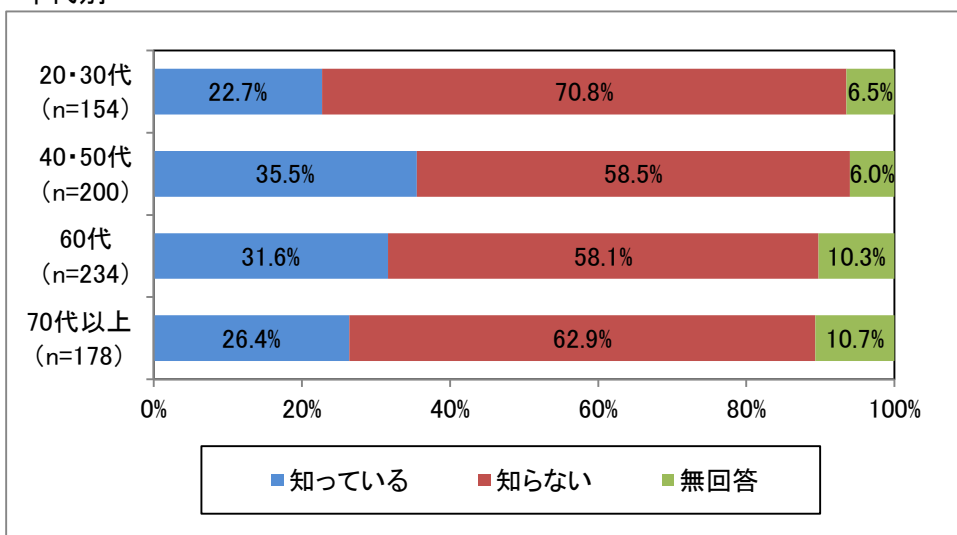
・全体



・男女別



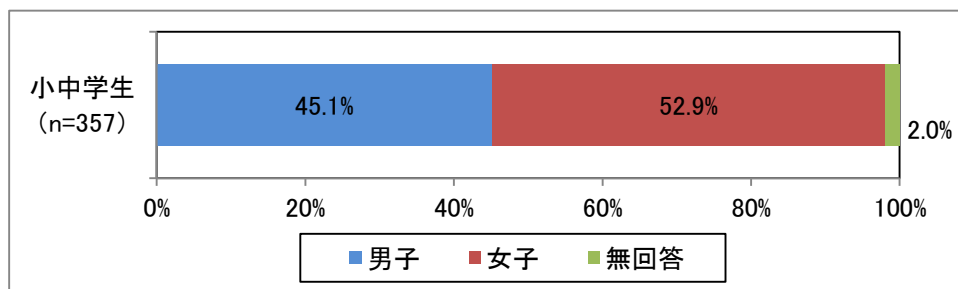
・年代別



第2章 小中学生アンケート調査結果

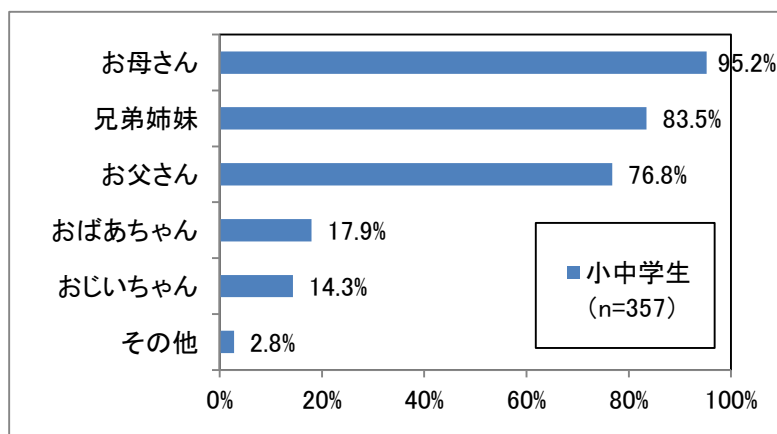
問1. あなたの性別を教えてください。

回答者のうち、女子は52.9%、男子は45.1%となっている。



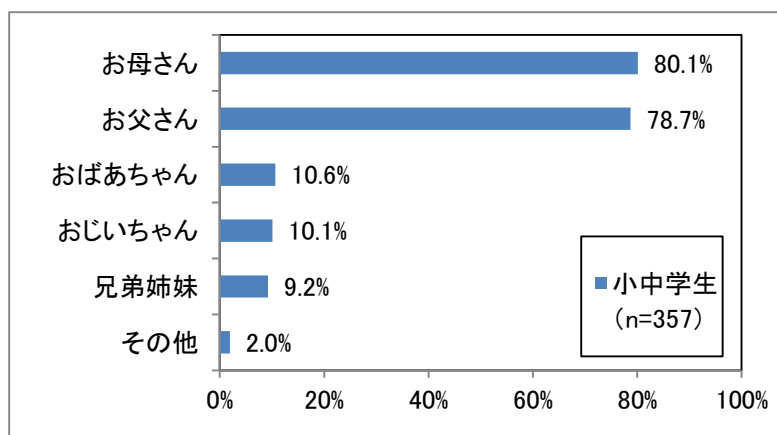
問2. あなたと一緒に住んでいる人を選んでください。(複数回答)

・「お母さん」の割合(95.2%)が第1位で、第2位「兄弟姉妹」(83.5%)、第3位「お父さん」(76.8%)となっている。



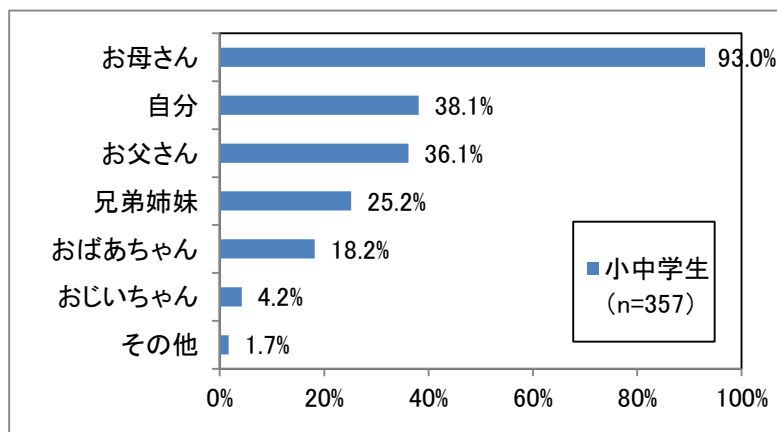
問3. あなたの家で働いている人は、だれですか。(複数回答)

・「お母さん」の割合(80.1%)が最も高く、次いで「お父さん」(78.7%)となっている。



問4. あなたの家で料理・掃除・洗濯などの家事は、だれがしていますか。(複数回答)

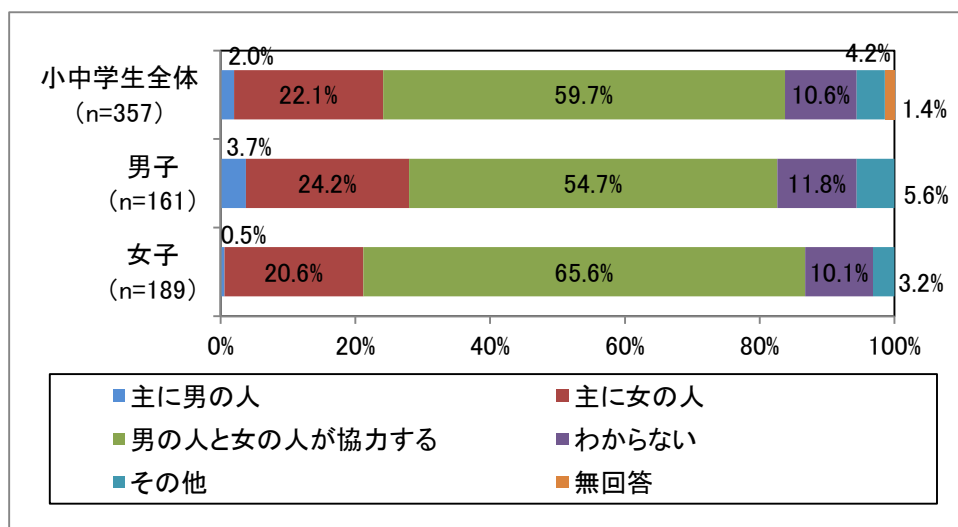
・「お母さん」の割合(93.0%)が最も高く、9割を超えている。



問5. あなたは、料理・掃除・洗濯などの家事は、だれがするのが一番良いと思いますか。

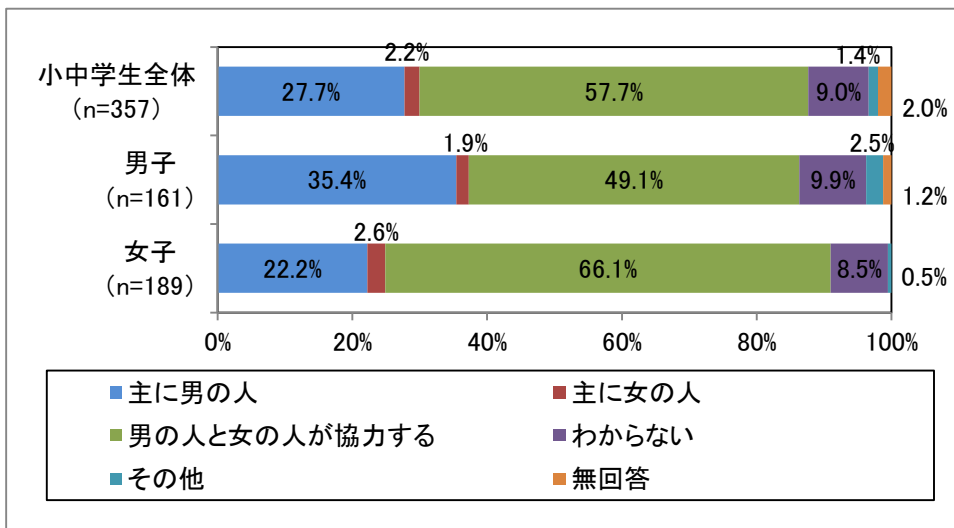
・「男の人と女の人が協力する」(59.7%)の割合が最も高い。

・男子と女子で比較すると、「男の人と女の人が協力する」の割合は男子(54.7%)よりも女子(65.6%)が10.9ポイント上回っている。



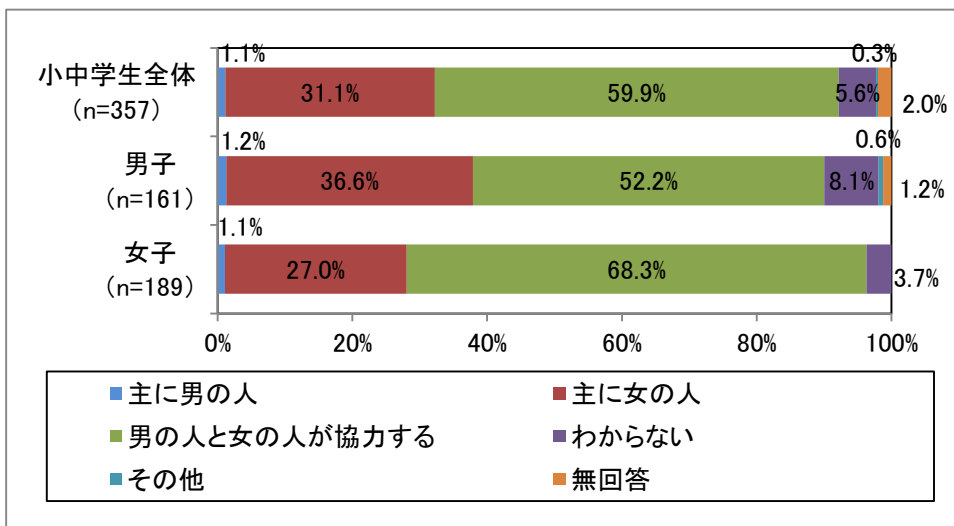
問6. あなたは、お金を稼ぐ仕事は、だれがするのが一番良いと思いますか。

- ・「男の人と女の人が協力する」の割合(57.7%)が最も高い。これを男子・女子別でみると、男子が49.1%、女子が66.1%で女子が17.0ポイント上回っている。



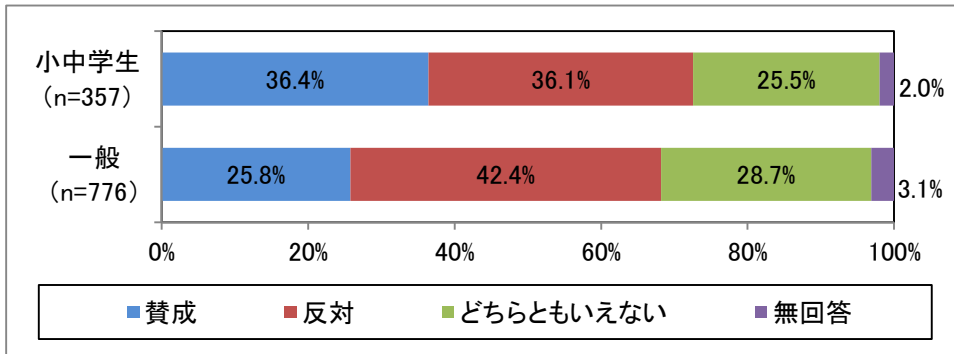
問7. あなたは、子どもが小さいときの子育ては、だれがするのが一番良いと思いますか。

- ・「男の人と女の人が協力する」の割合(59.9%)が最も高く、次いで「主に女の人」(31.1%)となっている。
- ・男子と女子で比較すると、「男の人と女の人が協力する」の割合は、男子(52.2%)よりも女子(68.3%)の方が16.1ポイント高くなっている。

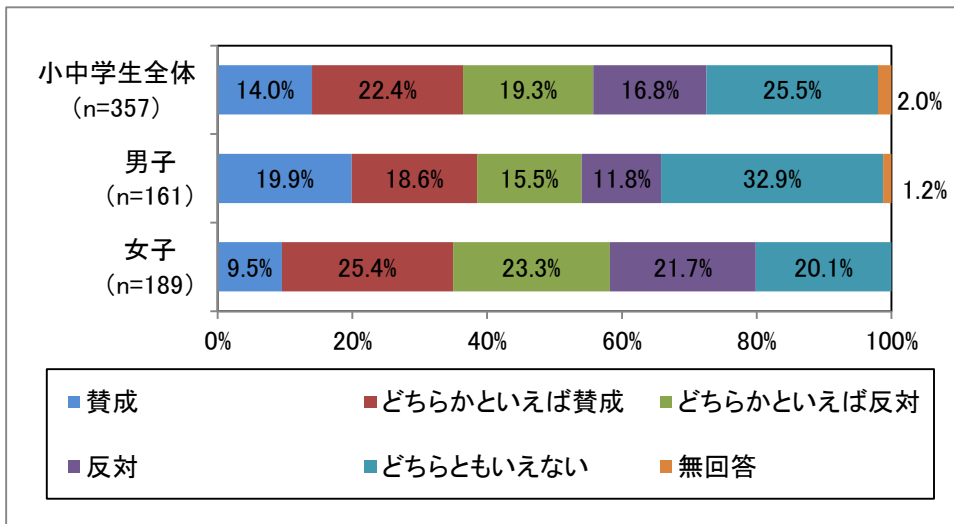


問8. 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどのように思いますか。

- ・小中学生は「賛成」(36.4%)と「反対」(36.1%)がほぼ同じ割合となっている。このことについて、一般の人と比較すると、「賛成」は小中学生の方が 10.6 ポイント上回っている。



※一般アンケート (P51再掲) : 「賛成」「反対」は、一般アンケートの「賛成」と「どちらかといえば賛成」、「反対」と「どちらかといえば反対」の合算としている



問9. あなたは「男女共同参画社会」という言葉を聞いたことがありますか。

- ・「聞いたことがない」の割合 (65.8%) が 3 分の 2 となっている。

